

SHIMOKAWADASHIMOHARA

# 下川田下原遺跡

SHIMOKAWADA HIRAI

# 下川田平井遺跡

一般国道17号(沼田バイパス)改築工事  
に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第1集

《遺物観察表》

1993

建設省  
群馬県教育委員会  
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団



下川田下原遺跡  
下川田平井遺跡

(遺物觀察表)





## 下川田下原遺跡

## 3号堀

挿図番号	図版番号	銭名	時代	初鋳年代	出土位置	径	重量	穿形	書体	背文
第16図-1	P L 19	紹聖元寶	北宋	1094年	底部	2.3	3.0	方形	篆書	

## 墓坑39土坑

挿図番号	図版番号	銭名	時代	初鋳年代	出土位置	径	重量	穿形	書体	背文
第17図-1	P L 19	開元通寶	唐	621年	埋土	2.4	3.0	方形	真書	
第17図-2	P L 19	熙寧元寶	北宋	1068年	埋土	2.4	3.0	方形	篆書	
第17図-3	L P 19	熙寧元寶	北宋	1068年	埋土	2.3	3.0	方形	篆書	
第17図-4	P L 19	元豊通寶	北宋	1078年	埋土	2.4	3.0	方形	篆書	
第17図-5	P L 19	元祐通寶	北宋	1093年	埋土	2.4	3.0	方形	篆書	
第17図-6	P L 19	聖宋通寶	北宋	1101年	埋土	2.4	3.0	方形	隸書	
第17図-7	P L 19	永樂通寶	明	1408年	埋土	2.5	3.0	方形	真書	

## 28号土坑

挿図番号 図版番号	器種	出土位置 残存部分	胎土	色調	器形・文様・縄文等の観察	備考
第22図-1 P L 19	深鉢	埋土 口縁部	黒色鈹物粒 を含む。	橙色	R L横位であるが、部分的に斜位に近くなり条が縦走する。器内面に横位の整形痕が残る。焼成堅緻。	
第22図-2 P L 19	深鉢	埋土 胴部	白色鈹物粒 を多く含む。	にぶい橙 橙色	粒線文が一条垂下する。器面には縦位の整形痕が認められる。他、文様はみられない。内面も整形痕良好。焼成堅緻。	

## 30号土坑

挿図番号 図版番号	器種	出土位置 残存部分	胎土	色調	器形・文様・縄文等の観察	備考
第22図-3	深鉢	口縁部	白色鈹物粒	橙色	口唇部がわずかに内傾し内側に面をもつ。	
第22図-4	深鉢	胴部	白色鈹物粒	にぶい橙 色	無文の胴部片。器内外面とも整形痕良好。平滑面を形成する。石英粒がやや目立つ。	
第22図-5	深鉢	胴部	白色鈹物粒	橙色	無文の胴部片。器内外面とも横位の整形痕が残り、平滑面を形する。	
第22図-6	深鉢	胴部	白色鈹物粒	橙色 黄橙色	無文の胴部片。横位の整形痕が残り、平滑面を形成する。1、3と同一固体とみられる。	
第22図-7	深鉢	底部	白色鈹物粒	橙色	器内の厚い底部片。文様は認められない。横位の整形痕が残り平滑面を形成する。底部端部にわずかに面をもつ。	
第22図-8	深鉢	体部	白色鈹物粒	黄橙色 明褐色	無文の胴部片。器内外面と整形痕良好であり、平滑面を形成する。2と同一固体とみられる。	

## 32号土坑

挿図番号 図版番号	器種	出土位置 残存部分	胎土	色調	器形・文様・縄文等の観察	備考
第23図-1 P L 19	深鉢	口縁部	黒色鈹物粒 を多く含む。	橙色	R L横位。縄文は口縁部からくわえるが施文はやや雑。わずかに波状口縁を呈すとみられ、口唇部は面をもつ。	
第23図-2	深鉢	口縁部	石英粒がやや目立つ。	明褐色	波状口縁部。器表面は大半が剝離しているが、口縁部からR L横位が加えられる。	
第23図-3 P L 19	深鉢	口縁部	砂粒を多く含む。	浅黄色	口縁無文破片。口唇部がわずかに外反する部分があるが、整形がやや不規則で一定しない。内面に整形痕が明瞭に残る。	
第23図-4 P L 19	深鉢	口縁部	石英粒がやや目立つ。	にぶい橙 色	波状口縁部。口縁端部からR Lが施されるが施文方位は斜位に近く、条は縦走する。口唇上部に面をもつ。	2と同一固体とみられる。
第23図-5 P L 19	深鉢	口縁部	黒色鈹物粒 石英粒	にぶい橙 色	波状口縁部。R L横位が口縁端部から加えられる。口唇上部には不規則ながら面が形成される。	1と同一固体とみられる。

下川田下原遺跡

挿図番号 図版番号	器種	出土位置 残存部分	胎土	色調	器形・文様・縄文等の観察	備考
第23図-6 P L 19	深鉢	口縁部	砂粒を多く含む。	にぶい黄 橙色	口縁は不規則な起伏をもつ。口縁に沿って丸頭状の刺突をもつ太隆線が1条巡る。内面には横・斜方向の整形痕が残る。	
第23図-7 P L 19	深鉢	口縁部	砂粒を多く含む。	にぶい黄 橙色	口唇部は丸みをもつ。丸頭状の刺突をもった隆起が口縁に沿って1条巡る。内面は横位の整形痕が明確に残る。	7と同一固体とみられる。
第24図-8 P L 19	深鉢	口縁部	砂粒を多く含む。	浅黄色	口縁部は不規則で起伏をもつ。丸頭状刺突をもった太隆線が口縁下に巡る。内面には横・縦位の整形痕が明確に残る。	
第24図-9	深鉢	胴部	砂粒を多く含む。	浅黄色	無文の胴部片。器内外面に整形痕が明確に残る。	
第24図-10	深鉢	胴部	砂粒を多く含む。	浅黄色	無文の胴部片。器内外面に整形痕が明確に残る。	
第24図-11 P L 19	深鉢	胴部	砂粒を多く含む。	浅黄色	無文の胴部片。器内外面に擦痕状の整形痕が明確に残る。	
第24図-12 P L 19	深鉢	胴部	砂粒を多く含む。	浅黄色	無文の胴部片。器内外面に擦痕状の縦位の整形痕が明確に残る。	
第24図-13 P L 19	深鉢	胴部	砂粒を多く含む。	明黄褐色	無文の胴部片。器内外面に擦痕状の縦位の整形痕が明確に残る。	
第24図-14 P L 19	深鉢	胴部	砂粒を多く含む。	明黄褐色	無文の胴部片。13と同様に整形痕が明確に残る。	13と同一固体とみられる。
第24図-15 P L 19	深鉢	胴部	砂粒を多く含む。	にぶい黄 橙色	内外面に整形痕が残る。砂粒の動きからヘラ状工具を用いているとみられる。	
第24図-16 P L 19	深鉢	胴部	砂粒を多く含む。	黄褐色	無文の胴部片。整形による砂粒の動きが明確にみとめられ、ヘラ状工具による削りと観察される。	

69号土坑

挿図番号 図版番号	器種	出土位置 残存部分	胎土	色調	器形・文様・縄文等の観察	備考
第32図-1 P L 19	深鉢	胴部	砂粒(白色 鉱物粒)	明赤褐色	横走・斜行沈線文により文様帯を構成し、部分的にD字形爪形文を横位に加える。焼成堅微で成形も良好である。	

遺構外出土石器

挿図番号 図版番号	種別	出土位置	①最大長②最大幅 ③厚み ④重量	石材	製作技法等の特徴	備考
40-1 P L 22	打製石斧		①11.5 ②4.7 ③2.5 ④158.9	黒色頁岩	短冊形	
40-2 P L 22	打製石斧	A Y-26	①9.2 ②4.8 ③1.8 ④66.3	黒色頁岩	撥形。礫面残存。	
40-3 P L 22	打製石斧	A U-29	①11.4 ②4.5 ③1.7 ④108.6	黒色頁岩	短冊形。礫面残存。	
40-4 P L 22	打製石斧		①13.1 ②6.0 ③2.65 ④30.1	黒色頁岩	撥形。礫面残存。	
40-5 P L 22	打製石斧	B I-30	①11.6 ②5.2 ③1.3 ④87.6	黒色頁岩	短冊形。	
40-6 P L 22	打製石斧		①(9.7) ②7.5 ③2.1 ④230.0	輝緑岩	短冊形。礫面残存。刃部欠損。	
40-7 P L 22	打製石斧		①(7.0) ②4.5 ③1.9 ④69.8	黒色頁岩	短冊形。礫面残存。刃部欠損。	
40-8 P L 22	打製石斧		①(6.0) ②5.2 ③1.9 ④70.3	黒色頁岩	短冊形。礫面残存。頭部欠損。	
40-9 P L 22	打製石斧	A W-25	①(8.3) ②4.5 ③2.0 ④108.4	灰色安山岩	短冊形。礫面残存。刃部欠損。	
40-10 P L 22	削器		①(8.6) ②5.5 ③2.0 ④100.8	灰色安山岩	横長剥片素材。礫面残存。端縁の両面に加工痕が認められる。	
41-11 P L 22	打製石斧		①11.0 ②8.0 ③1.7 ④164.2	黒色頁岩	分銅形。礫面残存。	
41-12 P L 22	打製石斧		①9.6 ②6.7 ③2.4 ④147.6	黒色頁岩	分銅形。礫面残存。	
41-13 P L 22	打製石斧		①13.4 ②7.3 ③3.4 ④342.1	黒色頁岩	分銅形。頭部の一部欠損。	

挿図番号 図版番号	種別	出土位置	①最大長②最大幅 ③厚み ④重量	石 材	製 作 技 法 等 の 特 徴	備 考
41-14 P L 22	打製石斧		①10.6 ②5.1 ③1.2 ④66.0	黒色頁岩	分銅形。礫面残存。	
41-15 P L 23	打製石斧		①10.15 ②7.2 ③1.7 ④142.2	黒色頁岩	分銅形。再生品か。	
41-16 P L 23	打製石斧	A U - 32	①18.9 ②13.5 ③4.2 ④1216.4	黒色頁岩	分割礫素材。礫面残存。 刃部の一部を使用により欠損。石鉄？	
42-17 P L 23	打製石斧		①10.5 ②7.7 ③3.1 ④249.9	黒色頁岩	撥形。礫面残存。	
42-18 P L 23	打製石斧		①13.2 ②5.8 ③2.9 ④209.4	黒色頁岩	撥形。	
42-19 P L 23	打製石斧	A R - 26	①(9.7) ②7.3 ③1.5 ④158.4	黒色頁岩	分銅形。	
42-20 P L 23	打製石斧		①9.45 ②5.0 ③1.0 ④40.7	黒色頁岩	撥形。礫面残存。刃部の一部欠損。	
42-21 P L 23	打製石斧		①12.65 ②9.7 ③2.4 ④256.2	黒色頁岩	撥形。礫面残存。	
42-22 P L 23	打製石斧		①9.2 ②5.4 ③2.3 ④104.4	黒色頁岩	撥形。礫面残存。刃部の一部欠損。	
42-23 P L 23	打製石斧		①(8.05) ②5.2 ③1.55 ④56.7	黒色頁岩	撥形。礫面残存。頭部欠損。	
42-24 P L 23	打製石斧		①14.95 ②8.6 ③2.9 ④345.7	黒色頁岩	撥形。礫面残存。	
43-25 P L 23	打製石斧		①11.5 ②5.6 ③3.0 ④170.4	黒色頁岩	撥形。	
43-26 P L 24	打製石斧		①10.1 ②7.4 ③2.4 ④156.0	黒色頁岩	撥形。礫面残存。	
43-27 P L 24	打製石斧		①10.0 ②6.1 ③1.1 ④79.9	黒色頁岩	撥形。	
43-28 P L 24	打製石斧		①(8.5) ②6.4 ③1.3 ④79.5	黒色頁岩	撥形。礫面残存。頭部欠損。	
43-29 P L 24	打製石斧		①(8.1) ②4.7 ③2.3 ④83.5	黒色頁岩	撥形。刃部欠損。	
43-30 P L 24	石匙		①9.7 ②3.5 ③1.1 ④37.7	黒色頁岩	縦長剥片素材。縦形。	
43-31 P L 24	打製石斧		①19.0 ②9.5 ③3.9 ④729.7	黒色頁岩	撥形。	
43-32 P L 24	加工痕ある 剥片		①3.8 ②6.9 ③1.2 ④23.9	珪質頁岩	横長剥片素材。 端縁に加工痕が認められる。	
43-33 P L 24	打製石斧		①(7.5) ②6.5 ③1.9 ④117.1	黒色頁岩	短冊形か撥形。 頭部欠損。	
44-34 P L 24	打製石斧		①10.05 ②6.95 ③1.1 ④80.2	黒色頁岩	撥形。頭部は再生か。	
44-35 P L 24	打製石斧		①7.4 ②4.9 ③2.2 ④87.6	黒色頁岩	撥形。頭部欠損。	
44-36 P L 24	打製石斧		①6.5 ②5.25 ③1.8 ④60.8	黒色安山岩	短冊形か撥形。刃部欠損。	
44-37 P L 24	打製石斧		①6.8 ②4.2 ③0.7 ④34.6	黒色頁岩	撥形。頭部の一部欠損。(調査時)	
44-38 P L 24	打製石斧		①9.0 ②6.3 ③2.2 ④137.4	黒色頁岩	撥形。頭部欠損。	
44-39 P L 24	削器	B F - 34	①7.2 ②7.4 ③1.3 ④89.3	黒色頁岩	横長剥片素材。 礫面残存。	
44-40 P L 24	削器	A T - 27	①8.2 ②7.0 ③1.4 ④83.9	黒色頁岩	横長剥片素材。 表裏両面の周縁に加工痕が認められる。	
44-41 P L 25	加工痕ある 剥片		①12.0 ②5.9 ③1.5 ④105.5	黒色頁岩	縦長剥片素材。礫面残存。 一側縁に加工痕が認められる。	
44-42 P L 25	打製石斧		①9.7 ②4.6 ③1.9 ④95.5	黒色頁岩	短冊形。	
45-43 P L 25	打製石斧	A V - 31	①10.7 ②4.7 ③1.6 ④90.8	黒色頁岩	短冊形。	

下川田下原遺跡

挿図番号 図版番号	種別	出土位置	①最大長②最大幅 ③厚み ④重量	石材	製作技法等の特徴	備考
45-44 P L 25	削器		①8.7 ②4.2 ③1.2 ④38.6	黒色頁岩	縦長剥片素材。 一側縁の表裏両面に加工痕が認められる。	
45-45 P L 25	削器		①12.6 ②10.4 ③2.0 ④256.4	黒色頁岩	縦長剥片素材。礫面残存。 表裏両面の周縁に加工痕が認められる。	
45-46 P L 25	打製石斧		①10.4 ②5.9 ③1.5 ④103.2	黒色頁岩	撥形。礫面残存。	
45-47 P L 25	石核	B J -30	①10.8 ②5.4 ③4.4 ④236.6	黒色頁岩	大型剥片素材。	
45-48 P L 25	石核		①18.7 ②12.5 ③4.5 ④939.6	黒色頁岩	分割礫素材。礫面残存。 表裏両面の中心に向けて剥離を加えている。	
45-49 P L 25	打製石斧		①9.7 ②6.0 ③1.9 ④124.1	黒色頁岩	撥形。礫面残存。	
46-50 P L 25	打製石斧	A U -29	①7.3 ②7.4 ③2.1 ④133.1	黒色頁岩	撥形。刃部欠損。	
46-51 P L 25	打製石斧		①9.6 ②7.3 ③2.4 ④183.0	黒色頁岩	短冊形。刃部欠損。	
46-52 P L 26	石核		①9.4 ②7.9 ③4.1 ④287.6	黒色頁岩	大型剥片素材。 周縁からの求心的剥離がほどこされている。	
46-53 P L 26	打製石斧		①(6.0) ②5.5 ③2.4 ④62.1	黒色頁岩	撥形。刃部欠損。	
46-54 P L 26	石核		①12.8 ②9.5 ③3.0 ④366.6	黒色頁岩	分割礫素材。礫面残存。 周縁からの求心的剥離がほどこされている。	
46-55 P L 26	打製石斧		①5.9 ②4.1 ③1.6 ④32.9	黒色頁岩	短冊形か撥形。刃部欠損。	
46-56 P L 26	打製石斧	B K -31	①(6.0) ②3.8 ③1.6 ④40.3	黒色頁岩	短冊形。刃部欠損。	
46-57 P L 26	削器		①13.1 ②15.5 ③1.25 ④341.9	細粒安山岩	横長剥片素材。	
47-58 P L 26	石核		①9.1 ②12.2 ③2.2 ④259.4	黒色頁岩	分割礫素材。礫面残存。 周縁から中心に向けて剥離を行っている。	
47-59 P L 26	打製石斧		①7.8 ②5.3 ③1.0 ④57.9	黒色頁岩	撥形。礫面残存。刃部欠損。	
47-60 P L 26	加工痕ある 剥片	A Y -31	①7.45 ②9.9 ③1.3 ④90.2	黒色頁岩	横長剥片素材。 端縁に加工痕が認められる。	
47-61 P L 26	削器		①6.7 ②4.3 ③1.5 ④38.6	黒色頁岩	縦長剥片素材。 礫面残存。	
47-62 P L 26	打製石斧		①10.1 ②8.2 ③3.15 ④246.8	黒色頁岩	撥形。礫面残存。再生品か?	
47-63 P L 26	使用痕ある 剥片		①7.5 ②3.3 ③1.2 ④19.1	黒色頁岩	縦長剥片素材。 一側縁に使用痕が認められる。	
47-64 P L 26	打製石斧	B I -34	①(4.7) ②4.7 ③0.8 ④23.5	黒色頁岩	短冊形か撥形。刃部欠損。	
47-65 P L 26	使用痕ある 剥片		①3.4 ②2.5 ③0.4 ④4.3	黒色頁岩	横長剥片素材。折断。 端縁に使用痕が認められる。	
47-66 P L 27	加工痕ある 剥片	B I -32	①11.7 ②6.8 ③2.4 ④2.4	黒色頁岩	縦長剥片素材。礫面残存。 一側縁に加工痕が認められる。	
47-67 P L 26	使用痕ある 剥片		①16.5 ②4.2 ③2.55 ④138.7	黒色頁岩	縦長剥片素材。礫面残存。 一側縁に使用痕が認められる。	
48-68 P L 27	石核	V Y -89	①12.5 ②8.0 ③2.9 ④312.1	黒色頁岩 (化石明瞭)	分割礫素材。礫面残存。	
48-69 P L 26	加工痕ある 剥片	B W -76- B Y -76	①11.6 ②7.7 ③2.2 ④175.0	黒色頁岩	縦長剥片素材。 一側縁に加工痕が認められる。	
48-70 P L 27	石核		①19.8 ②15.7 ③8.4 ④2720.0	黒色頁岩	分割礫素材。礫面残存。 周縁からの求心的剥離がほどこされている。	
48-71 P L 27	石核		①15.7 ②9.4 ③4.0 ④631.5	黒色頁岩	分割礫素材。礫面残存。	
48-72 P L 27	石核		①17.3 ②9.4 ③6.1 ④1126.2	黒色頁岩	分割礫素材。礫面残存。 周縁からの求心的剥離がほどこされている。	
49-73 P L 27	石核		①12.3 ②10.3 ③5.5 ④759.6	黒色頁岩	礫素材。礫面残存。表裏両面の周縁から中央に向けて剥離を加えている。	

挿図番号 図版番号	種別	出土位置	①最大長②最大幅 ③厚み ④重量	石 材	製 作 技 法 等 の 特 徴	備 考
49-74 P L 28	石核		①15.9 ②10.5 ③5.3 ④1020.2	黒色頁岩	分割礫素材。礫面残存。 周縁から中心に向けて剥離を加えている。	
49-75 P L 28	石核		①10.0 ②9.9 ③6.5 ④718.6	黒色安山岩	礫素材。礫面残存。 周縁から中心に向けて剥離を加えている。	
49-76 P L 28	石核		①10.4 ②4.4 ③4.1 ④303.8	黒色頁岩	分割礫素材。 礫面残存。	
49-77 P L 28	石核		①9.5 ②17.4 ③3.6 ④590.8	黒色頁岩	礫面残存。周縁から中央に向けて剥離を加えている。あるいは槍先尖頭器の未製品か。	
50-78 P L 28	石核		①10.4 ②9.6 ③3.8 ④381.0	黒色頁岩	礫素材。 礫面残存。	
50-79 P L 28	敲石		①(14.7)②4.25 ③3.2 ④321.1	変玄武岩	両端に敲石による剥離痕が認められる。	
50-80 P L 28	敲石		①7.8 ②3.8 ③1.7 ④86.3	黒色頁岩	一端に敲打による剥離痕が認められる。	
50-81 P L 28	石核		①17.2 ②11.5 ③4.8 ④981.5	黒色頁岩	礫素材。 礫面残存。あるいは槍先形尖頭器の未製品か。	
50-82 P L 28	石製品		①(9.5) ②3.2 ③2.5 ④64.8	白色凝灰岩	用途は不明。何かを模したものか。穿孔は一方 向からである。	

# 下川田平井遺跡

## 1号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	法量 (cm)	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第53図 -1 P L 103	弥生 鉢	完形	①11.6 ②3.5 ④5.5	①細砂粒(石英、長石) ②酸化焰 普通 ③淡い黄色	内外面とも研磨。	
第53図 -2	弥生 蓋?	鈕部	①鈕径7.0 ② ④	①粗砂粒(石英) ②酸化焰 普通 ③赤色	外面 ヘラ削りか。	
第53図 -3 P L 103	弥生 蓋	1/2	①14.0 ②鈕径3.8 ④4.5	①細砂粒(石英、長石) ②酸化焰 普通 ③にぶい橙色	外面 天井部に口縁部から鈕部に向かっての刷毛目、単位不鮮明で鈕接合部に撫で。 内面 中心部が研磨、口縁部が刷毛目。	
第53図 -4	弥生 小型甕	口縁部片	① ② ④	①細砂粒(雲母) ②酸化焰 普通 ③にぶい橙色	口縁部は弱い折り返し。外面 口唇部・口縁部に波状文(単位不明)。 内面 ヘラ磨き。	
第53図 -5 P L 103	弥生 甕	口縁部～ 胴部上位	①15.6 ② ④	①粗砂粒(雲母) ②酸化焰 普通 ③橙色	外面 口縁部から胴部にかけて刷毛目、口縁部中位には横撫で。 内面 口縁部が刷毛目、胴部はヘラ撫で。	
第53図 -6 P L 103	弥生 甕	口縁部～ 胴部	①17.8 ② ④	①粗砂粒(石英、雲母) ②酸化焰 普通 ③にぶい橙色	外面 口縁部が横方向の刷毛目後、口唇部から頸部にかけて刷毛目、胴部上位は横方向の刷毛目、それ以下は縦方向の刷毛目後、ヘラ削り。 内面 口縁部・胴部ともヘラ撫で。	
第53図 -7	弥生 甕	掘り方 頸部片	① ② ④	①粗砂粒(石英、雲母) ②酸化焰 普通 ③にぶい黄橙色	外面 縦方向の刷毛目。 内面 ヘラ撫で。	
第53図 -8	弥生 甕	口縁部片	① ② ④	①細砂粒 ②酸化焰 普通 ③橙色	外面 口縁部横撫で、頸部に刷毛目がみられる。	
第53図 -9	弥生 甕	口縁部片	① ② ④	①粗砂粒(雲母、円礫φ2～3mm) ②酸化焰 ③にぶい黄橙色	外面 口唇部より下は波状文(5+a)を6段。	
第53図 -10	弥生 甕	口縁部片	① ② ④	①細砂粒(石英) ②酸化焰 普通 ③にぶい黄褐色	外面 頸部に簾状文(単位不明)を施した後、口縁部の口唇部下より波状文(4+a)を5段。	
第53図 -11	弥生 甕	頸部～ 胴部中位	① ② ④	①細砂粒(長石、石英) ②酸化焰 普通 ③にぶい橙色	外面 頸部から胴部上位にかけては、波状文(4+a)、胴部中位はヘラ磨き。	
第53図 -12	弥生 甕	胴部下位 大破片	① ② ④	①細砂粒 ②酸化焰 普通 ③外面 にぶい橙色	粘土紐輪積成形。外面 ヘラ削り。 内面 櫛状工具による整形。	
挿図番号 図版番号	種別	出土位置	①最大長②最大幅 ③厚み ④重量	石 材	製作技法等の特徴	備考
54-13 P L 103	調整痕ある 剥片		①2.3 ②1.5 ③0.4 ④1.6	黒色頁岩		
54-14 P L 103	加工痕ある 剥片		①2.6 ②1.5 ③0.5 ④1.4	黒色頁岩	不定形剥片素材。 周縁に加工痕が認められる。	
54-15 P L 103	使用痕ある 剥片		①3.0 ②1.5 ③0.55 ④4.2	黒色安山岩	縦長剥片素材。	
54-16 P L 103	使用痕ある 剥片		①2.8 ②2.5 ③0.4 ④2.3	黒色頁岩	不定形剥片素材。 一側縁に僅かに使用痕が認められる。	
54-17 P L 103	加工痕ある 剥片		①3.0 ②2.1 ③0.5 ④4.6	黒色頁岩	不定形剥片素材。 一側縁に僅かに加工痕が認められる。	
54-18 P L 103	加工痕ある 剥片		①2.7 ②2.4 ③0.25 ④1.8	黒色頁岩	不定形剥片素材。 端縁に加工痕が認められる。	
54-19 P L 103	加工痕ある 剥片	床面直上	①3.4 ②2.3 ③0.9 ④5.8	黒色頁岩	不定形剥片素材。 一側縁に加工痕が認められる。	

挿図番号 図版番号	種別	出土位置	①最大長②最大幅 ③厚み ④重量	石 材	製作技法等の特徴	備考
54-20 P L 103	加工痕ある 剥片		①3.4 ②2.1 ③0.6 ④5.3	黒色頁岩	縦長剥片素材。 一側縁に加工痕が認められる。	
54-21 P L 103	使用痕ある 剥片		①2.9 ②3.3 ③0.4 ④2.5	黒色安山岩	不定形剥片素材。 一側縁に使用痕が認められる。	
54-22 P L 103	加工痕ある 剥片		①3.4 ②2.2 ③0.5 ④4.0	黒色頁岩	不定形剥片素材。 二側縁に加工痕が認められる。	
54-23 P L 103	使用痕ある 剥片		①2.9 ②3.6 ③0.6 ④5.3	黒色頁岩	不定形剥片素材。 一側縁に使用痕が認められる。	
54-24 P L 103	加工痕ある 剥片		①4.7 ②2.4 ③0.55 ④6.9	黒色頁岩	縦長剥片素材。 一側縁に僅か加工痕が認められる。	
54-25 P L 103	加工痕ある 剥片	床面直上	①5.1 ②4.5 ③1.3 ④35.0	黒色頁岩	縦長剥片素材。打面部を欠損。 両側縁に加工痕が認められる。	
54-26 P L 103	使用痕ある 剥片		①4.1 ②5.1 ③1.2 ④23.5	黒色頁岩	不定形剥片素材。 端縁に使用痕が認められる。	
54-27 P L 103	加工痕ある 剥片		①4.9 ②2.9 ③0.4 ④6.5	黒色頁岩	縦長剥片素材。 端縁に加工痕が認められる。	
54-28 P L 103	加工痕ある 剥片		①6.3 ②3.4 ③0.65 ④15.7	黒色頁岩	縦長剥片素材。 両側縁に加工痕が認められる。	
54-29 P L 103	加工痕ある 剥片		①7.6 ②4.1 ③0.8 ④25.3	黒色頁岩	縦長剥片素材。 一側縁に加工痕が認められる。	
54-30 P L 103	加工痕ある 剥片		①4.2 ②2.7 ③0.5 ④6.3	黒色頁岩	不定形剥片素材。 一側縁と端縁に加工痕が認められる。	
54-31 P L 103	使用痕ある 剥片		①7.1 ②3.9 ③1.0 ④23.6	黒色頁岩	縦長剥片素材。礫面残存。 一側縁に使用痕が認められる。	
54-32 P L 103	加工痕ある 剥片		①6.5 ②5.2 ③0.8 ④27.6	黒色頁岩	縦長剥片素材。 両側縁に加工痕が認められる。	
54-33 P L 103	加工痕ある 剥片		①3.6 ②4.1 ③0.7 ④10.9	黒色安山岩	縦長剥片素材。 両側縁に加工痕が認められる。	
54-34 P L 103	加工痕ある 剥片		①6.9 ②5.5 ③0.7 ④22.5	黒色頁岩	縦長剥片素材。 一側縁に加工痕が認められる。	
55-35 P L 103	使用痕ある 剥片		①6.7 ②7.5 ③1.4 ④48.1	黒色頁岩	横長剥片素材。 両側縁に使用痕が認められる。	
55-36 P L 103	加工痕ある 剥片		①7.1 ②8.6 ③1.1 ④57.2	黒色頁岩	不定形剥片素材。 端縁に僅かに加工痕が認められる。	
55-37 P L 103	加工痕ある 剥片		①7.05 ②(8.2) ③1.2 ④56.8	黒色頁岩	不定形剥片素材。 二側縁及び端縁に加工痕が認められる。	
55-38 P L 103	敲石	床面直上	①16.1 ②6.0 ③3.1 ④343.2	変質安山岩	分割礫素材。 一縁に敲打による剥片痕が認められる。	
55-39 P L 103	石皿		①14.7 ②14.3 ③4.65 ④1310.0	石英閃緑岩		

## 2号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	法量 (cm)	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第58図 - 1	弥生 鉢	口縁部片	①11.0 ② ④	①細砂粒(雲母) ②酸化焰 普通 ③外面 明赤褐色 内面 黒色	内外面とも研磨(磨耗のため単位不鮮明)。	
第58図 - 2 P L 104	弥生 甕	口縁部～ 体部	①10.8 ② ④	①粗砂粒(雲母) ②酸化焰 軟質 ③橙色	外面 整形は磨耗のため不鮮明。 内面 ヘラ撫で。	
第58図 - 3 P L 104	弥生 甕	床面直上 4/5	①21.4 ② ④	①粗砂粒(雲母、石英、 角礫φ3-5mm) ②酸化焰 普通 ③にぶい橙色	口唇部は折り返し。外面 頸部に簾状文(13+α 右廻り、3連止、8ヶ所)後、口唇部から頸部に かけて波状文(13+α、右廻り)を4段と胴部上 位にも波状文(13+α、右廻り)を1段、波状文 より下位は研磨。内面 ヘラ撫で。	
第58図 - 4 P L 104	弥生 甕	底部片	① ②5.8 ④	①細砂粒(雲母) ②酸化焰 普通 ③橙色	外面 ヘラ削り。 内面 ヘラ撫で。	



下川田平井遺跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	法量 (cm)	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第58図 -5	弥生 甕	底部	① ②9.0 ④	①粗砂粒(石英) ②酸化焰 軟質 ③橙色	外面 ヘラ削り(単位は磨耗のため不鮮明)。 内面 ヘラ撫で。	
第58図 -6 P L 104	弥生 台付甕	口縁部～ 胴部	①13.7 ② ④	①細砂粒(雲母) ②酸化焰 普通 ③明赤褐色	外面 頸部に簾状文(6+a、右廻り、2連止) 後、口縁部と胴部上位に波状文(単位不鮮明)。	
第58図 -7 P L 104	弥生 台付甕	脚部片	① ③脚部径7.7 ④	①粗砂粒(長石、雲母) ②酸化焰 普通 ③橙色	脚部から杯身底部までを同一に成形。 外面 脚部はヘラ削り。 内面 刷毛目ヘラ撫で。	
第58図 -8 P L 104	弥生 壺	口縁部～ 胴部上位	①25.0 ② ④	①粗砂粒 ②酸化焰 ③浅黄褐色	口唇部は貼り付け。外面 頸部に簾状文(単位不鮮明)と胴部に波状文(単位不鮮明)を施文し凸線を施された円形ボタン状文を施文。	
第58図 -9 P L 104	弥生 壺	底部	① ②6.0 ④	①粗砂粒(石英、雲母) ②酸化焰 普通 ③橙色	外面 胴部・底部ともヘラ削り。 内面 ヘラ撫で。	
第58図 -10	弥生 甕	底部	① ②7.2 ④	①細砂粒(雲母) ②酸化焰 普通 ③外面 にぶい黄褐色 内面 暗褐色	内外面とも胴部・底部ヘラ削り。	
第58図 -11 P L 104	土製品 手捏土器	柱穴 2/3	長さ8.9 幅正面5.7 側面5.2	①粗砂粒(石英、雲母) ②酸化焰 普通 ③にぶい橙色	外面 手捏ね。 内面 ヘラ撫で。	
第59図 -12	弥生 甕	柱穴 口縁部片	① ② ④	①細砂粒(長石、雲母) ②酸化焰 硬質 ③灰赤色	外面 口唇部より波状文(8+a、右廻り、3連止)を4段+aを施文。 内面 ヘラ撫で。	
第59図 -13	弥生 甕	口縁部片	① ② ④	①粗砂粒(長石、雲母) ②酸化焰 普通 ③にぶい橙色	外面 口縁部に波状文(単位不鮮明)と簾状文(単位不鮮明)。 内面 ヘラ撫で。	
第59図 -14	弥生 甕	口縁部片	① ② ④	①粗砂粒(石英、長石) ②酸化焰 普通 ③橙色	外面 波状文(6+a)。 内面 ヘラ撫で。	
第59図 -15	弥生 壺	床面直上 頸部	① ② ④	①細砂粒(石英、長石) ②酸化焰 普通 ③にぶい黄褐色	外面 櫛描文(単位不鮮明)を2段と波状文(単位不明)とT字文(単位不明)を2列施文。 内面 ヘラ撫で。	
第59図 -16	弥生 甕	胴部片	① ② ④	①粗砂粒(長石、雲母) ②酸化焰 普通 ③外面 暗灰黄色	外面 櫛描文(9+a)とT字文(8+a)。 内面 ヘラ撫で。	
挿図番号 図版番号	種別	出土位置	①最大長②最大幅 ③厚み ④重量	石 材	製作技法等の特徴	備考
59-17 P L 104	削器	掘り方	①2.8 ②2.5 ③0.9 ④4.1	珪質頁岩	不定形剥片素材。 一側縁の表裏両面に加工痕が認められる。	
59-18 P L 104	石核	床面直上	①10.6 ②6.1 ③4.9 ④325.6	黒色頁岩	周縁から中心に向けて剥離を行う。 礫面残存。	

10号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	法量 (cm)	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第64図 -1 P L 105	弥生 鉢	1/4	①10.0 ②4.0 ④4.4	①細砂粒(石英、雲母) ②酸化焰 普通 ③にぶい橙色	外面 口縁部から体部にかけて単位不鮮明であるがヘラ削り。 底部及び内面は整形不明。	
第64図 -2	弥生 鉢	底部	① ②3.7 ④	①粗砂粒(石英) ②酸化焰 普通 ③にぶい黄褐色	外面 体部・底部はヘラ削り。	
第64図 -3	弥生 鉢	底部～ 胴部下位	① ②4.4 ④	①粗砂粒 ②酸化焰 普通 ③浅黄褐色	外面 底部ヘラ磨き、周辺部は磨耗。	
第64図 -4	弥生 鉢	底部	① ②5.0 ③	①粗砂粒 ②酸化焰 ③	外面 体部はヘラ磨き、底部はヘラ削り。	



挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	法量 (cm)	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第64図 -5	弥生 鉢	底部片	① ②4.3 ④	①粗砂粒(石英) ②酸化焰 普通 ③にぶい黄橙色	外面 体部はヘラ磨き、底部はヘラ削り。	
第64図 -6	弥生 鉢	底部片	① ②4.6 ④	①粗砂粒(石英) ②酸化焰 ③灰黄褐色	外面 体部はヘラ削り。 内面 ヘラ磨き。	
第64図 -7	弥生 鉢	底部～ 胴部下位	① ②5.0 ④	①粗砂粒(雲母) ②酸化焰 やや軟質 ③外面 にぶい橙色 内面 橙色	外面 体部縦方向ヘラ磨き、底部はヘラ削り。	
第64図 -8 P L 105	弥生 高杯	床面直上 杯部	①26.2 ②4.0 ④	①細砂粒(雲母) ②酸化焰や軟質 ③外面 赤色 内面 にぶい橙色	内外面とも研磨で赤色塗彩。	
第64図 -9 P L 105	弥生 高杯	脚部	① ② ④	①粗砂粒(長石、 黒色鉱物粒) ②酸化焰 普通③橙色	外面 脚部は縦方向のヘラ削り。 内面 杯身はヘラ磨き。	
第64図 -10 P L 105	弥生 高杯	柱穴2 脚部	① ② ④	①粗砂粒(雲母) ②酸化焰 普通 ③赤色	外面 脚部はヘラ磨き。 内面 杯身ヘラ磨き。内外面とも杯身部分は赤色塗彩。	
第64図 -11	弥生 台付甕	床面直上 脚部	① ② ④	①粗砂粒(黄雲母) ②酸化焰 ③淡い赤橙色	杯身は脚部を成形後接合、脚部は紐作り。 外面 縦方向ヘラ削り。	
第64図 -12 P L 105	弥生 高杯	脚部	① ②3.0 ③脚部径6.3	①粗砂粒(長石、雲母) ②酸化焰 普通 ③橙色	外面 ヘラ削り。 内面 脚部がヘラ撫で。	
第64図 -13 P L 105	弥生 高杯	脚部	① ②3.2 ③脚部径5.6	①細砂粒(石英、雲母) ②酸化焰 普通 ③明赤褐色	外面 研磨。	
第64図 -14 P L 105	弥生 高杯	脚部	① ②3.0 ③脚部径7.0	①細砂粒(雲母、長石) ②酸化焰 普通 ③にぶい黄橙色	外面 研磨。 内面 杯身が研磨で脚部はヘラ撫で。	
第64図 -15 P L 105	弥生 高杯	脚部	① ②12.0 ④	①粗砂粒(石英、雲母) ②酸化焰 普通 ③にぶい赤色	外面 研磨で赤色塗彩。 内面 刷毛整形後ヘラ撫で。	
第64図 -16 P L 105	弥生 高杯	脚部	① ②4.2 ③脚部径11.2	①粗砂粒(石英、雲母) ②酸化焰 普通 ④外面 赤色、内面 橙色	外面 杯身・脚部とも研磨で赤色塗彩。 内面 杯身が研磨で赤色塗彩、脚部はヘラ撫で。	
第64図 -17	弥生 甕	口縁部片	① ② ④	①粗砂粒(角礫 $\phi$ 5mm、石 英長石)②酸化焰 普通 ③にぶい黄橙色	外面 口縁部は縦方向ヘラ削り後、雑な波状文 ( $4 + a$ )、頸部は簾状文( $4 + a$ )。 内面 ヘラ磨き。	
第64図 -18	弥生 甕	口縁部～ 胴部上位	①12.2 ② ④	①粗砂粒(円礫 $\phi$ 2mm、 雲母)②酸化焰 ③赤橙色	外面 頸部に波状文(単位不明)。	
第64図 -19 P L 105	弥生 甕	床面直上 口縁部～ 胴部上位	①9.8 ② ④	①細砂粒(雲母) ②酸化焰 普通 ③橙色	外面 頸部に簾状文( $5 + a$ 、右廻り、2連止)、 口縁部と胴部上位に波状文( $5 + a$ )を施文。 内面 胴部がヘラ削り。	
第64図 -20	弥生 甕	口縁部片	① ② ④	①粗砂粒(黄雲母) ②酸化焰 普通 ③外面 にぶい黄橙色 内面 黄灰色	口唇部折り返し。外面 口唇部から口縁部にか けて波状文( $9 + a$ 、右廻り)。	
第64図 -21	弥生 甕	口縁部片	①13.8 ② ④	①粗砂粒 ②酸化焰 普通 ③にぶい赤褐色	口唇部は貼り付け。外面 口縁部は波状文(単 位不明)。	
第64図 -22	弥生 甕	口縁部片	①17.0 ② ④	①粗砂粒(亜角礫 $\phi$ 3mm、 雲母)②酸化焰 普通 ③にぶい橙色	外面 口縁部は波状文(単位不明)、頸部は簾状 文(単位不明)。	
第64図 -23 P L 105	弥生 甕	床面直上 口縁部～ 頸部	①15.0 ② ④	①粗砂粒(石英、長石、 雲母)②酸化焰 普通 ③明褐色	外面 口縁部に波状文( $6 + a$ )を3段、頸部に 櫛描文( $7 + a$ )、胴部上位に波状文(単位不鮮明)。 内面 ヘラ撫で。	

下川田平井遺跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	法量 (cm)	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第64図 -24 P L 105	弥生 甕	貯蔵穴 口縁部～ 胴部	①9.8 ② ④	①粗砂粒(石英、雲母) ②酸化焰 普通 ③橙色	外面 口縁部に波状文(6+α)、頸部に簾状文(6+α、右廻り、2連止)を施文。 内面 研磨。	
第64図 -25 P L 105	弥生 甕	柱穴2 口縁部～ 胴部上位	①14.0 ② ④	①粗砂粒(雲母) ②酸化焰 普通 ③橙色	外面 頸部に簾状文(9+α、右廻り、2連止)、口縁部に波状文(9+α)を2～3段と胴部上位に波状文(6+α)を1段施文後、刺突文を施した円形ボタン状文を5～6コ貼り付け。 内面 研磨。	
第64図 -26 P L 105	弥生 甕	床面直上 口縁部～ 頸部	①22.6 ② ④	①粗砂粒(長石、雲母) ②酸化焰 普通 ③にぶい黄橙色	口唇部は貼り付け。外面 頸部に簾状文(8+α右廻り、3連止)。口縁部には口唇部より波状文(7+α、右廻り、3回)を5～7段施文。 内面 研磨。	
第65図 -27	弥生 甕	底部片	① ②4.8 ④	①粗砂粒 ②酸化焰 普通 ③橙色	外面 底部はヘラ割り。	
第65図 -28	弥生 甕	底部片	① ②4.9 ④	①粗砂粒 ②酸化焰 普通 ③橙色	外面 底部はヘラ割りか。	
第65図 -29	弥生 小型甕	床面直上 底部	① ②4.3 ④	①粗砂粒(雲母) ②酸化焰 普通 ③橙色	外面 胴部は雑なヘラ割り、底部はヘラ磨き、周辺部は磨耗。 内面 ヘラ撫で。	
第65図 -30	弥生 甕	底部片	① ②3.9 ④	①粗砂粒 ②酸化焰 普通 ③赤橙色	外面 胴部はヘラ割りか。	
第65図 -31	弥生 小型甕	柱穴4 底部～ 胴部下位	① ②3.8 ④	①粗砂粒(石英) ②酸化焰 普通 ③にぶい橙色	外面 胴部は縦方向ヘラ割り、底部は不定方向ヘラ割り。 内面 雑なヘラ磨き。	
第65図 -32	弥生 甕	底部	① ②6.4 ④	①粗砂粒(石英) ②酸化焰 やや軟質 ③浅黄橙色	外面 磨耗のため整形不明。 内面 ヘラ撫で。	
第65図 -33 P L 105	弥生 甕	貯蔵穴 底部～ 胴部	① ②4.0 ④	①粗砂粒(長石、雲母) ②酸化焰 普通 ③橙色	外面 胴部上位に波状文(6+α)、胴部の波状文より下位と底部は研磨。 内面 研磨。	
第65図 -34	弥生 甕	底部片	① ②8.6 ④	①粗砂粒(長石、雲母) ②酸化焰 普通 ③赤橙色	外面 底部はヘラ割り。 内面 ヘラ磨き。	
第65図 -35	弥生 甕	底部片	① ②6.4 ④	①粗砂粒(石英、雲母) ②酸化焰 普通 ③橙色	外面 胴部はヘラ割りが施されているが、磨耗のため単位不明。	
第65図 -36	弥生 甕	底部	① ②6.8 ④	①粗砂粒(雲母) ②酸化焰 ③外面 黒色、内面 橙色	外面 胴部は横方向ヘラ割り。 内面 ヘラ磨き。	
第65図 -37 P L 106	弥生 甕	底部～ 胴部下位	① ②9.3 ④	①粗砂粒(石英、雲母) ②酸化焰 軟質 ③橙色	外面 胴部は横方向ヘラ割りであるが、磨耗のため単位不明。 内面 胴部はヘラ撫で。	
第65図 -38 P L 106	弥生 甕	底部	① ②8.0 ④	①粗砂粒(石英、黄雲母、褐色粒) ②酸化焰 ③浅黄橙色	外面 胴部の底部付近は横方向ヘラ割りか、底部は磨耗のため不明。	
第65図 -39	弥生 甕	柱穴4 底部片	① ②10.8 ④	①細砂粒(石英、雲母) ②酸化焰 普通 ③橙色	外面 胴部は横方向のヘラ割り。 内面 ヘラ磨き。	
第65図 -40	弥生 甕	底部～ 胴部下位	① ②7.4 ④	①粗砂粒(雲母) ②酸化焰 普通 ③にぶい橙色	外面 胴部は横方向ヘラ割り。 内面 横方向ヘラ磨き。	
第65図 -41 P L 106	弥生 台付甕	床面直上 2/3	①10.2 ②3.4 ④	①細砂粒(石英、雲母) ②酸化焰 やや軟質 ③にぶい褐色	外面 口縁部に波状文(単位不鮮明)、頸部に簾状文(6+α、右廻り、2連止)、口唇部に円形ボタン状文、簾状文下に刺突文を施した円形ボタン状文を貼り付け。内面 研磨のため不鮮明。	
第65図 -42	弥生 台付甕	脚部	① ② ④	①粗砂粒(雲母) ②酸化焰 軟質 ③橙色	外面 ヘラ割りが施されているが、磨耗のため単位不明。	

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	法量 (cm)	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第65図 -43 P L 106	弥生 台付甕	脚部	① ② ④	①粗砂粒(石英、雲母) ②酸化焰 やや軟質 ③橙色	外面 縦方向のヘラ削り。	
第65図 -44 P L 106	弥生 台付甕	脚部片	① ③脚部径9.8 ④	①細砂粒(石英、長石) ②酸化焰 普通 ③橙色	外面 整形不明。 内面 ヘラ撫で。	
第65図 -45 P L 106	弥生 台付甕	脚部片	① ②4.0 ③脚部径8.8 ④	①粗砂粒(石英、長石) ②酸化焰 やや軟質 ③明赤褐色	外面 整形不明。 内面 ヘラ撫で。	
第65図 -46 P L 106	弥生 壺	床面直上 口縁部	①17.8 ② ④	①粗砂粒(石英、長石、 雲母)②酸化焰 普通 ③橙色	外面 口縁部ヘラ削り後研磨、頸部には櫛状文 (6+a)とT字文(6+a)を施文。 内面 ヘラ削り後部分的に研磨。	
第65図 -47 P L 106	弥生 甕	口縁部～ 頸部	①19.6 ② ④	①粗砂粒(石英、長石、 雲母)②酸化焰 普通 ③明黄褐色	口唇部は貼り付け。外面 頸部に簾状文(10+a 右廻り、2連止)、口縁部には口唇部より波状文 (単位不明、右廻り)を3段施文。 内面 研磨。	
第65図 -48	弥生 壺	床面直上 口縁部片	①24.6 ② ④	①粗砂粒 ②酸化焰 普通 ③外面 褐灰色 内面 浅黄褐色	口唇部は折り返し。外面 口唇部下より刷毛目。 内面 口唇部下より刷毛目。	
第65図 -49 P L 106	弥生 壺	口縁部～ 頸部	①23.6 ② ④	①粗砂粒(石英、長石、 雲母)②酸化焰 やや軟質 ③にぶい黄褐色	口唇部は貼り付け。外面 口唇部に刻み目、口 縁部は研磨、頸部は簾状文(8+a、右廻り、2 連止)。内面 磨耗のため不鮮明ではあるが、研 磨が施されている。内外面ともに赤色塗彩。	
第65図 -50 P L 106	弥生 壺	口縁部片	①26.0 ② ④	①細砂粒(石英、雲母) ②酸化焰 普通 ③浅黄褐色	内外面とも研磨。	
第65図 -51	弥生 甕	頸部片	① ② ④	①粗砂粒(石英、黄雲母) ②酸化焰 普通 ③暗赤褐色	外面 頸部に簾状文(6+a)施文後、口縁部胴 部に波状文(単位不明)。 内面 横方向ヘラ磨き。	
第66図 -52 P L 106	弥生 壺	床面直上 口縁部片	①33.4 ② ④	①細砂粒(雲母) ②酸化焰 普通 ③にぶい橙色	口唇部は折り返し。外面 口唇部に波状文(単位 不鮮明)、口縁部は刷毛目。 内面 ヘラ撫で。	
第66図 -53	弥生 壺	頸部片	① ② ④	①細砂粒(黄雲母) ②酸化焰 普通 ③灰黄色	外面 頸部に簾状文(単位不明)を施文後、波状 文(9+a)と懸垂文(5+a)が施文。胴部は刷 毛整形後部分的にヘラ削り。	
第66図 -54	弥生 壺	底部片	① ②5.4 ④	①細砂粒(石英、黄雲母) ②酸化焰 軟質 ③にぶい黄褐色	外面 器面が剝離しており不明。 内面 ヘラ撫で。	
第66図 -55 P L 106	弥生 壺	底部	① ②7.4 ④	①粗砂粒(長石、雲母) ②酸化焰 普通 ③橙色	外面 胴部・底部ともヘラ削り。 内面 ヘラ撫で。	
第66図 -56	弥生 壺	底部片	① ②8.0 ④	①粗砂粒(円礫φ2mm、 石英)②酸化焰 普通 ③橙色	外面 磨耗のため整形不明。	
第66図 -57 P L 106	弥生 手捏土器	2/3	①5.7 ②2.8 ④3.8	①粗砂粒(石英、雲母) ②酸化焰 普通 ③赤褐色	外面 手捏ね。 内面 ヘラ撫で。	
第66図 -58 P L 107	弥生 手捏土器	底部	① ② ④	①粗砂粒(石英、雲母) ②酸化焰 普通 ③浅黄褐色	手捏ね成形。	
第66図 -59 P L 106	手捏土器	床面直上 ほぼ完形	①3.7~4.5 ② ④5.5	①細砂粒(雲母) ②酸化焰 普通 ③浅黄褐色	外面 上半がヘラ削り、下半は手捏ね。 内面 ヘラ撫で。	
第66図 -60 P L 107	土製品 匙	床面直上 柄欠損	①3.5×4.0 長さ5.5 柄部分厚み1.4 ④2.3	①粗砂粒(亜角礫φ5mm、 石英、雲母) ②酸化焰 普通 ③にぶい橙色	内外面とも手捏ね。	
第66図 -61 P L 106	弥生 片口	1/5	①11.2 ② ④	①粗砂粒(角礫φ2~4mm、 長石、雲母)②酸化焰 普通 ③にぶい橙色	外面 ヘラ削り。 内面 ヘラ撫で。	

下川田平井遺跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	法量 (cm)	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第66図 -62 P L 107	土製品 土錘	完形	全長4.25 最大幅2.0 重量16.7g	①細砂粒(雲母) ②酸化焙 ③にぶい褐色	外面 ヘラ撫で。	
第66図 -63	弥生 鉢	口縁部片	① ② ④	①細砂粒(雲母) ②酸化焙 普通 ③浅黄橙色	外面 ヘラ磨き。 内面 ヘラ磨き。	
第66図 -64	弥生 鉢	床面直上 口縁部片	① ② ④	①細砂粒(雲母、褐色粒) ②酸化焙 ③にぶい黄橙色	外面 左右・上下への丁寧なヘラ磨き。 内面 縦方向のヘラ磨き。	
第66図 -65	弥生 甕	口縁部片	① ② ④	①粗砂粒(雲母) ②酸化焙 普通 ③にぶい橙色	外面 口縁部は雑な波状文(4+a)、頭部は簾状文(単位不明)。 内面 ヘラ磨き。	
第66図 -66	弥生 甕	口縁部片	①14.6 ② ④	①粗砂粒(長石、雲母) ②酸化焙 普通 ③にぶい赤褐色	外面 口唇部より下は波状文(8+a)を3回、 頭部は簾状文(8+a、右廻り、3連止)。 内面 ヘラ撫で。	
第66図 -67	弥生 甕	口縁部片	① ② ④	①粗砂粒(雲母) ②酸化焙 普通 ③にぶい黄橙色	外面 口縁部は刷毛目後波状文(5+a)、頭部 は簾状文(単位不明)。	
第66図 -68	弥生 小型甕	口縁部～ 胴部	① ② ④	①粗砂粒(雲母、褐色粒) ②酸化焙 普通 ③にぶい橙色	外面 口唇部から頭部にかけては、刷毛目後、 波状文(9+a)を2段。 内面 刷毛目後ヘラ磨き。	
第66図 -69	弥生 甕	口縁部片	① ② ④	①粗砂粒(雲母) ②酸化焙 ③浅黄橙色	外面 雑な波状文(単位不明)。	
第66図 -70	弥生 甕	頭部片	① ② ④	①粗砂粒(長石、黄雲母) ②酸化焙 普通 ③浅黄橙色	外面 頭部に簾状文(単位不明)、波状文(5+a)。	
第66図 -71 P L 107	弥生 甕	柱穴2 胴部片	① ② ④	①粗砂粒 ②酸化焙 ③淡黄色	外面 雑な波状文(単位不明)施文後、刺突文を 施した円形ボタン状文が貼り付けてある。	
第66図 -72	弥生 甕	胴部上位	① ② ④	①粗砂粒(石英、長石) ②酸化焙 普通 ③浅黄橙色	外面 破片上部に波状文(単位不明)と、刺突文 が施された円形ボタン状文が貼り付けてある。 内面 ヘラ撫で。	
第66図 -73 P L 107	弥生 甕	胴部片	① ② ④	①粗砂粒(雲母) ②酸化焙 ③にぶい黄橙色	外面 懸垂文(単位不明)を施文後、刺突文を施 した円形ボタン状文が貼り付けてある。	
第66図 -74	弥生 甕	頭部片	① ② ④	①粗砂粒 ②酸化焙 普通 ③外面 にぶい黄褐色	頭部は簾状文(単位不明)、胴部上位波状文(単 位不明)。	
第66図 -75	弥生 甕	頭部片	① ② ④	①粗砂粒(長石、黄雲母) ②酸化焙 ③橙色 内面 黒褐色	外面 口縁部波状文(5+a、右廻り)。 内面 ヘラ磨き。	
第67図 -76	弥生 甕	頭部～ 胴部上位	① ② ④	①粗砂粒(石英、雲母) ②酸化焙 ③にぶい橙色	外面 頭部は簾状文(6+a、右廻り、2連止、 3ヶ所)を施文後、口縁部波状文(単位不明)。	
第67図 -77	弥生 甕	柱穴3 胴部片	① ② ④	①粗砂粒(石英、雲母) ②酸化焙 普通 ③外面 褐灰色 内面 にぶい黄褐色	外面 胴部上位は波状文(7+a)を2段。	
第67図 -78	弥生 甕	頭部片	① ② ④	①粗砂粒(石英、雲母) ②酸化焙 普通 ③褐色	外面 頭部に簾状文(6+a、右廻り、1連止) を2段施文後、上下に波状文(6+a、右廻り)。 内面 ヘラ撫で。	
挿図番号 図版番号	種別	出土位置	①最大長②最大幅 ③厚み ④重量	石 材	製作技法等の特徴	備考
67-79 P L 107	打製石斧		①6.8 ②6.9 ③2.7 ④163.3	灰色安山岩	刃部と頭部を欠損しているために形状は不明。	
67-80 P L 107	加工痕ある 剥片		①6.7 ②3.8 ③1.3 ④28.6	黒色頁岩	横長剥片素材。 周縁に加工痕が認められる。	
67-81 P L 107	敲石		①10.8 ②9.9 ③4.4 ④558.2	粗粒安山岩	扁平な円礫の周縁に敲痕が認められる。	

## 11号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	法量 (cm)	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第71図 -1	弥生 鉢	底部	① ②4.9 ④	①細砂粒(長石) ②酸化焰 ③赤色	内外面とも赤色塗彩。	
第71図 -2	弥生 鉢	底部～ 胴部下位	① ②5.0 ④	①粗砂粒(石英、長石、 雲母)②酸化焰 普通 ③橙色	内外面は磨耗のため整形不明。	
第71図 -3 P L 107	弥生 鉢	杯身	①13.8 ② ④	①粗砂粒(雲母) ②酸化焰 普通 ③浅黄橙色	内外面とも研磨。	
第71図 -4	弥生 高杯	口縁部	①15.8 ② ④	①粗砂粒(石英、雲母) ②酸化焰 普通 ③にぶい橙色	内外面とも研磨。	
第71図 -5 P L 107	弥生 高杯	杯身片	①16.0 ② ④	①細砂粒(長石、雲母) ②酸化焰 普通 ③橙色	外面 縦方向へら削り。 内面 上半が横方向刷毛目、下半はへら撫で。	
第71図 -6 P L 107	弥生 高杯	杯身～脚部 (裾部欠損)	①18.4 ②4.0 ④	①粗砂粒(長石、雲母) ②酸化焰 普通 ③浅黄橙色	外面 杯部・脚部ともへら削り。 内面 杯部は不明、脚部はへら撫で。	
第71図 -7	弥生 高杯	杯身片	① ② ④	①粗砂粒(雲母) ②酸化焰 ③橙色	杯身と脚部との接合部分の孔は径4cmほどである。	
第71図 -8 P L 107	弥生 高杯	脚部	① ③脚部径10.8 ④	①粗砂粒(長石、雲母) ②酸化焰 普通 ③外面 赤色	外面 脚部研磨。 内面 上半がへら撫で、下半が研磨、杯身内面 と脚部外面は赤色塗彩。	
第71図 -9 P L 107	弥生 高杯	脚部片	① ② ④	①細砂粒(雲母) ②酸化焰 軟質 ③にぶい橙色	外面 へら削り。	
第71図 -10 P L 107	弥生 高杯	脚部片	① ③脚部径15.5 ④	①粗砂粒(雲母、褐色粒) ②酸化焰 やや軟質 ③赤色	内面 刷毛目。 外面 赤色塗彩。	
第71図 -11	弥生 高杯	脚部片	① ② ④	①粗砂粒(雲母) ②酸化焰 ③外面 赤色 内面 にぶい橙色	外面 研磨、赤色塗彩。 内面 へら撫で。	
第71図 -12	弥生 甌	底部～ 胴部下位	① ②4.6 ④	①細砂粒(石英) ②酸化焰 普通 ③橙色	外面 胴部・底部ともへら削り。	
第71図 -13 P L 107	弥生 蓋	鈕部片	①鈕径4.8 ② ④	①粗砂粒(石英、雲母) ②酸化焰 ③橙色	鈕部分は手捏ね。	
第72図 -14 P L 107	弥生 甕	口縁部	①15.8 ② ④	①粗砂粒(石英、長石、 雲母)②酸化焰 普通 ③にぶい黄橙色	口唇部は貼り付け。 外面 器面が磨耗のため整形不明。	
第72図 -15 P L 107	弥生 甕	口縁部	①18.8 ② ④	①粗砂粒(亜角礫φ1～ 2mm、雲母)②酸化焰 ③浅黄橙色	口唇部は折り返し。外面 口唇部より波状文。	
第72図 -16 P L 107	弥生 甕	口縁部	①19.5 ② ④	①粗砂粒(亜角礫φ2～ 4mm、石英、長石) ②酸化焰 やや軟質 ③にぶい黄橙色	口唇部は貼り付け。 外面 頸部に簾状文が施されているようである。	
第72図 -17 P L 107	弥生 甕	口縁部片	①19.6 ② ④	①粗砂粒(亜角礫φ1～ 3mm、長石、雲母)②酸化焰 普通 ③にぶい黄橙色	口唇部は折り返し。外面 口唇部下より波状文 (単位不明)。	
第72図 -18 P L 107	弥生 甕	床面直上 口縁部	①18.8 ② ④	①粗砂粒(雲母) ②酸化焰 普通 ③にぶい黄橙色	口唇部は折り返し。外面 口唇部より波状文 (7+α)。	

下川田平井遺跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	法量 (cm)	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第72図 -19 P L 107	弥生 甕	床面直上 口縁部	①18.8 ② ④	①粗砂粒(長石、雲母) ②酸化焰 普通 ③浅黄橙色	口唇部は折り返し。外面 口唇部より波状文(8+α)。内面 研磨。	
第72図 -20	弥生 甕	口縁部	①20.4 ② ④	①粗砂粒(雲母) ②酸化焰 普通 ③淡赤橙色	口唇部は折り返し。 外面 口唇部より波状文(6+α)を3段。	
第72図 -21 P L 107	弥生 甕	床面直上 口縁部片	①16.8 ② ④	①粗砂粒(石英、長石、雲母)②酸化焰 普通 ③にぶい黄橙色	外面 刷毛整形後、口唇部に粘土紐貼り付け、口唇部より波状文(6+α)、頸部には簾状文(単位不明)。内面 刷毛整形後ヘラ撫で。	
第72図 -22	弥生 甕	口縁部片	①19.0 ② ④	①細砂粒(亜角礫φ3~6mm)②酸化焰 普通 ③にぶい黄橙色	口唇部は折り返し。外面 口唇部に刻み目、口縁部は研磨。 内面 研磨。	
第72図 -23 P L 107	弥生 甕	口縁部片	①24.2 ② ④	①粗砂粒(石英、長石、雲母)②酸化焰 普通 ③橙色	口唇部は折り返し。外面 口唇部に刻み目。	
第72図 -24 P L 108	弥生 甕	口縁部~ 頸部	①19.0 ② ④	①粗砂粒(長石、雲母) ②酸化焰 普通 ③浅黄色	口唇部は折り返し。外面 頸部に簾状文(9+α右廻り、2連止)、口縁部は口唇部より波状文(9+α、右廻り)、胴部上位にも波状文が施されているが単位等は不明。内面 研磨。	
第72図 -25	弥生 甕	口縁部片	① ② ④	①粗砂粒 ②酸化焰 軟質 ③浅黄色	口縁部は折り返し。 外面 口唇部より波状文(4+α)。	
第72図 -26 P L 108	弥生 甕	頸部	① ② ④	①粗砂粒(石英、雲母) ②酸化焰 普通 ③橙色	外面 頸部に簾状文(8+α、右廻り、2連止、6ヶ所)、口縁部は研磨が施されているが単位不明。内面 研磨。	
第72図 -27	弥生 甕	頸部~ 胴部上位	① ② ④	①粗砂粒(石英、長石、雲母)②酸化焰 普通 ③橙色	外面 頸部に簾状文(4+α、右廻り、2連止)胴部上位に波状文(6+α)を3段施文。 内面 ヘラ撫で。	
第72図 -28	弥生 甕	胴部下位	① ② ④	①粗砂粒(雲母) ②酸化焰 ③淡黄色	外面 縦方向ヘラ削り。 内面 ヘラ撫で。	
第72図 -29	弥生 甕	頸部~ 胴部上位	① ② ④	①粗砂粒(角礫φ4~7mm、雲母)②酸化焰 普通 ③にぶい黄橙色	外面 口唇部から頸部にかけて波状文(7+α)。 内面 研磨。	
第73図 -30 P L 108	弥生 小型甕	口縁部~ 胴部	①8.4 ② ④	①粗砂粒(長石、雲母) ②酸化焰 普通 ③にぶい橙色	外面 頸部に簾状文(6+α、磨耗のため不鮮明)口縁部に波状文(単位等不鮮明)。 内面 研磨。	
第73図 -31 P L 108	弥生 甕	床面直上 口縁部~ 胴部上位	①12.8 ② ④	①粗砂粒(長石、雲母) ②酸化焰 普通 ③外面 にぶい褐色 内面 にぶい黄褐色	外面 頸部に簾状文(6+α、右廻り、2連止)を施文後、口縁部に波状文(単位不明)。 内面 研磨。	
第73図 -32	弥生 甕	口縁部	①13.6 ② ④	①粗砂粒(雲母) ②酸化焰 普通 ③にぶい黄橙色	外面 頸部に簾状文(5+α、右廻り、2連止)、口縁部に波状文(6+α)。 内面 研磨。	
第73図 -33	弥生 甕	口縁部片	①13.6 ② ④	①粗砂粒(雲母) ②酸化焰 普通 ③にぶい黄橙色	口唇部は折り返し。外面 口唇部に波状文を施文後横撫で、口縁部は刷毛整形後、波状文(7+α)。	
第73図 -34	弥生 甕	口縁部~ 胴部上位	①12.8 ② ④	①粗砂粒(長石、雲母) ②酸化焰 普通 ③にぶい橙色	外面 口縁部から頸部に波状文(単位不明)。	
第73図 -35 P L 108	弥生 甕	口縁部~ 胴部	①12.4 ② ④	①細砂粒(雲母) ②酸化焰 普通 ③外面 にぶい赤褐色 内面 赤黒色	外面 口縁部から頸部にかけて波状文(4+α、右廻り)を2段施文。 内面 研磨。	
第73図 -36 P L 108	弥生 甕	床面直上 口縁部~ 胴部上位	①11.3 ② ④	①細砂粒(雲母) ②酸化焰 普通 ③明赤褐色	外面 頸部に簾状文(6+α、右廻り、2連止)、口縁部と胴部上位に波状文(6+α)を施文。 内面 口縁部から頸部にかけて研磨、胴部はヘラ撫で。	
第73図 -37	弥生 甕	口縁部~ 胴部上位	①15.7 ② ④	①粗砂粒(長石、雲母) ②酸化焰 普通 ③にぶい橙色	外面 波状文(5+α)を3段。 内面 ヘラ撫で。	

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	法量 (cm)	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第73図 -38	弥生 甕	口縁部～ 胴部上位	①20.0 ② ④	①粗砂粒(石英、雲母) ②酸化焰 軟質 ③外面 におい赤褐色 内面 におい黄褐色	外面 頸部に簾状文(単位不明、右廻り、1連止?)。内外面に赤色塗彩。	
第73図 -39	弥生 甕	口縁部片	①15.2 ② ④	①粗砂粒(雲母) ②酸化焰 普通 ③灰褐色	外面 口唇部より波状文(5+α)。 内面 研磨。	
第73図 -40 P L 108	弥生 甕	口縁部	①14.9 ② ④	①粗砂粒(長石、雲母)。 ②酸化焰 普通 ③におい黄褐色	口唇部は貼り付け。 外面 口縁部に波状文(8+α)、頸部に簾状文(単位不明、右廻り、3連止)を施文。	
第73図 -41	弥生 甕	口縁部片	①12.8 ② ④	①粗砂粒(雲母) ②酸化焰 普通 ③灰褐色	口唇部は折り返し。外面 口唇部から下に波状文(4+α)、頸部は簾状文(単位不明、右廻り、2連止)。内面 研磨。	
第73図 -42 P L 108	弥生 甕	床面直上 口縁部～ 頸部	①14.0 ② ④	①粗砂粒(石英、雲母) ②酸化焰 普通 ③浅黄褐色	口唇部は折り返し。外面 頸部に簾状文(8+α右廻り、2連止)、口縁部は口唇部より波状文(8+α、右廻り)を3段と胴部上位にも波状文(8+α、右廻り)を2段施文。内面 研磨。	
第73図 -43	弥生 甕	口縁部～ 頸部	①14.2 ② ④	①粗砂粒(長石、雲母) ②酸化焰 普通 ③におい黄褐色	外面 口唇部より波状文(単位不明)。	
第73図 -44	弥生 甕	口縁部片	①16.6 ② ④	①粗砂粒 ②酸化焰 軟質 ③灰白色	口唇部は折り返し。 外面 口唇部折り返しの下は刷毛目、口縁部はヘラ削り。	
第73図 -45 P L 108	弥生 甕	床面直上 口縁部～ 頸部片	①14.8 ② ④	①粗砂粒(雲母) ②酸化焰 普通 ③におい黄褐色	口唇部は折り返し。外面 口縁部に波状文(8+α)。 内面 研磨(単位不鮮明)。	
第73図 -46 P L 108	弥生 甕	口縁部～ 頸部	①13.4 ② ④	①粗砂粒(雲母) ②酸化焰 普通 ③におい橙色	口唇部は折り返し。外面 口縁部に波状文(単位不鮮明)、頸部に簾状文(単位不明)。 内面 整形は器面の剥離のため不明。	
第73図 -47	弥生 甕	口縁部片	①16.8 ② ④	①細砂粒(雲母、褐色粒) ②酸化焰 普通 ③におい黄褐色	口縁部は折り返し。 外面 口唇部下より波状文(単位不明)。 内面 ヘラ撫で。	
第74図 -48 P L 108	弥生 甕	床面直上 頸部～ 胴部	① ② ④	①粗砂粒(石英、雲母) ②酸化焰 普通 ③浅黄褐色	内外面とも磨耗のため整形、施文については不鮮明であるが外面の口縁部から頸部にかけては波状文がみられる。	
第74図 -49	弥生 甕	底部	① ②4.4 ④	①粗砂粒(雲母) ②酸化焰 ③におい褐色	外面 胴部が縦方向ヘラ削り、底部は研磨。 内面 ヘラ撫で。	
第74図 -50	弥生 小型甕	底部～ 胴部中位	① ②5.0 ④	①粗砂粒(雲母) ②酸化焰 普通 ③橙色	外面 胴部はヘラ削りで部分的に研磨。	
第74図 -51	弥生 甕	底部	① ②5.8 ④	①粗砂粒(雲母) ②酸化焰 普通 ③明赤褐色	外面 ヘラ削り(単位不明)。 内面 ヘラ撫で。	
第74図 -52	弥生 甕	底部	① ②8.0 ④	①粗砂粒(雲母) ②酸化焰 ③明赤褐色	外面 胴部は一部に研磨。 内面 胴部は研磨。	
第74図 -53	弥生 甕	底部	① ②6.6 ④	①粗砂粒(石英、雲母) ②酸化焰 普通 ③橙色	外面 ヘラ削り。	
第74図 -54	弥生 甕	底部	① ②8.0 ④	①粗砂粒(雲母) ②酸化焰 普通 ③外面 におい橙色 内面 黒褐色	内面 研磨。	
第74図 -55	弥生 甕	底部	① ②5.6 ④	①粗砂粒(雲母) ②酸化焰 普通 ③外面 におい橙色 内面 浅黄褐色	外面 底部に研磨が施されているが、周辺部は磨耗している。	
第74図 -56	弥生 甕	底部	① ②7.4 ④	①粗砂粒(雲母) ②酸化焰 普通 ③におい橙色	外面 胴部が縦方向ヘラ削り。 内面 研磨。	



下川田平井遺跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	法量 (cm)	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第74図 -57 P L 108	弥生 甕	底部～ 胴部上位	① ②8.2 ④	①細砂粒(雲母) ②酸化焙 普通 ③明黄橙色	外面 ヘラ削り。 内面 ヘラ撫で。	
第74図 -58 P L 108	弥生 甕	底部	① ②7.4 ④	①粗砂粒(雲母) ②酸化焙 普通 ③外面 におい褐色 内面 黒褐色	底部円盤作り。外面 胴部が縦方向ヘラ削りと、 最下位に横方向ヘラ削り。底部はヘラ削り。	
第74図 -59 P L 108	弥生 甕	底部～ 胴部下位	① ②6.6 ④	①粗砂粒(雲母) ②酸化焙 普通 ③におい橙色	外面 ヘラ削り。 内面 ヘラ撫で。	
第74図 -60 P L 108	弥生 甕	底部～ 胴部下位	① ②8.8 ④	①粗砂粒(長石、雲母) ②酸化焙 普通 ③浅黄橙色	外面 整形は器面磨耗のため不明。 内面 ヘラ撫で。	
第74図 -61 P L 108	弥生 甕	床面直上 底部～ 胴部下位	① ②10.0 ④	①粗砂粒(雲母) ②酸化焙 普通 ③浅黄色	外面 胴部がヘラ削り、胴部下位と底部は研磨。 内面 ヘラ撫で。	
第74図 -62 P L 108	弥生 甕	口縁部～ 胴部	①22.6 ② ④	①細砂粒 ②酸化焙 ③外面 赤色、内面 淡黄色	外面 頸部に簾状文(単位不明)、他は研磨。 内面 研磨。内外面に赤色塗彩。	
第74図 -63	弥生 甕	胴部	① ② ④	①粗砂粒(長石、雲母) ②酸化焙 普通 ③におい黄橙色	外面 研磨。 内面 ヘラ撫で。	
第74図 -64 P L 109	弥生 甕	胴部	① ② ④	①粗砂粒(石英、雲母) ②酸化焙 普通 ③橙色	外面 胴部上位に波状文(単位不明)、簾状文(7 + $\alpha$ 、右廻り、1連止)と簾状文上に刺突文を施 した円形ボタン状文を貼付、胴部中位は研磨。	
第74図 -65	弥生 台付甕	床面直上 脚部片	① ② ④	①細砂粒(雲母) ②酸化焙 普通 ③におい橙色	外面 研磨。 内面 撫で。	
第74図 -66 P L 109	弥生 台付甕	脚部	① ② ④	①粗砂粒(石英、雲母) ②酸化焙 普通 ③外面 におい橙色 内面 橙色	脚部、杯身底部は同一成形。 外面 脚部内部はヘラ削り。杯身内部は研磨。	
第74図 -67	弥生 台付甕	脚部片	① ③脚部径16.4 ④	①細砂粒(雲母) ②酸化焙 普通 ③外面 赤色、内面 橙色	外面 研磨、赤色塗彩。 内面 ヘラ撫で。	
第74図 -68 P L 109	弥生 壺	口縁部～ 頸部	①19.2 ② ④	①粗砂粒(長石、雲母) ②酸化焙 普通 ③橙色	口唇部は折り返し。 外面 頸部に簾状文(7 + $\alpha$ )。 内面 研磨。	
第75図 -69 P L 109	弥生 壺	口縁部	①19.6 ② ④	①細砂粒(長石、雲母) ②酸化焙 普通 ③外面 赤色	口唇部は貼り付け。外面 口唇部に刻み目、口 唇部より下位は研磨。 内面 大部分が剥離しているが、研磨が施され ている。残存部の内外面には赤色塗彩が施され ている。	
第75図 -70	弥生 壺	口縁部～ 頸部	①20.6 ② ④	①粗砂粒(石英、雲母) ②酸化焙 普通 ③淡黄色	口唇部は折り返し。外面 頸部に簾状文(5 + $\alpha$ 、右廻り、1連止)を施文後、口縁部と胴部に 波状文(5 + $\alpha$ )を施文。 内面 研磨。	
第75図 -71 P L 109	弥生 壺	頸部～ 胴部中位	① ② ④	①粗砂粒(長石、雲母) ②酸化焙 普通 ③におい黄橙色	外面 口縁部から胴部にかけて波状文(6 + $\alpha$ )、 胴部中位は研磨。 内面 研磨。	
第75図 -72	弥生 甕	底部～ 胴部下位	① ②11.5 ④	①粗砂粒(石英、雲母) ②酸化焙 普通 ③浅黄色	内外面とも研磨。	
第75図 -73	弥生 甕	底部	① ②5.0 ④	①粗砂粒(石英) ②酸化焙 普通 ③におい褐色	外面 胴部は研磨。	
第75図 -74	弥生 甕	底部	① ②4.8 ④	①細砂粒(長石) ②酸化焙 普通 ③灰褐色	外面 ヘラ削り。 内面 研磨。	



挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	法量 (cm)	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第75図 -75	弥生 甕	底部～ 胴部下位	① ②5.2 ④	①粗砂粒(雲母) ②酸化焰 普通 ③浅黄橙色	外面 胴部はヘラ削り。	
第75図 -76	弥生 甕	底部	① ②7.6 ④	①粗砂粒(雲母) ②酸化焰 普通 ③にぶい橙色	外面 胴部・底部ともヘラ削り。	
第75図 -77	弥生 甕	底部	① ②6.4 ④	①粗砂粒(長石、雲母) ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	内外面とも胴部は研磨。	
第75図 -78	弥生 甕	底部～ 胴部下位	① ②3.2 ④	①粗砂粒(石英、長石) ②酸化焰 硬質 ③にぶい橙色	内面 底部に指頭痕。	
第75図 -79 P L 109	弥生 壺	床面直上 底部～ 胴部下位	① ②7.0 ④	①粗砂粒(長石、雲母) ②酸化焰 普通 ③浅黄橙色	外面 ヘラ削り。 内面 ヘラ撫で。	
第75図 -80	土製品 匙	柄片	厚み1.0	①細砂粒(石英、雲母) ②酸化焰 普通 ③橙色	柄は撫で。	
第75図 -81	土製品 匙	柄片	厚み1.35	①粗砂粒(雲母) ②酸化焰 ③灰白色	柄は撫で。	
第75図 -82 P L 109	土製品 紡錘車	1/2	孔径0.6 厚み0.6	①細砂粒(石英、長石) ②酸化焰 普通 ③にぶい褐色	形状はやや方形を呈している。	
第75図 -83 P L 109	土製品 紡錘車	2/3	孔径0.55 径3.7 厚み0.55	①粗砂粒(長石、雲母) ②酸化焰 普通 ③にぶい橙色	表裏とも撫で。	
第75図 -84 P L 109	土製品 円盤か?	完形?	径5.6×5.8 厚み0.9	①粗砂粒(石英、雲母) ②酸化焰 ③にぶい黄橙色	底部部分を作成しただけで焼成したものか。	
第75図 -85 P L 109	弥生 甕	口縁部片	① ② ④	①細砂粒(雲母) ②酸化焰 普通 ③外面 赤色 内面 浅黄橙色	口唇部は折り返し。 外面 口唇部に刻目、口縁部は研磨、内外面とも赤色塗彩、小孔。内面 研磨。	
第75図 -86 P L 109	弥生 甕	口縁部片	① ② ④	①細砂粒(雲母) ②酸化焰 普通 ③外面 赤色 内面 浅黄橙色	口唇部は折り返し。口縁部に小孔が2ヶ所。 外面 口唇部に刻み目、口縁部は研磨、内外面赤色塗彩。内面 研磨。	
第75図 -87	弥生 鉢	口縁部片	① ② ④	①細砂粒(雲母) ②酸化焰 普通 ③外面 赤色 内面 にぶい黄橙色	内外面とも研磨で、赤色塗彩。	
第75図 -88	弥生 甕	床面直上 口縁部片	① ② ④	①粗砂粒(石英、雲母) ②酸化焰 ③橙色	口唇部は貼り付け。 外面 口唇部に刻目。 内面 横方向の研磨。	
第75図 -89	弥生 甕	口縁部片	① ② ④	①粗砂粒(石英) ②酸化焰 ③にぶい黄橙色	口唇部は貼り付け。外面 口唇部に刻み目、口縁部に研磨。 内面 研磨。	
第75図 -90	弥生 甕	口縁部片	① ② ④	①粗砂粒(石英、雲母) ②酸化焰 普通 ③外面 明赤褐色 内面 浅赤褐色	口唇部は折り返し。 外面 口唇部は刻目、口縁部は研磨。 内外面とも赤色塗彩。	
第75図 -91	弥生 高杯	口縁部片	① ② ④	①細砂粒 ②酸化焰 やや軟質 ③外面 にぶい赤褐色 内面 にぶい黄橙色	内外面とも研磨、赤色塗彩。	
第75図 -92	弥生 甕	口縁部片	① ② ④	①粗砂粒(石英、雲母) ②酸化焰 普通 ③にぶい黄橙色	口唇部は折り返し。 外面 口唇部より波状文(6+α)。	

下川田平井遺跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	法量 (cm)	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第76図 -93	弥生 甕	口縁部片	① ② ④	①細砂粒(雲母) ②酸化焰 ③明赤褐色	外面 口縁部上位横撫で、下位より波状文(6+a)。	
第76図 -94	弥生 甕	口縁部片	① ② ④	①細砂粒(雲母) ②酸化焰 ③橙色	外面 口縁部より波状文(6+a)を施文。	
第76図 -95	弥生 甕	口縁部片	① ② ④	①粗砂粒(石英) ②酸化焰 普通 ③灰黄褐色	口唇部は折り返し。 外面 刷毛整形後、口唇部より波状文(6+a)。	
第76図 -96	弥生 甕	口縁部片	① ② ④	①粗砂粒(石英、雲母) ②酸化焰 ③にぶい黄橙色	外面 頸部に簾状文(単位不明、右廻り、2連止)を施文後、口縁部に波状文(6+a)を4段施文。	
第76図 -97	弥生 甕	口縁部片	① ② ④	①粗砂粒(石英、雲母) ②酸化焰 普通 ③にぶい橙色	口唇部は折り返し。 外面 口唇部より波状文(9+a)。	
第76図 -98	弥生 鉢	口縁部片	①12.8 ② ④	①細砂粒(長石、雲母) ②酸化焰 普通 ③灰白色	内外面とも研磨。	
第76図 -99	弥生 甕	口縁部片	① ② ④	①粗砂粒(雲母) ②酸化焰 普通 ③灰黄褐色	口唇部は折り返し。 外面 口唇部から波状文(単位不明)。 内面 研磨。	
第76図 -100	弥生 甕	口縁部片	① ② ④	①細砂粒(雲母) ②酸化焰 普通 ③灰赤色	外面 口縁部に波状文(5+a)を3段。 内面 研磨。	
第76図 -101	弥生 甕	口縁部片	① ② ④	①粗砂粒(雲母) ②酸化焰 ③にぶい黄橙色	外面 刷毛整形後、波状文(6+a)を4段施文。 内面 研磨。	
第76図 -102	弥生 甕	頸部片	① ② ④	①粗砂粒 ②酸化焰 ③灰褐色	外面 刷毛整形後、頸部に簾状文(5+a、右廻り、2連止)、口縁部に波状文(5+a)を4段以上。 内面 ヘラ撫で後、部分的に研磨。	
第76図 -103	弥生 甕	口縁部片	① ② ④	①粗砂粒(石英、雲母) ②酸化焰 ③にぶい赤褐色	外面 波状文(5+a、右廻り)を4段。 内面 研磨。	
第76図 -104	弥生 甕	口縁部片	① ② ④	①粗砂粒(長石、雲母) ②酸化焰 普通 ③にぶい橙色	外面 頸部に簾状文(単位不明)を施文後、口縁部に波状文(5+a)を施文。	
第76図 -105	弥生 甕	頸部～ 胴部上位	① ② ④	①粗砂粒(石英、長石、雲母) ②酸化焰 普通 ③にぶい橙色	外面 口縁部から胴部にかけて波状文(7+a) 内面 研磨。	
第76図 -106	弥生 甕	頸部～ 胴部片	① ② ④	①細砂粒(雲母) ②酸化焰 普通 ③赤褐色	外面 頸部に簾状文(単位不明、右廻り、2連止)を施文後、胴部上位に波状文(単位不明)。 内面 ヘラ撫で。	
第76図 -107	弥生 甕	頸部片	① ② ④	①粗砂粒(石英、長石) ②酸化焰 普通 ③にぶい橙色	外面 頸部に簾状文(5+a、右廻り、2連止)を施文後、口縁部に波状文(単位不明)。 内面 ヘラ撫で。	
第76図 -108	弥生 甕	胴部片	① ② ④	①粗砂粒(雲母、褐色粒) ②酸化焰 ③外面 にぶい黄橙色 内面 灰黄褐色	外面 頸部にやや波打った櫛描文(5+a)を施文後、口縁部と胴部に波状文(単位不明)を施文、胴部はヘラ削り。 内面 ヘラ撫で。	
第76図 -109	弥生 甕	頸部片	① ② ④	①細砂粒(長石、雲母) ②酸化焰 普通 ③にぶい褐色	外面 頸部に簾状文(8+a)を施文後、口縁部と胴部に波状文(単位不明)。	
第77図 -110	弥生 甕	頸部片	① ② ④	①粗砂粒(雲母) ②酸化焰 ③にぶい黄橙色	外面 波状文(8+a)を5段。	
第77図 -111 P L 109	弥生 甕	胴部片	① ② ④	①細砂粒(雲母) ②酸化焰 ③にぶい黄橙色	外面 波状文(単位不明)を施文後、刺突文を施した円形ボタン状文を貼り付け。	
第77図 -112 P L 109	弥生 甕	胴部片	① ② ④	①細砂粒(雲母) ②酸化焰 普通 ③にぶい黄橙色	外面 胴部に波状文(6+a)を施文後、刺突文を施した円形ボタン状文を貼り付け。	

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	法量 (cm)	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第77図 -113 P L 109	弥生 甕	胴部片	① ② ④	①細砂粒(雲母) ②酸化焰 普通 ③にぶい黄橙色	外面 波状文(単位不明)を施文後、刺突文を施した円形ボタン状文を貼り付け。	
第77図 -114 P L 109	弥生 甕	胴部上位片	① ② ④	①粗砂粒(雲母) ②酸化焰 普通 ③にぶい黄橙色	外面 波状文(単位不明)を施文後、刺突文を施した円形ボタン状文を貼り付け。 内面 研磨。	
第77図 -115	弥生 甕	頸部片	① ② ④	①粗砂粒(雲母) ②酸化焰 普通 ③にぶい黄橙色	外面 頸部に簾状文(単位不明、右廻り、2連止) 胴部に波状文(7 + α)を施文後、懸垂文(単位不明)を施文。内面 ヘラ撫で。	
第77図 -116	弥生 甕	頸部片	① ② ④	①細砂粒(石英、雲母) ②酸化焰 ③灰褐色	外面 頸部に簾状文(単位不明、右廻り、2連止) 胴部上位に波状文(8 + α)。 内面 刷毛目。	
第77図 -117	弥生 甕	胴部	① ② ④	①粗砂粒(雲母) ②酸化焰 普通 ③にぶい黄橙色	外面 波状文(単位不明)。 内面 ヘラ撫で。	
第77図 -118	弥生 甕	頸部片	① ② ④	①粗砂粒(垂角礫φ2-3mm) ②酸化焰 普通 ③にぶい赤褐色	外面 頸部に簾状文(4 + α、右廻り、2連止、2ヶ所)を施文後、口縁部と胴部に波状文(5 + α)を施文。	
挿図番号 図版番号	種別	出土位置	①最大長②最大幅 ③厚み ④重量	石材	製作技法等の特徴	備考
77-119 P L 109	加工痕ある 剥片		①2.5 ②3.4 ③0.9 ④9.1	黒色頁岩	不定形剥片素材。 端縁に加工痕が認められる。	
77-120 P L 109	打製石鏃		①3.1 ②2.8 ③0.9 ④8.2	チャート	円基。 先端部欠損。	
77-121 P L 109	加工痕ある 剥片		①4.9 ②4.3 ③1.4 ④30.2	珪質頁岩	縦長剥片素材。 両側縁に加工痕が認められる。	
77-122 P L 110	加工痕ある 剥片		①8.2 ②4.4 ③1.3 ④46.5	黒色頁岩	横長剥片素材。礫面残存。 端縁に僅かに加工痕が認められる。	
77-123 P L 110	打製石斧		①6.7 ②4.3 ③2.0 ④50.9	黒色頁岩	撥形。 刃部は再生か。	
77-124 P L 110	削器		①(7.3) ②4.2 ③1.3 ④49.4	黒色頁岩	縦長剥片素材。 両側縁に加工痕が認められる。	
77-125 P L 110	削器		①8.2 ②6.0 ③1.1 ④50.1	黒色頁岩	横長剥片素材。 周縁に加工痕が認められる。	
77-126 P L 110	使用痕ある 剥片		①11.9 ②4.7 ③1.4 ④56.0	黒色頁岩	縦長剥片素材。礫面残存。 一側面に使用痕が認められる。	
77-127 P L 110	敲石		①11.6 ②3.8 ③1.8 ④91.2	黒色頁岩	両端に敲打による剥離痕が認められる。	
78-128 P L 110	敲石		①14.0 ②6.8 ③2.6 ④452.7	細粒安山岩	一端に敲打痕が僅かに認められる。	
78-129 P L 110	敲石		①10.7 ②7.5 ③4.0 ④447.3	石英閃緑岩	一端に敲打痕が認められる。	
78-130 P L 110	敲石?		①8.3 ①8.3 ③3.0 ④301.1	石英閃緑岩	周縁に敲打痕と考えられる剥落が多数認められる。	
78-131 P L 110	くぼみ石		①8.6 ②10.7 ③6.0 ④573.4	変質玄武岩		

## 12号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	法量 (cm)	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第82図 - 1	弥生 鉢	底部	① ②3.8 ④	①細砂粒 ②酸化焰 硬質 ③外面 にぶい橙色 内面 橙色	内外面とも研磨。	
第82図 - 2	弥生 鉢	床面直上 底部片	① ②5.0 ④	①粗砂粒(石英、褐色粒) ②酸化焰 軟質 ③橙色	外面 磨耗のため不明。 内面 ヘラ撫で身こみ部に刷毛目。	

下川田平井遺跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	法量 (cm)	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第82図 - 3	弥生 鉢	底部片	① ②5.5 ④	①細砂粒 ②酸化焰 硬質 ③外面 におい赤褐色 内面 灰褐色	内外面とも研磨。	
第82図 - 4	弥生 鉢	底部	① ②4.4 ④	①細砂粒(石英、雲母) ②酸化焰 普通 ③におい橙色	内外面は研磨。	
第82図 - 5	弥生 鉢	底部	① ②5.0 ④	①細砂粒(雲母) ②酸化焰 普通 ③外面 におい赤褐色 内面 におい褐色	内外面とも研磨。	
第82図 - 6 P L 110	弥生 有孔鉢	床面直上 1/4	①17.1 ②4.7 ④9.5	①細砂粒(雲母) ②酸化焰 普通 ④におい橙色	外面 体部が研磨、底部がヘラ削り。 内面 上半が研磨、下半がヘラ撫で。	
第82図 - 7 P L 110	弥生 鉢	1/4	①14.6 ② ④	①粗砂粒(雲母) ②酸化焰 普通 ③灰白色	内外面とも研磨。	
第82図 - 8 P L 110	弥生 高杯	床面直上 脚部欠損	①13.3 ② ④	①細砂粒(石英、長石、 雲母)②酸化焰 ③におい橙色	脚部と杯身底部を成形後、杯身体部を成形。 内外面も研磨。	
第82図 - 9 P L 110	弥生 高杯	床面直上 口縁部片	①19.8 ② ④	①粗砂粒(雲母) ②酸化焰 普通 ③明赤褐色	内外面とも研磨(内面は横方向に施されている が単位不明)。	
第82図 - 10 P L 110	弥生 高杯	脚部	① ②4.5③5.7 ④	①粗砂粒(石英、長石、 雲母)②酸化焰 普通 ③橙色	外面 研磨。 内面 杯身が研磨、脚部がヘラ撫で。	
第82図 - 11 P L 110	弥生 高杯	脚部	① ②3.7③8.6 ④	①細砂粒(雲母) ②酸化焰 やや軟質 ③外面 赤色 内面 におい黄橙色	杯身の体部・杯身の底部、脚部で成形。脚部に 透かしを3ヶ所もつ。外面 杯身内外面と脚部 の外面は研磨、赤色塗彩。 内面 脚部ヘラ撫で。	
第82図 - 12	弥生 高杯	脚部片	① ③脚部径9.0 ④	①粗砂粒(石英、長石) ②酸化焰 普通 ③外面 暗赤色 内面 明赤褐色	外面 研磨後、赤色塗彩。	
第82図 - 13	弥生 高杯	脚部片	① ③脚部径10.0 ④	①粗砂粒 ②酸化焰 軟質 ③橙色	外面 磨耗のため不明。 内面 刷毛目。	
第82図 - 14	弥生 高杯	脚部片	① ③脚部径10.8 ④	①粗砂粒 ②酸化焰 普通 ③橙色	粘土紐作り。 外面 磨耗のため不明。 内面 刷毛目。	
第82図 - 15	弥生 高杯	脚部片	① ③脚部径11.8 ④	①粗砂粒(雲母) ②酸化焰 普通 ③外面 明赤褐色 内面 橙色	外面 ヘラ削り。 内面 ヘラ撫で。	
第82図 - 16	弥生 高杯	脚部片	① ③脚部径12.4 ④	①粗砂粒(雲母) ②酸化焰 普通 ③におい黄褐色	外面 磨耗のため不明。 内面 刷毛目。	
第82図 - 17 P L 110	手捏土器 高杯	脚接合付近	① ② ④	①細砂粒 ②酸化焰 普通 ③におい黄褐色	外面 縦方向ヘラ削り。	
第82図 - 18	弥生 高杯	脚部片	① ② ④	①粗砂粒(亜角礫φ3mm、 石英)②酸化焰 普通 ③橙色	外面 研磨。	
第82図 - 19	弥生 高杯	脚部片	① ② ④	①細砂粒(雲母) ②酸化焰 普通 ③外面 灰黄褐色 内面 におい黄褐色	内外面とも研磨。	
第82図 - 20 P L 110	弥生 高杯	脚部片	① ② ④	①細砂粒(石英、長石) ②酸化焰 普通 ③橙色	外面 研磨。 内面 杯身が研磨、脚部が刷毛目。	

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	法量 (cm)	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第82図 -21	弥生 高杯	脚部片	① ② ④	①細砂粒 ②酸化焰 普通 ③淡橙色	外面 縦方向のヘラ削り。	
第82図 -22	弥生 高杯	脚部片	① ② ④	①細砂粒(雲母) ②酸化焰 硬質 ③外面 灰黄褐色 内面 にぶい橙色	外面 研磨。 内面 ヘラ撫で。	
第82図 -23	弥生 高杯	脚部片	① ② ④	①粗砂粒(雲母) ②酸化焰 硬質 ③にぶい橙色	外面 研磨。	
第82図 -24 P L 110	弥生 高杯	床面直上 脚部片	① ② ④	①細砂粒(雲母) ②酸化焰 普通 ③にぶい橙色	外面 杯身、脚部の接合部はやや荒い研磨。 内面 杯身が研磨、脚部下半が刷毛目。	
第82図 -25 P L 110	弥生 蓋	鈕部片	①鈕径4.5 ② ④	①粗砂粒(石英、長石) ②酸化焰 普通 ③橙色	外面 研磨。	
第82図 -26 P L 110	弥生 蓋	床面直上 鈕部	①鈕径4.0 ② ④	①粗砂粒(石英) ②酸化焰 普通 ③橙色	外面 ヘラ撫で。	
第82図 -27 P L 110	弥生 蓋	鈕部	①鈕径6.0 ② ④	①粗砂粒(長石、雲母) ②酸化焰 普通 ③橙色	外面 上位が横撫で、それより下がヘラ削り。 内面 ヘラ撫で。	
第82図 -28 P L 110	弥生 蓋	1/3	①鈕径3.8 ② ④	①細砂粒(長石、雲母) ②酸化焰 普通 ③にぶい橙色	外面 研磨。鈕と体部の接合部に刷毛目。 内面 研磨。	
第82図 -29	弥生 小型甕	口縁部～ 胴部上位片	①10.0 ② ④	①粗砂粒(雲母) ②酸化焰 普通 ③にぶい橙色	外面 口縁部と頸部に波状文(単位不鮮明)を施 文後、刺突文を施した小型円形ボタン状文を貼 り付け。	
第82図 -30 P L 111	弥生 甕	口縁部片	①29.8 ② ④	①粗砂粒(長石、雲母) ②酸化焰 普通 ③橙色	口唇部は折り返し。内外面とも研磨。	
第82図 -31 P L 111	弥生 甕	床面直上 口縁部	①16.0 ② ④	①細砂粒(雲母) ②酸化焰 普通 ③にぶい黄橙色	口唇部は折り返し。 外面 研磨(単位不鮮明)。 内面 研磨。	
第82図 -32 P L 111	弥生 甕	床面直上 口縁部～ 頸部	①17.3 ② ④	①細砂粒(石英、雲母) ②酸化焰 普通 ③浅黄色	口縁部は折り返し。外面 頸部に簾状文(7 + α 右廻り、2連止)、口縁部は口唇部より波状文(7 + α、右廻り)を4段。 内面 口唇部横撫で口縁部に研磨。	
第83図 -33	弥生 甕	床面直上 口縁部片	①19.7 ② ④	①細砂粒(角礫φ2～3mm、 雲母)②酸化焰 軟質 ③淡黄色	口縁部は折り返し。	
第83図 -34	弥生 甕	口縁部片	①20.0 ② ④	①細砂粒(黄雲母) ②酸化焰 普通 ③浅黄褐色	口縁部は折り返し。 外面 口唇部は刻み目。 内面 研磨。	
第83図 -35	弥生 甕	底部片	① ②6.2 ④	①細砂粒 ②酸化焰 普通 ③褐灰色	外面 胴部がヘラ削り、底部は研磨が施されて いるが周辺部は磨耗。 内面 研磨。	
第83図 -36 P L 110	弥生 甕	床面直上 底部～ 胴部下位	① ②5.0 ④	①細砂粒(雲母) ②酸化焰 普通 ③にぶい橙色	外面 胴部が研磨、底部は未整形。 内面 研磨。	
第83図 -37	弥生 甕	床面直上 底部片	① ②6.0 ④	①粗砂粒(雲母) ②酸化焰 普通 ③橙色	外面 ヘラ削り。 内面 胴部は研磨。	
第83図 -38	弥生 甕	底部	① ②7.4 ④	①粗砂粒(石英、雲母、 褐色粒)②酸化焰 普通 ③にぶい橙色	外面 胴部は研磨。	
第83図 -39	弥生 甕	底部片	① ②5.6 ④	①粗砂粒(雲母) ②酸化焰 普通 ③浅黄褐色	内外面とも研磨。	

下川田平井遺跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	法量 (cm)	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第83図 -40 P L 111	弥生 甕	底部～ 胴部下位	① ②7.6 ④	①粗砂粒(石英、長石、 雲母)②酸化焰 普通 ③外面 灰褐色 内面 にぶい黄橙色	外面 胴部が研磨、底部も研磨が施されている が単位不明。 内面 ヘラ撫で。	
第83図 -41	弥生 甕	胴部下位	① ② ④	①粗砂粒(角礫φ2～4mm、 雲母、褐色粒) ②酸化焰 普通 ③明黄褐色	外面 刷毛整形後ヘラ削り。 内面 研磨。	
第83図 -42 P L 111	弥生 甕	底部～ 胴部下位	① ②8.0 ④	①粗砂粒(石英、雲母) ②酸化焰 普通 ③灰黄色	外面 ヘラ削り。 内面 ヘラ撫で。	
第83図 -43	弥生 甕	底部～ 胴部下位	① ②9.0 ④	①粗砂粒(雲母) ②酸化焰 普通 ③灰黄褐色	外面 胴部・底部ともヘラ削り。	
第83図 -44 P L 111	弥生 甕	底部～ 胴部下位	① ②7.0 ④	①細砂粒(雲母) ②酸化焰 普通 ③にぶい褐色	外面 胴部が研磨、底部がヘラ削り。 内面 刷毛整形後ヘラ撫で。	
第83図 -45 P L 111	弥生 台付甕	床面直上 3/4	①10.0 ② ④	①粗砂粒(石英、雲母) ②酸化焰 普通 ③にぶい橙色	口唇部は折り返し。外面 口縁部と胴部上位に 波状文、頸部に簾状文が施文されているが単位 等は不鮮明。 内面 口縁部が研磨、胴部がヘラ撫で。	
第83図 -46	弥生 壺	床面直上 口縁部片	①22.3 ② ④	①粗砂粒(角礫φ3mm、長 石雲母)②酸化焰 普通 ③浅黄橙色	口縁部折り返し。 外面 口縁部に刻み目、口唇部より下は研磨。 内面 研磨。	
第83図 -47 P L 111	弥生 壺	床面直上 口縁部	①29.0 ② ④	①細砂粒(長石、雲母) ②酸化焰 普通 ③外面 赤色、内面 浅黄色	内外面とも研磨、外面 頸部の一部に刷毛目。 内外面とも赤色塗彩。	
第83図 -48 P L 111	弥生 壺	床面直上 口縁部～ 頸部	①26.6 ② ④	①粗砂粒(石英、長石) ②酸化焰 普通 ③にぶい黄橙色	外面 刷毛整形後雑なヘラ削り、口縁部下半から 胴部上位にかけて雑な波状文(6+α)を施文。 内面 刷毛整形後ヘラ撫で、部分的に粘土紐の 積み重ね痕が残る。	
第83図 -49 P L 111	弥生 壺	頸部～ 胴部上位	① ② ④	①細砂粒(石英、雲母) ②酸化焰 普通 ③にぶい黄橙色	外面 簾状文(7+α、右廻り、2連止)、櫛描 文(7+α)、波状文(単位不明)とT字文(9+ α)を施文後、凹線を施した円形ボタン状文を 貼り付け。内面 ヘラ撫で。	
第83図 -50 P L 111	弥生 壺	床面直上 1/4	① ②6.4 ④	①細砂粒(雲母) ②酸化焰 普通 ③浅黄色	外面 胴部上位に波状文(6+α)、胴部は研磨。 内面 上半が研磨、下半がヘラ撫で。	
第84図 -51 P L 112	弥生 壺	胴部片	① ② ④	①細砂粒(長石、雲母) ②酸化焰 普通 ③にぶい橙色	外面 波状文(単位不鮮明)と列点文。 内面 ヘラ撫で。	
第84図 -52 P L 112	弥生 壺	床面直上 胴部上位	① ② ④	①細砂粒(長石、雲母) ②酸化焰 普通 ③赤色	外面 胴部上位に櫛描文(12単位)を3段、T字 文(12単位、2列、6ヶ所か?)を施文、T字文 の下部に櫛状工具で凹線を施した円形ボタン状 文を貼り付け。胴部中位は研磨で赤色塗彩。 内面 ヘラ撫で。	
第84図 -53 P L 112	弥生 壺	床面直上 2/3	① ②7.0 ④	①細砂粒(雲母) ②酸化焰 普通 ③にぶい黄橙色	外面 頸部に簾状文(9+α)、口縁部と胴部上 位に波状文(6+α)を施文。胴部は研磨、底部 はヘラ削り。内面 研磨。	
第84図 -54	弥生 壺	胴部片	① ② ④	①粗砂粒(石英、雲母) ②酸化焰 普通 ③にぶい橙色	外面 胴部上半がヘラ削り、下半が研磨。 内面 胴部上半がヘラ撫で、下半が刷毛目。	
第84図 -55	弥生 壺	底部片	① ②6.0 ④	①粗砂粒(雲母) ②酸化焰 普通 ③外面 にぶい赤褐色 内面 黒褐色	外面 脚部下位が刷毛整形後、部分的にヘラ削 りか。 内面 刷毛目。	
第84図 -56 P L 111	弥生 壺	底部～ 胴部下位	① ②9.4 ④	①細砂粒(雲母) ②酸化焰 普通 ③にぶい黄橙色	外面 胴部が研磨、底部がヘラ削り。 内面 ヘラ撫で。	

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	法量 (cm)	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第84図 -57	弥生 壺	底部～ 胴部下位	① ②8.8 ④	①粗砂粒(長石) ②酸化焰 普通 ③淡黄色	外面 胴部・底部ともヘラ削り後研磨。 内面 研磨。	
第84図 -58 P L 112	弥生 壺	床面直上 底部～ 胴部下位	① ②6.2 ④	①細砂粒(雲母) ②酸化焰 普通 ③赤色	外面 胴部が研磨で赤色塗彩、底部はヘラ削り。 内面 ヘラ撫で。	
第85図 -59 P L 112	弥生 壺	床面直上 口縁部～ 胴部中位	①18.0 ② ④	①細砂粒(長石、雲母) ②酸化焰 普通 ③外面 赤色 口縁部～頸部 にぶい黄橙色	口唇部は折り返し。外面 頸部に簾状文(8 + $\alpha$ 右廻り、多連止)、胴部上位に波状文(7 + $\alpha$ 、 右廻り)を2～3段、口縁部・胴部中位以下は研 磨。内面 口縁部に研磨、他は剥離のため不明。 外面の口唇部と簾状文・波状文を施文した部分 を除いた部分と内面の口縁部に赤色塗彩。	
第85図 -60 P L 113	弥生 壺	貯蔵穴 完形	①18.8 ②6.8 ④22.0	①細砂粒(長石、雲母) ②酸化焰 普通 ③橙色	口唇部は折り返し。外面 刷毛整形後、口唇部 から頸部にかけて波状文(7 + $\alpha$ 、右廻り)9段、 胴部は研磨。 内面 ヘラ撫でと部分的な研磨。	
第85図 -61 P L 113	弥生 壺	床面直上 5/6	①19.0 ②6.0 ④26.6	①細砂粒(雲母) ②酸化焰 普通 ③にぶい黄橙色	口唇部は折り返し。外面 刷毛整形後口縁部に 研磨、頸部に簾状文(11 + $\alpha$ 、右廻り、2連止) を2段。胴部中位は磨耗のため不明であるが、 下位は研磨。 内面 口縁部が研磨、胴部はヘラ撫で。	
第85図 -62 P L 114	弥生 壺	底部	① ②16.2 ④	①粗砂粒(角礫 $\phi$ 3-5mm、 雲母)②酸化焰 ③浅黄橙色	外面 胴部が研磨、底部はヘラ削り後雑な研磨。 内面 刷毛目。	
第86図 -63 P L 113	弥生 壺	床面直上 3/4	①22.3 ②10.5 ④36.5	①粗砂粒(石英、長石、 雲母) ②酸化焰 普通 ③外面 にぶい赤橙色 内面 褐灰色	口唇部は折り返し。外面 研磨後口唇部に刻み 目、頸部に簾状文(8 + $\alpha$ 、右廻り、3連止、7 ヶ所)、胴部上位に波状文(5 + $\alpha$ )、2列のT字 文の(6 + $\alpha$ )を6ヶ所施文し、凹線を施した円 形ボタン状文を貼り付け。 内面 口縁部と胴部下位が研磨、胴部中位はヘ ラ撫で。	
第87図 -64 P L 115	弥生 甕	2/3	①58.5 ②16.0 ④88.4	①細砂粒(石英、雲母) ②酸化焰 ③内外面 赤色	外面 口縁部は研磨。頸部は凸帯を貼付し5段 の列点文を施文、胴部上位は櫛描文(9 + $\alpha$ )を 6段施文後、T字文(8 + $\alpha$ )を8ヶ所施文し、下 位に刺突文を施した円形ボタン状文を貼付、胴 部中位は研磨、胴部は施文部分以外は赤色塗彩。 内面 口唇部が4ヶ所で突き出し、刺突文が施 されている。口縁部がヘラ撫で。胴部ヘラ撫で。	
第87図 -65 P L 114	弥生 壺	床面直上 胴部	① ② ④	①細砂粒(雲母) ②酸化焰 ③橙色	内外面に輪積痕がみられる。 外面 研磨。 内面 ヘラ撫で。	
第88図 -66 P L 116	弥生 甕	頸部～ 胴部下位	① ② ④	①粗砂粒 ②酸化焰 ③橙色	外面 頸部に櫛描文(8 + $\alpha$ 、右廻り)を4段施文 後、T字文(8 + $\alpha$ )を櫛描文の幅に施文、T字文 の下位に刺突文を施した円形ボタン状文を貼付。 口縁部から頸部下位はヘラ削り、胴部は研磨。	
第85図 -67 P L 112	土製品 玉	完形	径3.9 孔径0.6	①細砂粒(長石、雲母) ②酸化焰 普通 ③にぶい黄橙色	外面 刺突文をほぼ全面に施文。	
第85図 -68 P L 113	土製品 玉	完形	径1.0 幅0.9 孔径0.2	①細砂粒(長石) ②酸化焰 普通 ③明赤褐色	外面 撫で。	
第85図 -69 P L 113	土製品 土錘	完形	全長3.9 幅1.9 孔径0.15～ 0.2重量14.0	①細砂粒(雲母) ②酸化焰 普通 ③灰褐色	外面 ヘラ撫でか。螺旋状の紐の圧痕がみられ る。	
第85図 -70 P L 113	土製品 勾玉	完形	全長2.9 幅0.9 重量3.0	①細砂粒(石英、雲母) ②酸化焰 普通 ③にぶい赤褐色	外面 撫でによる整形。	



下川田平井遺跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	法量 (cm)	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第85図 -71 P L 113	土製品 匂玉	完形	全長2.8 幅1.7 孔径0.2~0.3	①細砂粒(石英、雲母) ②酸化焰 普通 ③にぶい橙色	外面 撫で。	
第86図 -75 P L 114	弥生 台付片口	4/5	①11.0 ②4.2③8.7 ④13.5	①粗砂粒(雲母) ②酸化焰 普通 ③浅黄橙色	外面 片口部がヘラ削り、脚部は研磨。 内面 片口口唇部がヘラ撫で、体部が研磨、脚部はヘラ撫で。	
第86図 -76 P L 112	土製品 紡錘車	1/2	径4.7 孔径0.6 厚み0.8	①粗砂粒(雲母) ②酸化焰 普通 ③にぶい黄橙色	上面・下面ともヘラ撫で。	
第86図 -77	弥生 片口	注口部分片	① ② ④	①細砂粒 ②酸化焰 普通 ③にぶい橙色	内外面とも口唇部は横撫で、体部は研磨。	
第86図 -78	弥生 片口	注口部分片	① ② ④	①細砂粒(雲母) ②酸化焰 普通 ③にぶい黄橙色	外面 注口部分は撫で。 内面 研磨。	
第86図 -79	弥生 甕	口縁部片	①11.2 ② ④	①粗砂粒(石英、長石、 雲母、黒色鉱物粒) ②酸化焰 普通 ③橙色	口縁部は折り返し。 外面 口縁部に連鎖状文。	
第86図 -80	弥生 甕	口縁部片	① ② ④	①粗砂粒(石英、長石、 雲母)②酸化焰 普通 ③にぶい褐色	口縁部は折り返し。 外面 口唇部より波状文(5+a)を施文。	
第86図 -81	弥生 甕	口縁部片	① ② ④	①粗砂粒(雲母) ②酸化焰 普通 ③橙色	口縁部は折り返し。 外面 口唇部より波状文(9+a)を3~4段施文。 内面 研磨。	
第86図 -82	弥生 甕	口縁部片	① ② ④	①粗砂粒(長石) ②酸化焰 普通 ③にぶい黄色	口縁部は折り返し。 外面 口唇部より下位へ波状文(6+a)を施文。	
第86図 -83	弥生 甕	口縁部片	① ② ④	①粗砂粒(長石、雲母) ②酸化焰 普通 ③にぶい黄橙色	口縁部は折り返し。 外面 口唇部より波状文(5+a)。	
第86図 -84	弥生 甕	口縁部片	① ② ④	①粗砂粒(長石、雲母) ②酸化焰 普通 ③にぶい橙色	口縁部は折り返し。 外面 口唇部に一条の凹線、口唇部より下は波状文(7+a、右廻り)を施文。	
第87図 -85 P L 114	弥生 台付甕	口縁部~ 胴部上位片	① ② ④	①細砂粒(雲母) ②酸化焰 普通 ③浅黄橙色	外面 頸部に簾状文(6+a)を施文後、口縁部 と胴部に波状文(3+a)を施文し、胴部上位に 円形ボタン状文を貼り付け。	
第87図 -86 P L 114	弥生 台付甕	口縁部片	① ② ④	①粗砂粒(雲母) ②酸化焰 普通 ③にぶい褐色	外面 口縁部に(4+a)を施文後円形ボタン状 文を貼り付け。	
第87図 -87 P L 114	弥生 甕	胴部片	① ② ④	①細砂粒(雲母) ②酸化焰 ③浅黄橙色	外面 研磨後懸垂文(6+a)を施文後、刺突文 を施した円形ボタン状文を貼り付け。	
第87図 -88 P L 114	弥生 甕	胴部片	① ② ④	①粗砂粒(雲母) ②酸化焰 ③橙色	外面 波状文を施文後、懸垂文を施文し刺突文 を施した薄い円形ボタン状文を貼り付け。	
第87図 -89 P L 114	弥生 甕	ボタン部分	① ② ④	①細砂粒(雲母) ②酸化焰 普通 ③浅黄色	ヘラによる2分割された楕円形ボタン状文。	
第87図 -90 P L 114	弥生 甕	胴部片	① ② ④	①細砂粒(長石) ②酸化焰 ③浅黄橙色	ヘラによる2分割の楕円形ボタン状文。	
第87図 -91 P L 114	弥生 甕	胴部片	① ② ④	①細砂粒 ②酸化焰 ③浅黄橙色	外面 分割する沈線を施した円形ボタン状文を 貼り付け。	
第87図 -92 P L 114	弥生 甕	胴部片	① ② ④	①細砂粒(雲母) ②酸化焰 普通 ③にぶい黄橙色	外面 波状文(単位不明)、列点文(4段)と刺突 文を施した円形ボタン状文貼り付け。 内面 ヘラ撫で。	
第87図 -93 P L 114	弥生 甕	胴部上位片	① ② ④	①粗砂粒(長石、雲母) ②酸化焰 普通 ③橙色	外面 研磨後懸垂文(6+a?)を施文後、刺突 文を施した円形ボタン状文を2コ貼り付け。	



挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	法量 (cm)	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第88図 -94	弥生 鉢	口縁部片	① ② ④	①粗砂粒(角礫φ3mm、 雲母)②酸化焰 軟質 ③外面 ぶい黄橙色 内面 灰黄褐色	口縁部は折り返し。 外面 刷毛整形後研磨。 内面 研磨。	
第88図 -95	弥生 甕	口縁部片	① ② ④	①細砂粒(雲母) ②酸化焰 普通 ③にぶい橙色	外面 頸部に簾状文(7+α、右廻り、1連止)、 口縁部は波状文(8+α)を2段。	
第88図 -96	弥生 甕	口縁部片	① ② ④	①細砂粒(雲母) ②酸化焰 普通 ③にぶい赤褐色	外面 口縁部に波状文(単位不明)、頸部に簾状 文(7+α)。	
第88図 -97	弥生 甕	口縁部片	① ② ④	①細砂粒 ②酸化焰 普通 ③赤褐色	外面 斜格子状のヘラ描き。	
第88図 -98	弥生 甕	胴部片	① ② ④	①細砂粒(石英、雲母) ②酸化焰 普通 ③外面 橙色 内面 にぶい橙色	外面 頸部に簾状文(8+α、右廻り、2連止)、 胴部上位に波状文(8+α、右廻り)を2段施文。 内面 研磨。	
第88図 -99	弥生 甕	頸部-胴部	① ② ④	①細砂粒(石英、長石) ②酸化焰 ③外面 灰褐色 内面 褐灰色	外面 頸部に簾状文(6+α、右廻り、1連止?)、 胴部上位に波状文(7+α、右廻り)。 内面 研磨。	
第88図 -100	弥生 甕	胴部片	① ② ④	①細砂粒(石英、長石、 雲母)②酸化焰 ③外面 灰褐色 内面 にぶい橙色	外面 上位に櫛描文(7+α)、波状文(8+α) を施文。 内面 研磨。	
第88図 -101	弥生 壺	胴部上位	① ②	①細砂粒(雲母) ②酸化焰	外面 櫛描文・波状文を施文後、懸垂文を施文。	
挿図番号 図版番号	種別	出土位置	①最大長②最大幅 ③厚み ④重量	石 材	製作技法等の特徴	備考
85-72 P L 113	勾玉		①2.6 ②1.0 ③0.9 ④3.33	流紋岩	未製(成)品。 穿孔は一方向からであり、途中で止まっている。	
85-73 P L 113	玉		①1.2 ②1.0 ③0.8 ④1.09	淡緑色石英頁岩	穿孔は一方向からである。	
85-74 P L 113	勾玉		①0.8 ②0.6 ③0.5 ④0.46	葉蠟石	下半を欠損している。 穿孔は一方向からである。	
88-102 P L 115	打製石鏃		①2.1 ②(1.5) ③0.3 ④0.48	珪質頁岩	凹基無形。 片脚欠損。	
88-103 P L 115	打製石鏃		①2.2 ②1.7 ③4.0 ④1.07	珪質頁岩	凹基無形。 先端部を僅かに欠損。	
88-104 P L 115	使用痕ある 剥片		①2.6 ②2.3 ③0.3 ④1.6	珪質頁岩	縦長剥片素材。 端縁に僅かに使用痕が認められる。	
88-105 P L 115	使用痕ある 剥片		①2.6 ②2.9 ③0.5 ④4.7	珪質頁岩	縦長剥片素材。打面部欠損。 一縁に使用痕が認められる。	
88-106 P L 115	使用痕ある 剥片		①3.5 ②2.7 ③1.0 ④5.5	珪質頁岩	不定形剥片素材。 一側縁に使用痕が認められる。	
88-107 P L 115	使用痕ある 剥片		①3.9 ②2.1 ③0.6 ④3.9	珪質頁岩	縦長剥片素材。 一側縁に使用痕が認められる。	
89-108 P L 115	使用痕ある 剥片		①5.0 ②2.4 ③1.0 ④13.4	黑色頁岩	縦長剥片素材。礫面残存。 一側縁に使用痕が認められる。	
89-109 P L 115	使用痕ある 剥片		①3.9 ②3.8 ③1.3 ④13.4	珪質頁岩	不定形剥片素材。 一側縁に僅かに使用痕が認められる。	
89-110 P L 115	加工痕ある 剥片		①4.0 ②3.2 ③0.8 ④10.6	黑色頁岩	横長剥片素材。 端縁に加工痕が認められる。	
89-111 P L 115	加工痕ある 剥片		①4.0 ②3.6 ③1.3 ④19.2	珪質頁岩	不定形剥片素材。 一側縁に僅かに加工痕が認められる。	
89-112 P L 115	加工痕ある 剥片		①4.5 ②3.7 ③0.7 ④15.6	黑色頁岩	縦長剥片素材。 一側縁に僅かに加工痕が認められる。	
89-113 P L 115	削器		①5.7 ②3.9 ③0.9 ④26.2	黑色頁岩	横長剥片素材。 周縁に加工痕が認められる。	

下川田平井遺跡

挿図番号 図版番号	種別	出土位置	①最大長②最大幅 ③厚み ④重量	石 材	製作技法等の特徴	備考
89-114 P L 115	打製石斧		①5.7 ②4.1 ③2.2 ④50.5	黒色頁岩	短冊形か撥形。礫面残存。 刃部欠損。	
89-115 P L 115	使用痕ある 剥片		①6.0 ②4.9 ③1.4 ④38.8	珪質頁岩	縦長剥片素材。 一側縁に使用痕が認められる。	
89-116 P L 116	加工痕ある 剥片		①5.8 ②4.5 ③1.1 ④30.1	黒色頁岩	縦長剥片素材。 一側縁に加工痕が認められる。	
89-117 P L 116	打製石斧		①5.2 ②5.0 ③2.2 ④58.2	黒色頁岩	短冊形か撥形。 刃部欠損。	
89-118 P L 116	使用痕ある 剥片		①7.2 ②4.4 ③2.0 ④69.6	珪質頁岩	縦長剥片素材。 一縁に加工痕が認められる。	
89-119 P L 116	加工痕ある 剥片		①7.9 ②5.0 ③1.2 ④62.3	黒色頁岩	縦長剥片素材。 両側面に僅かに加工痕が認められる。	
89-120 P L 116	打製石斧		①8.2 ②5.0 ③1.8 ④82.1	珪質頁岩	短冊形。礫面残存。 刃部の一部を欠損。	
89-121 P L 116	加工痕ある 剥片		①8.8 ②7.7 ③1.3 ④135.7	黒色頁岩	縦長剥片素材。 両側縁に加工痕が認められる。	
89-122 P L 116	加工痕ある 剥片		①7.9 ②6.7 ③1.9 ④110.1	黒色頁岩	剥片素材。 端縁及び両側縁に加工痕が認められる。	
90-123 P L 116	くぼみ石		①9.7 ②12.0 ③3.9 ④540.0	石英閃緑岩	扁平な楕円礫の中央にくぼみ痕が認められる。	
90-124 P L 116	敲石		①11.1 ②7.1 ③4.2 ④518.6	珪質変質岩	一端と一側縁に敲打痕が認められる。	
90-125 P L 116	敲石		①10.5 ②7.4 ③5.0 ④510.3	黒色頁岩	両端に敲打痕が認められる。	
90-126 P L 116	敲石		①10.6 ②7.4 ③4.2 ④520.0	変質安山岩	一端に敲打痕が認められる。	
90-127 P L 116	原石		①28.2 ②10.2 ③7.4 ④3250.0	黒色頁岩	中央部で二つに折れている。	
90-128 P L 116	敲石		①32.4 ②10.6 ③6.8 ④3880.0	閃緑岩	一側縁に敲打による剥離痕が認められる。	

17号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器 種	出土位置 遺存状態	法 量 (cm)	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第92図 - 1	弥生 鉢	口縁部片	①14.8 ② ④	①細砂粒(雲母) ②酸化焰 普通 ③浅黄橙色	内外面とも研磨。	
第92図 - 2	弥生 壺	底部片	① ②4.5 ④	①粗砂粒(長石、雲母) ②酸化焰 普通 ③橙色	外面 胴部が研磨、底部は未整形。 内面 研磨。	
第92図 - 3 P L 117	弥生 甕	底部片	① ②8.0 ④	①粗砂粒(石英、雲母) ②酸化焰 普通 ③橙色	内外面とも丁寧な研磨。	
第92図 - 4 P L 117	弥生 壺	底部片	① ②3.6 ④	①粗砂粒(石英、長石、 雲母)②酸化焰 普通 ③橙色	外面 胴部がヘラ削り、底部もヘラ削りが施さ れているが、磨耗のため不明。 内面 研磨(単位不明)。	
第92図 - 5	弥生 甕	口縁部片	① ② ④	①粗砂粒(石英、長石、 雲母)②酸化焰 普通 ③橙色	口唇部は折り返し。 外面 口唇部から口縁部にかけて波状文(単位 不明)。	
第92図 - 6	弥生 甕	口縁部片	① ② ④	①粗砂粒(長石、雲母) ②酸化焰 普通 ③橙色	外面 口縁部から頸部にかけて波状文。 内面 研磨。	

## 23号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	法量 (cm)	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第95図 -1 P L 117	弥生 鉢	4/5	①15.2 ②5.2 ④7.4	①粗砂粒(長石、雲母) ②酸化焰 普通 ③橙色	内外面とも研磨。	
第95図 -2	弥生 鉢	柱穴1 底部	① ②6.0 ④	①細砂粒 ②酸化焰 普通 ③外面 暗赤褐色 内面 におい橙色	外面 体部はヘラ磨き、底部はヘラ削り。 内面 ヘラ磨き。	
第95図 -3	弥生 甌	底部～ 胴部下位	① ②5.0 ④	①粗砂粒(雲母) ②酸化焰 ③橙色	底部のほぼ中央にφ17～18mmの孔がみられる。 外面 胴部の底部付近は、横方向のヘラ削り、 その上位は縦方向のヘラ削り。 内面 胴部はヘラ撫で。	
第95図 -4 P L 117	弥生 甕	口縁部片	①10.5 ② ④	①細砂粒(雲母) ②酸化焰 普通 ③外面 におい褐色 内面 におい黄褐色	外面 頸部に簾状文(9+a、右廻り2連止、2 ヶ所)を施文後、口縁部に波状文(8+a)を施文。 内面 横方向のヘラ磨き。	
第95図 -5 P L 117	弥生 甕	口縁部～ 胴部片	①11.3 ② ④	①粗砂粒(長石、雲母) ②酸化焰 普通 ③橙色	外面 頸部に簾状文(9+a、右廻り、2連止) を施文後、口縁部と胴部上位に波状文(単位不 明)を施文。	
第95図 -6 P L 117	弥生 甕	床面直上 口縁部～ 頸部	①13.8 ② ④	①粗砂粒(石英、長石、 雲母)②酸化焰 普通 ③褐色	外面 頸部に櫛描文(単位不明)、口縁部は波状 文(7+8+a)。	
第95図 -7 P L 117	弥生 甕	床面直上 口縁部～ 頸部	①19.2 ② ④	①細砂粒(雲母) ②酸化焰 普通 ③外面 におい褐色 内面 におい黄褐色	口唇部は折り返し。外面 頸部に簾状文(7+a) を施文後、口縁部に波状文(6+a)を2段施文。 口唇部は弱いヘラ削り。 内面 ヘラ磨き。	
第95図 -8 P L 117	弥生 甕	床面直上 口縁部～ 胴部中位	①12.6 ② ④	①粗砂粒(石英、長石、 雲母)②酸化焰 普通 ③におい橙色	外面 頸部に櫛描文(9+a)、口縁部と胴部上 位に波状文(7+a)。 内面 研磨。	
第95図 -9 P L 117	弥生 壺	口縁部片	①23.7 ② ④	①粗砂粒(雲母) ②酸化焰 普通 ③橙色	口縁部折り返し。 外面 口唇部は刻目、口縁部はヘラ磨き。 内面 ヘラ磨き。	
第95図 -10 P L 117	弥生 甕	掘り方 口縁部片	①24.1 ② ④	①細砂粒(亜角礫φ2mm、 雲母)②酸化焰 普通 ③浅黄色	口唇部は貼り付け。 外面 口唇部に刻目、口縁部は縦方向のヘラ 磨き。	
第95図 -11 P L 117	弥生 甕	床面直上 口縁部～ 胴部下位	①13.8 ② ④	①粗砂粒(長石、雲母) ②酸化焰 やや軟質 ③橙色	外面 頸部に簾状文?(6+a、右廻り、2連止 1ヶ所)口縁部には雑な波状文(単位不明、右廻 り)、胴部上位にも波状文(5+a、右廻り)、胴 部中位はヘラ削り、下位は研磨。 内面 口縁部がヘラ削り、胴部はヘラ撫で。	
第95図 -12 P L 117	弥生 甕	口縁部～ 頸部	① ② ④	①細砂粒(長石、雲母) ②酸化焰 ③におい赤褐色	外面 頸部に簾状文(6+a)施文後、口縁部に 下から上へ波状文(6+a、右廻り)4段と胴部 上位に波状文(単位不明)を施文。 内面 口縁部上半と胴部はヘラ撫で、口縁部下 半から頸部にかけては、横方向のヘラ磨き。	
第95図 -13 P L 117	弥生 甕	床面直上 胴部下位	① ② ④	①粗砂粒(石英、長石、 雲母)②酸化焰 普通 ③橙色	外面 横方向のヘラ削り。 内面 ヘラ磨き。	
第96図 -14	弥生 甕	底部～ 胴部下位	① ②6.3 ④	①粗砂粒(雲母) ②酸化焰 やや軟質 ③橙色	外面 整形は器面が荒れていて不明。 内面 ヘラ磨き。	
第96図 -15	弥生 甕	底部片	① ②7.6 ④	①粗砂粒(石英、雲母) ②酸化焰 普通 ③におい橙色	外面 胴部はヘラ削り。	
第96図 -16	弥生 甕	掘り方 底部片	① ②8.4 ④	①粗砂粒(石英) ②酸化焰 ③におい橙色	外面 底部・胴部ともヘラ削り。 内面 ヘラ磨き。	

下川田平井遺跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	法量 (cm)	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第96図 -17 P L 117	弥生 甕	底部～ 胴部下位	① ②5.8 ④	①粗砂粒(石英、長石、 雲母)②酸化焰 普通 ③外面 褐色 内面 ぶい橙色	外面 ヘラ削り。 内面 身こみ部に刷毛目、胴部はヘラ撫で。	
第96図 -18	弥生 甕	底部片	① ②8.0 ④	①粗砂粒(石英、雲母、 円礫φ3mm)②酸化焰 普 通③にぶい黄橙色	外面 胴部・底部ともヘラ磨き。	
第96図 -19	弥生 壺	底部～ 胴部下位	① ②7.0 ④	①粗砂粒(雲母) ②酸化焰 普通 ③にぶい橙色	外面 胴部は縦方向の刷毛整形後、横方向のヘ ラ削りか。 内面 ヘラ撫で。	
第96図 -20 P L 117	弥生 壺	底部～ 胴部下位	① ②10.0 ④	①粗砂粒(石英、雲母) ②酸化焰 普通 ③にぶい黄橙色	外面 ヘラ削り。 内面 刷毛目。	
第96図 -21	弥生 台付甕	脚部片	① ③脚部径9.8 ④	①細砂粒(雲母) ②酸化焰 普通 ③橙色	外面 縦方向ヘラ削り。	
第96図 -22 P L 118	弥生 台付甕	脚部	① ③脚部径10.6 ④	①粗砂粒(石英、雲母) ②酸化焰 普通 ③浅黄橙色	外面 ヘラ削りか。 内面 刷毛目。	
第96図 -23	弥生 甕	口縁部片	① ② ④	①細砂粒(雲母) ②酸化焰 ③にぶい赤褐色	外面 波状文(8+a)を2段。	
第96図 -24	弥生 高杯	口縁部片	① ② ④	①細砂粒 ②酸化焰 普通 ③赤色	内外面ともヘラ磨き後、赤色塗彩。	
第96図 -25 P L 118	弥生 甕	口縁部片	① ② ④	①細砂粒(雲母) ②酸化焰 普通 ③にぶい橙色	口唇部折り返し。外面 波状文(単位不明)。 内面 ヘラ磨き後、口唇部に赤色塗彩。	
第96図 -26	弥生 壺	口縁部片	① ② ④	①細砂粒(亜角礫φ3mm) ②酸化焰 普通 ③浅黄橙色	外面 口唇部から波状文(単位不明)を施文。	
第96図 -27	弥生 高杯	口縁部片	① ② ④	①粗砂粒(雲母) ②酸化焰 硬質 ③赤色	内外面とも赤色塗彩。	
第96図 -28 P L 118	弥生 甕	口縁部片	① ② ④	①粗砂粒(石英、雲母) ②酸化焰 普通 ③にぶい橙色	外面 頸部に簾状文(9+a)施文後口縁部に波 状文(単位不明)を施文。	
第96図 -29 P L 118	弥生 甕	口縁部片	① ② ④	①粗砂粒(石英、雲母) ②酸化焰 ③橙色	口縁部折り返し。外面 口縁部は雑な波状文(4 +a)を5段。 内面 横方向ヘラ磨き。	
第96図 -30	弥生 甕	口縁部～ 頸部片	① ② ④	①粗砂粒(雲母) ②酸化焰 普通 ③にぶい黄橙色	外面 頸部に簾状文(単位不明)、口縁部に波状 文(6+a)を施文。	
第96図 -31	弥生 甕	頸部～ 胴部上位片	① ② ④	①粗砂粒(雲母) ②酸化焰 やや軟質 ③浅黄橙色	外面 頸部に簾状文(単位不明)、胴部は磨耗の ため整形、施文不明。 内面 ヘラ撫で後、粗いヘラ磨き。	
第96図 -32	弥生 甕	口縁部片	① ② ④	①粗砂粒(雲母) ②酸化焰 普通 ③橙色	外面 刷毛整形後、波状文(4+a、右廻り) を施文。	
第96図 -33	弥生 甕	胴部上位片	① ② ④	①粗砂粒(長石、雲母) ②酸化焰 普通 ③灰色	外面 簾状文(単位不明)を施文後、胴部に波状 文(6+a)を2段施文、波状文より下は、ヘラ 磨き。	
第96図 -34	弥生 甕	口縁部片	① ② ④	①細砂粒(長石、雲母) ②酸化焰 普通 ③灰褐色	外面 波状文(4+a)を4段。 内面 横方向のヘラ磨き。	
第96図 -35 P L 118	土製品 土錘	完形	最大長4.5 最大巾1.35 孔径0.4 重量7.0	①粗砂粒 ②酸化焰 普通 ③橙色	外面 ヘラ撫で。	

挿図番号 図版番号	種別	出土位置	①最大長②最大幅 ③厚み ④重量	石 材	製作技法等の特徴	備考
97-36 P L 118	加工痕ある 剥片		①7.9 ②4.9 ③1.6 ④70.4	黒色安山岩	縦長剥片素材。 一側縁に加工痕が認められる。	
97-37 P L 118	打製石斧		①9.9 ②6.7 ③1.8 ④117.4	黒色頁岩	撥形。	

## 24号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器 種	出土位置 遺存状態	法 量 (cm)	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第101図 - 1	弥生 鉢	口縁部片	①14.0 ② ④	①細砂粒(雲母) ②酸化焰 普通 ③浅黄橙色	内外面とも研磨と思われるが単位不明。	
第101図 - 2	弥生 鉢	口縁部片	①14.8 ② ④	①細砂粒(石英、雲母) ②酸化焰 普通 ③灰白色	内面 研磨。	
第101図 - 3	弥生 鉢	底部～ 胴部下位	① ②5.0 ④	①粗砂粒(石英、雲母) ②酸化焰 普通 ③外面 赤色 内面 にぶい黄橙色	外面 胴部に一部と底部にヘラ削り。 外面の胴部と内面の一部に赤色塗彩。	
第101図 - 4	弥生 高杯	口縁部片	①15.0 ② ④	①細砂粒(雲母) ②酸化焰 普通 ③外面 浅黄橙色 内面 赤色	内外面とも研磨。内面に赤色塗彩。	
第101図 - 5	弥生 高杯	口縁部片	①18.8 ② ④	①細砂粒(石英、雲母) ②酸化焰 普通 ③暗赤色	内外面とも研磨、赤色塗彩。	
第101図 - 6 P L 118	弥生 高杯	杯身部分	①18.9 ② ④	①細砂粒(石英、雲母) ②酸化焰 普通 ③外面 赤色 内面 にぶい黄橙色	内外面とも研磨で赤色塗彩。 外面は赤色が剥離。	
第101図 - 7	弥生 高杯	脚部片	① ② ④	①粗砂粒(石英、雲母) ②酸化焰 普通 ③にぶい橙色	外面 研磨。	
第101図 - 8 P L 118	弥生 高杯	脚部片	① ② ④	①粗砂粒(石英) ②酸化焰 普通 ③明赤褐色	外面 ヘラ削り。 内面 脚部がヘラ撫で。	
第101図 - 9 P L 118	弥生 高杯	脚部片	① ② ④	①粗砂粒(亜角礫φ2~3mm) ②酸化焰 普通 ③赤色	外面 ヘラ削り。	
第101図 - 10 P L 118	弥生 高杯	杯身～脚部	① ② ④	①粗砂粒(石英) ②酸化焰 普通 ③にぶい赤褐色	外面 脚部がヘラ削り。 内面 杯部に研磨、脚部がヘラ撫で。	
第101図 - 11 P L 118	弥生 高杯	脚部片	① ② ④	①粗砂粒(長石、雲母) ②酸化焰 軟質 ③橙色	外面 細かいヘラ削り。 内面 杯部が研磨、脚部が刷毛整形後ヘラ撫で。	
第101図 - 12 P L 118	弥生 高杯	脚部片	① ② ④	①粗砂粒(角礫φ3~7mm、 雲母)②酸化焰 普通 ③外面 赤色、内面 淡黄色	粘土紐積み成形。 外面 研磨、赤色塗彩。 内面 刷毛目。	
第101図 - 13 P L 118	弥生 高杯	脚部片	① ② ④	①細砂粒(雲母) ②酸化焰 普通 ③外面 にぶい赤色 内面 にぶい黄橙色	脚部には円形ないし楕円形の「すかし」をもつ。 外面 研磨で赤色塗彩。 内面 上半が刷毛目、下半がヘラ削り。	
第101図 - 14 P L 118	弥生 蓋	鈕部片	①鈕径7.0 ② ④	①粗砂粒(石英) ②酸化焰 軟質 ③橙色	外面 ヘラ削り。	
第101図 - 15	弥生 甕	口縁部～ 胴部上位	①9.8 ② ④	①粗砂粒(石英、雲母) ②酸化焰 普通 ③灰白色	外面 頸部に簾状文(5+α、右廻り、1連止) と口縁部・胴部に波状文(単位不明)を施文。	
第101図 - 16 P L 118	弥生 甕	口縁部～ 頸部	①13.7 ② ④	①粗砂粒(石英) ②酸化焰 普通 ③橙色	口唇部は折り返し。外面 口唇部より口縁部に かけて波状文(単位不明)。 内面 頸部から胴部にかけて研磨。	

下川田平井遺跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	法量 (cm)	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第101図 -17	弥生 甕	口縁部片	①14.8 ② ④	①粗砂粒(石英、雲母) ②酸化焰 普通 ③にぶい赤褐色	外面 口縁部に波状文(6+α)、頸部に簾状文(単位不明)。 内面 研磨。	
第101図 -18 P L 118	弥生 甕	床面直上 口縁部～ 頸部	①12.1 ② ④	①粗砂粒(長石、雲母) ②酸化焰 普通 ③にぶい赤褐色	外面 頸部に簾状文(5+α、右廻り、2連止)を施文後、口縁部と胴部に波状文(単位不明)を施文。内面 研磨。	
第101図 -19 P L 118	弥生 甕	口縁部片	①17.4 ② ④	①粗砂粒(石英、長石、雲母)②酸化焰 普通 ③にぶい橙色	外面 波状文(単位不明)。 内面 研磨。	
第101図 -20 P L 118	弥生 甕	口縁部～ 胴部上位	①11.7 ② ④	①粗砂粒(垂角礫φ3mm、雲母)②酸化焰 普通 ③橙色	外面 口縁部と胴部に波状文(単位不明)、頸部に簾状文(6+α、右廻り、1連止) 内面 ヘラ撫で。	
第101図 -21	弥生 甕	口縁部～ 頸部	①17.6 ② ④	①粗砂粒(石英、雲母) ②酸化焰 普通 ③にぶい褐色	外面 頸部に簾状文(8+α、右廻り、2連止)、口縁部と胴部に波状文(単位不明)。 内面 研磨か。	
第101図 -22 P L 118	弥生 甕	口縁部～ 胴部中位	①14.8 ② ④	①粗砂粒(雲母) ②酸化焰 普通 ③橙色	外面 口縁部から頸部にかけては波状文(5+α)を3段、胴部は研磨。 内面 研磨。	
第102図 -23 P L 118	弥生 甕	口縁部片	①19.0 ② ④	①粗砂粒(長石、黄雲母) ②酸化焰 普通 ③にぶい黄褐色	口唇部は折り返し。外面 口唇部・口縁部とも波状文(6+α)を4段施文。	
第102図 -24 P L 118	弥生 甕	口縁部～ 胴部中位	①17.4 ② ④	①粗砂粒(長石、雲母) ②酸化焰 普通 ③橙色	口唇部は折り返し。外面 頸部に簾状文(8+α右廻り? 2連止)を施文後、口縁部に波状文(8+α、右廻り?)を2段と胴部に波状文(8+α、右廻り)を施文。 内面 口縁部研磨、胴部がヘラ撫で。	
第102図 -25 P L 119	弥生 甕	1/3	①13.0 ② ④	①粗砂粒(雲母) ②酸化焰 普通 ③明赤褐色	外面 口縁部に波状文(6+α)を4段と頸部に簾状文(7+α、右廻り、2連止、6ヶ所)を施文。胴部は研磨。 内面 口縁部が研磨、胴部がヘラ撫で。	
第102図 -26 P L 119	弥生 甕	口縁部～ 胴部中位	①14.8 ② ④	①粗砂粒(石英、雲母) ②酸化焰 普通 ③橙色	外面 口縁部に波状文(6+α)を4段と頸部に簾状文(7+α、2連止、6ヶ所)を施文、胴部は研磨。内面 口縁部が研磨、胴部がヘラ撫で。	
第102図 -27 P L 119	弥生 甕	口縁部～ 頸部付近	①17.8 ② ④	①細砂粒(石英、雲母) ②酸化焰 普通 ③外面 にぶい褐色 内面 にぶい黄褐色	外面 頸部に簾状文(9+α、右廻り、2連止、16ヶ所)を施文後、口縁部に波状文(9+α、右廻り)を5段と胴部上位に波状文(8+α、右廻り)を1段施文。内面 ヘラ撫で。	
第102図 -28 P L 119	弥生 甕	口縁部～ 胴部中位	①15.6 ② ④	①粗砂粒(垂角礫φ2～4mm、石英、長石、雲母) ②酸化焰 普通 ③にぶい黄褐色	外面 頸部に簾状文(7+α、右廻り)を3段、胴部はヘラ削り。 内面 口縁部が研磨。	
第102図 -29 P L 119	弥生 甕	口縁部～ 胴部中位	①18.2 ② ④	①細砂粒(雲母) ②酸化焰 普通 ③にぶい黄褐色	外面 口縁部から頸部にかけて刷毛整形後、頸部に簾状文(7+α、右廻り、3連止、4ヶ所)を施文後、口縁部に波状文(7+α、右廻り)を6段と胴部上位に波状文(7+α、右廻り)を施文後、胴部上位の波状文上に刺突文を施した円形ボタン状文を貼り付け。胴部上半は研磨。胴部下半は丁寧なヘラ削り。 内面 口縁部が研磨、胴部はヘラ撫で。	
第102図 -30	弥生 甕	胴部中位	① ② ④	①粗砂粒(長石、雲母) ②酸化焰 普通 ③明赤褐色	外面 胴部上位に波状文(6+α)、その下位はヘラ削り。 内面 研磨。	
第102図 -31	弥生 甕	底部～ 胴部下位	① ②5.0 ④	①粗砂粒(石英、長石) ②酸化焰 普通 ③外面 灰褐色 内面 明赤褐色	外面 胴部がヘラ削り。 内面 研磨。	
第102図 -32 P L 119	弥生 甕	底部～ 胴部下位	① ②4.8 ④	①細砂粒(石英、長石、雲母)②酸化焰 普通 ③にぶい赤褐色	内外面とも研磨。	

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	法量 (cm)	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第102図 -33	弥生 甕	底部	① ②6.6 ④	①粗砂粒(雲母) ②酸化焰 普通 ③橙色	外面 ヘラ削り。 内面 ヘラ撫で。	
第102図 -34	弥生 甕	底部	① ②7.0 ④	①粗砂粒(雲母) ②酸化焰 普通 ③にぶい橙色	内外面とも研磨。	
第102図 -35	弥生 甕	底部片	① ②6.2 ④	①粗砂粒(石英、雲母) ②酸化焰 普通 ③赤橙色	内外面とも研磨。	
第102図 -36 P L 119	弥生 小型甕	底部～ 胴部	① ②4.5 ④	①細砂粒(雲母、褐色粒) ②酸化焰 普通 ③にぶい橙色	外面 胴部・底部とも研磨。 内面 下位が研磨、それより上位はヘラ撫で。	
第103図 -37 P L 119	弥生 甕	底部～ 胴部下位	① ②5.0 ④	①細砂粒(雲母) ②酸化焰 普通 ③橙色	外面 ヘラ削り(単位不明)。 内面 一部に研磨がみられる。	
第103図 -38 P L 119	弥生 甕	底部～ 胴部下位	① ②5.2 ④	①粗砂粒(石英、雲母) ②酸化焰 普通 ③橙色	外面 胴部ヘラ削り、底部が研磨。 内面 研磨。	
第103図 -39	弥生 甕	底部～ 胴部下位	① ②7.0 ④	①粗砂粒(長石、雲母) ②酸化焰 普通 ③にぶい赤褐色	外面 胴部・底部ともヘラ削り。 内面 胴部がヘラ撫で、底部が研磨。	
第103図 -40	弥生 甕	床面直上 底部片	① ②6.8 ④	①粗砂粒(亜角礫φ5mm、 石英)②酸化焰 普通 ③橙色	内外面ともヘラ削り。	
第103図 -41 P L 119	弥生 甕	底部片	① ②9.4 ④	①粗砂粒(雲母) ②酸化焰 普通 ③橙色	外面 胴部がヘラ削り後雑な研磨、底部は研磨。 内面 胴部が研磨で身こみ部はヘラ撫で。	
第103図 -42 P L 119	弥生 壺	底部～ 胴部下位	① ②4.8 ④	①細砂粒(長石、雲母) ②酸化焰 普通 ③橙色	外面 胴部・底部とも研磨。 内面 ヘラ撫で。	
第103図 -43	弥生 台付甕	口縁部～ 胴部中位	①11.8 ② ④	①細砂粒(長石、雲母) ②酸化焰 普通 ③にぶい橙色	外面 頸部に簾状文(6+a)を各1段、口唇部 に円形ボタン状文を貼り付け。 内面 研磨。	
第103図 -44 P L 119	弥生 台付甕	口縁部～ 胴部中位	①11.8 ② ④	①粗砂粒(長石、雲母) ②酸化焰 普通 ③赤橙色	外面 胴部がヘラ削り、口唇部に円形ボタン状 文を貼り付け。 内面 研磨。	
第103図 -45 P L 119	弥生 台付甕	3/4	①8.4 ② ④	①粗砂粒(長石、雲母) ②酸化焰 普通 ③にぶい赤橙色	脚部 甕部との接合部分より欠落。外面 口縁 部と頸部に波状文(3+a)、胴部はヘラ削り。 内面 研磨。	
第103図 -46 P L 119	弥生 台付甕	口縁部～ 胴部下位	①10.6 ② ④	①粗砂粒(長石、長石) ②酸化焰 普通 ③明黄褐色	外面 口縁部から胴部上半にかけて縦方向の刷 毛整形後、頸部に楕円文(6+a、右廻り)を施 文後、口縁部に波状文(6+a、右廻り)、胴部 中位は横方向、下位は縦方向のヘラ削り。 内面 口縁部が研磨。	
第103図 -47 P L 119	弥生 台付甕	頸部～ 胴部片	① ② ④	①粗砂粒(長石、雲母) ②酸化焰 普通 ③淡黄色	外面 頸部に簾状文(12+a、右廻り、2連止) を施文後、口縁部と胴部上位に波状文(11+a)、 胴部中位は研磨。内面 研磨。	
第103図 -48 P L 120	弥生 台付甕	脚部片	① ③脚部径7.4 ④	①細砂粒(石英、雲母) ②酸化焰 普通 ③橙色	外面 杯身底部から脚部にかけては研磨、脚部 下半はヘラ削り。 内面 杯身部分に研磨、脚部下半に刷毛目。	
第103図 -49 P L 120	弥生 壺	口縁部～ 頸部	①14.9 ② ④	①粗砂粒 ②酸化焰 普通 ③浅黄褐色	口縁部の整形は、磨耗のため不鮮明、頸部に9 条の楕円文が施されている。	
第103図 -50	弥生 壺	口縁部片	①22.0 ② ④	①粗砂粒(長石、雲母) ②酸化焰 普通 ③赤色	口唇部は貼り付け。内外面とも研磨。	
第103図 -51 P L 120	弥生 壺	口縁部～ 胴部上位	①19.8 ② ④	①粗砂粒(石英、長石、 雲母)②酸化焰 普通 ③浅黄褐色	外面 口縁部が刷毛目(9+a)、頸部は簾状文 (6+a、右廻り、2連止)を施文後、上下に波 状文(6+a) 内面 口縁部が研磨、胴部がヘラ撫で。	



下川田平井遺跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	法量 (cm)	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第104図 -52 P L 120	弥生 壺	口縁部～ 胴部中位	①29.6 ② ④	①粗砂粒(雲母) ②酸化焰 普通 ③淡黄色	口唇部は貼り付け。外面 口唇部が刻み目、口縁部は研磨、頸部は簾状文を2段、上(11+ $\alpha$ 、右廻り、1連止を5ヶ所、2連止を3ヶ所)下(1+ $\alpha$ 、右廻り、1連止を5ヶ所、2連止を3ヶ所)を施文後、T字文(11+ $\alpha$ 、2列4ヶ所、1列1ヶ所)を施文し、T字文下にヘラで2分割し刺突文を施した円形ボタン状文を5ヶ所に貼り付け。内面 口縁部が研磨、胴部は刷毛整形後ヘラ撫で。	
第103図 -53	弥生 壺	底部	① ②4.4 ④	①細砂粒(雲母) ②酸化焰 普通 ③外面 におい橙色 内面 褐灰色	外面 研磨。 内面 ヘラ撫で。	
第103図 -54 P L 120	弥生 壺	底部～ 胴部下位	① ②4.5 ④	①粗砂粒(雲母) ②酸化焰 普通 ③におい黄橙色	外面 胴部がヘラ削り、底部は研磨。 内面 研磨。	
第103図 -55 P L 120	弥生 甕	床面直上 底部～ 胴部下位	① ②6.8 ④	①粗砂粒(雲母) ②酸化焰 普通 ③におい橙色	外面 丁寧なヘラ削り。	
第103図 -56 P L 120	弥生 壺	底部～ 胴部下位	① ②8.8 ④	①粗砂粒(長石、雲母) ②酸化焰 普通 ③浅黄橙色	外面 整形不明。 内面 研磨。	
第103図 -57 P L 120	弥生 壺	底部～ 胴部下位	① ②9.6 ④	①粗砂粒(石英、雲母) ②酸化焰 普通 ③橙色	外面 胴部がヘラ削り後、底部付近から底部は研磨。内面 ヘラ撫で。	
第104図 -58 P L 120	弥生 壺	底部～ 胴部下位	① ②4.0 ④	①細砂粒(長石、雲母) ②酸化焰 普通 ③におい黄橙色	外面 ヘラ削り(単位不明)。 内面 ヘラ撫で。	
第104図 -59 P L 120	弥生 匙	柄のみ	長さ5.9 幅1.8 厚み1.75	①細砂粒(雲母) ②酸化焰 硬質 ③におい橙色	ヘラ撫で。	
第104図 -60	弥生 甕	口縁部片	① ② ④	①粗砂粒(石英、雲母) ②酸化焰 普通 ③におい橙色	口唇部は折り返し。外面 口唇部に波状文(単位不明)、頸部は簾状文(単位不明)。	
第104図 -61	弥生 甕	口縁部片	① ② ④	①粗砂粒(雲母) ②酸化焰 普通 ③におい赤褐色	口唇部は折り返し。外面 口縁部に波状文。 内面 刷毛目。	
第104図 -62	弥生 甕	床面直上 胴部片	① ② ④	①細砂粒(雲母) ②酸化焰 普通 ③におい黄橙色	外面 胴部上面に櫛描文(7+ $\alpha$ )を3段と波状文(単位不明)を2段施文後、T字文(単位不明)。	
第104図 -63 P L 120	弥生 甕	胴部片	① ② ④	①細砂粒(長石、雲母) ②酸化焰 普通 ③外面 明赤褐色 内面 灰褐色	外面 波状文(8+ $\alpha$ 、右廻り)と刺突文を施した円形ボタン状文を貼り付け、波状文より下位はヘラ削り。 内面 ヘラ撫で。	
第104図 -64	弥生 壺	胴部上位	① ② ④	①細砂粒(長石、雲母) ②酸化焰 普通 ③浅黄橙色	外面 櫛描文T字文後、二分割し刺突文を施した円形ボタン状文を貼り付け。	
挿図番号 図版番号	種別	出土位置	①最大長②最大幅 ③厚み ④重量	石 材	製作技法等の特徴	備考
104-65 P L 120	使用痕ある 剥片		①2.45 ②(2.9) ③0.7 ④5.3	珪質頁岩	縦長剥片素材。 一縁に使用痕が認められる。	
104-66 P L 120	加工痕ある 剥片		①3.1 ②2.2 ③0.8 ④4.1	珪質頁岩	横長剥片素材。 端縁に加工痕が認められる。	
104-67 P L 120	使用痕ある 剥片		①3.5 ②1.7 ③0.4 ④2.8	珪質頁岩	不定形剥片素材。 一縁に使用痕が認められる。	
104-68 P L 120	加工痕ある 剥片		①2.4 ②2.7 ③0.9 ④5.0	黒色頁岩	縦長剥片素材。打面部欠損。 一縁に僅かに加工痕が認められる。	
104-69 P L 120	加工痕ある 剥片		①3.4 ②2.1 ③0.6 ④5.1	珪質頁岩	縦長剥片素材。 一縁に僅かに加工痕が認められる。	
104-70 P L 120	使用痕ある 剥片		①5.5 ②3.65 ③1.75 ④22.8	黒色頁岩	不定形剥片素材。 一縁に使用痕が認められる。	



挿図番号 図版番号	種別	出土位置	①最大長②最大幅 ③厚み ④重量	石材	製作技法等の特徴	備考
105-71 P L 120	加工痕ある 剥片		①(5.5) ②3.3 ③1.2 ④18.7	黒色頁岩	縦長剥片素材。打面部欠損。 両側面に加工痕が認められる。	
105-72 P L 120	使用痕ある 剥片		①4.2 ②5.1 ③1.0 ④21.5	黒色頁岩	横長剥片素材。 一縁に使用痕が認められる。	
105-73 P L 120	加工痕ある 剥片		①3.9 ②5.5 ③0.7 ④13.8	黒色頁岩	横長剥片素材。 一縁に加工痕が認められる。	
105-74 P L 121	使用痕ある 剥片		①4.2 ②5.8 ③1.0 ④26.3	黒色頁岩	縦長剥片素材。 一縁に使用痕が認められる。	
105-75 P L 121	加工痕ある 剥片		①5.7 ②5.3 ③0.9 ④25.8	黒色頁岩	横長剥片素材。 一端に加工痕が認められる。	
105-76 P L 121	加工痕ある 剥片		①3.0 ②3.6 ③1.2 ④12.0	珪質頁岩	不定形剥片素材。 両側縁に加工痕が認められる。	
105-77 P L 121	加工痕ある 剥片		①5.0 ②6.3 ③1.55 ④34.7	黒色安山頁岩	横長剥片素材。 一側縁と端縁に加工痕が認められる。	
105-78 P L 121	使用痕ある 剥片		①5.7 ②6.0 ③0.8 ④45.5	黒色頁岩	縦長剥片素材。 一縁に使用痕が認められる。	
105-79 P L 121	加工痕ある 剥片		①9.2 ②4.0 ③1.3 ④50.2	黒色頁岩	縦長剥片素材。 一側縁に加工痕が認められる。	
105-80 P L 121	削器		①7.1 ②5.8 ③2.0 ④80.1	黒色頁岩	横長剥片素材。礫面残存。礫面打面。	
105-81 P L 121	使用痕ある 剥片		①5.4 ②6.9 ③0.8 ④44.2	黒色頁岩	縦長剥片素材。礫面残存。打面部欠損。 一縁に使用痕が認められる。	
105-82 P L 121	削器		①8.0 ②5.9 ③1.5 ④73.6	黒色頁岩	横長剥片素材。	
106-83 P L 121	削器		①7.75 ②6.8 ③2.0 ④96.9	黒色頁岩	縦長剥片素材。 礫面残存。	
106-84 P L 121	使用痕ある 剥片		①9.5 ②5.8 ③2.9 ④172.8	黒色頁岩	縦長剥片素材。礫面残存。 一縁に使用痕が認められる。	
106-85 P L 121	打製石斧	床面直上	①(7.95)②7.6 ③2.8 ④179.4	黒色頁岩	撥形か? 刃部欠損。	
106-86 P L 121	加工痕ある 剥片		①10.7 ②7.8 ③1.6 ④115.2	珪質頁岩	縦長剥片素材。 一縁に僅かに加工痕が認められる。	
106-87 P L 121	加工痕ある 剥片		①5.4 ②6.3 ③0.7 ④39.0	珪質頁岩	縦長剥片素材。 一縁に僅かに加工痕が認められる。	
106-88 P L 121	敲石		①(13.7)②3.7 ③3.1 ④259.9	黒色頁岩	両面に敲打による剥離痕が認められる。	
106-89 P L 121	紡錘車		径3.1 ③1.3 ④9.47	白色凝灰岩	調整の削りが荒い。 穿孔は両方向からである。	

## 25号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	法量 (cm)	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第111図 - 1	弥生 鉢	口縁部片	①11.0 ② ④	①粗砂粒(長石、雲母) ②酸化焰 やや軟質 ③橙色	内外面とも研磨か?	
第111図 - 2	弥生 鉢	口縁部片	①13.4 ② ④	①粗砂粒(長石、雲母) ②酸化焰 軟質 ③にぶい黄橙色	整形不明。	
第111図 - 3	弥生 鉢	口縁部片	①13.5 ② ④	①細砂粒(雲母) ②酸化焰 ③にぶい橙色	内外面とも研磨。	
第111図 - 4 P L 121	弥生 鉢	1/4	①12.0 ②4.1 ④5.9	①粗砂粒(石英) ②酸化焰 普通 ③浅黄色	内外面とも研磨。	
第111図 - 5 P L 121	弥生 有孔鉢	完形	①13.8②3.6 ③孔径 0.4~1.0 ④8.7	①細砂粒(石英、雲母) ②酸化焰 普通 ③灰白色	外面 体部上半がヘラ削り(器面が荒れており 単位不明)、下半は研磨、底部はヘラ削り。 内面 全面的研磨。	

下川田平井遺跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	法量 (cm)	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第111図 -6 P L 121	弥生 鉢	1/4	①14.8 ②4.5 ③7.8	①粗砂粒(石英、長石) ②酸化焰 普通 ③淡黄色	外面 口縁部が横撫で、体部から底部にかけてはヘラ削り。 内面 上半がヘラ撫で、下半は研磨。	
第111図 -7	弥生 鉢	底部片	① ②4.0 ④	①粗砂粒 ②酸化焰 ③にぶい黄橙色	外面 胴部・底部ともヘラ削り。	
第111図 -8 P L 121	弥生 鉢	底部～ 胴部下位	① ②4.0 ④	①粗砂粒(長石、雲母) ②酸化焰 普通 ③浅黄色	外面 体部・底部とも研磨。 内面 研磨。	
第111図 -9	弥生 鉢	底部～ 胴部下位	① ②4.4 ④	①細砂粒(石英、雲母) ②酸化焰 ③浅黄橙色	外面 体部・底部ともヘラ磨き。 内面 ヘラ撫で。	
第111図 -10	弥生 高杯	床面直上 杯下部	① ② ④	①細砂粒 ②酸化焰 普通 ③内外面とも赤色 胎土 浅黄橙色	内外面とも研磨後、赤色塗彩。	
第111図 -11	弥生 高杯	脚接合部	① ②4.0 ④	①粗砂粒 ②酸化焰 普通 ③浅黄色	外面 研磨。	
第111図 -12 P L 121	弥生 高杯	杯部	① ②4.0 ④	①細砂粒(石英、長石、 雲母)②酸化焰 普通 ③赤橙色	外面 ヘラ削り。 内面 ヘラ撫で。	
第111図 -13	弥生 高杯	床面直上 杯部下位	① ② ④	①粗砂粒(雲母) ②酸化焰 普通 ③にぶい黄橙色	内外面ともヘラ磨き。	
第111図 -14	弥生 高杯	脚接合部	① ②2.8 ④	①粗砂粒(石英) ②酸化焰 普通 ③外面 赤色 内面 にぶい橙色	外面 研磨後、赤色塗彩。	
第111図 -15 P L 121	弥生 蓋	鈕部	①鈕径6.8 ② ④	①粗砂粒(石英、雲母) ②酸化焰 ③外面 にぶい橙色 内面 にぶい褐色	外面 ヘラ削り。	
第111図 -16 P L 121	弥生 高杯	脚部	① ② ④	①粗砂粒(石英、長石) ②酸化焰 普通 ③にぶい橙色	外面 ヘラ削りで部分的に研磨。 内面 刷毛目。	
第111図 -17	弥生 高杯	脚部片	① ③脚部径7.0 ④	①粗砂粒(石英) ②酸化焰 軟質 ③にぶい橙色	磨耗のため整形不明。	
第111図 -18 P L 121	弥生 蓋	鈕部	①鈕径6.6 ② ④	①細砂粒(石英、長石、 雲母)②酸化焰 普通 ③赤橙色	外面 丁寧なヘラ削り。鈕部内面 ヘラ撫で。	
第111図 -19 P L 121	弥生 甌	ほぼ完形	①11.2 ②4.2 ③孔径1.2 ④6.6	①粗砂粒(石英、長石) ②酸化焰 普通 ③赤橙色	外面 口縁部が横撫で、体部はヘラ削り。 内面 口縁部が横撫で、体部はヘラ削りと研磨。	
第111図 -20 P L 122	弥生 小型甕	1/2	①9.2 ②3.9 ④7.4	①細砂粒(石英、雲母) ②酸化焰 普通 ③にぶい黄橙色	外面 口縁部と頸部に波状文(6 + $\alpha$ 、右廻り) 胴部はヘラ削り。底部はヘラ削りであるが、中 心部をやや削りこんでいる。内面 口縁部から 頸部にかけて研磨、胴部はヘラ撫で。	
第111図 -21	弥生 甕	口縁部	① ② ④	①粗砂粒(雲母) ②酸化焰 ③にぶい褐色	口縁部は折り返し。外面 口唇部が横撫で、口 縁部は波状文(7 + $\alpha$ )を3段以上。 内面 研磨。	
第111図 -22 P L 122	弥生 甕	口縁部片	①11.6 ② ④	①粗砂粒(石英、長石) ②酸化焰 ③橙色	外面 口縁部から頸部にかけて波状文(7 + $\alpha$ ) を3段。	
第111図 -23	弥生 甕	口縁部～ 頸部	①10.6 ② ④	①細砂粒(雲母) ②酸化焰 普通 ③にぶい橙色	外面 口縁部から頸部にかけて波状文(6 + $\alpha$ ) を3段。 内面 ヘラ磨き。	

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	法量 (cm)	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第111図 -24	弥生 甕	口縁部片	①11.8 ② ④	①粗砂粒(長石、雲母) ②酸化焰 普通 ③灰褐色	口縁部は折り返し。外面 口唇部より撫で、 口縁部は波状文(7 + $\alpha$ 、右廻り)を4段。 内面 研磨。	
第111図 -25 P L 122	弥生 甕	口縁部片	①16.8 ② ④	①粗砂粒(石英、雲母、 鉄分)②酸化焰 普通 ③灰白色	口唇部は折り返し。外面 口縁部に波状文(5 + $\alpha$ ) 内面 ヘラ撫で。	
第111図 -26	弥生 甕	口縁部片	①19.4 ② ④	①粗砂粒(雲母) ②酸化焰 普通 ③にぶい橙色	口縁部は折り返し。外面 口唇部が横撫で折り 返しの下は刷毛目、口唇部より下はヘラ削り。 内面 ヘラ撫で。	
第111図 -27	弥生 甕	床面直上 口縁部片	①18.8 ② ④	①粗砂粒(雲母) ②酸化焰 ③にぶい橙色	口縁部は折り返し。外面 口唇部より下にむけ て波状文(単位不明)。 内面 ヘラ撫で。	
第112図 -28 P L 122	弥生 甕	ほぼ完形	①11.0 ②5.7 ④14.5	①粗砂粒(長石、雲母) ②酸化焰 普通 ③橙色	口唇部は折り返し。外面 口唇部にかけて波状 文(8 + $\alpha$ )を5段、胴部・底部は研磨。 内面 口縁部が研磨、胴部はヘラ撫で。	
第112図 -29 P L 122	弥生 甕	ほぼ完形	①10.0 ②5.3 孔径1.3 ④15.1	①細砂粒(長石、雲母) ②酸化焰 普通 ③にぶい黄橙色	口唇部は折り返し。底部には穿孔がみられる。 外面 口唇部から頸部にかけて波状文(6 + $\alpha$ 、 右廻り)を5段、胴部・底部は研磨。 内面 刷毛整形後研磨(頸部は刷毛目が残る)。	
第112図 -30 P L 122	弥生 甕	1/2	①13.8 ②5.2 ④20.4	①粗砂粒(石英、長石、 雲母)②酸化焰 普通 ③赤褐色	外面 口縁部に波状文(6 + $\alpha$ )を3~4段と頸 部に簾状文(5 + $\alpha$ 、右廻り、2連止)、胴部上 位に波状文(4 + $\alpha$ )を3段、胴部下半は研磨。 内面 口縁部から頸部にかけてと胴部下位に研 磨。胴部上位・中位はヘラ撫で。	
第112図 -31 P L 122	弥生 甕	1/2	①17.2 ②6.8 ④29.7	①粗砂粒(石英、長石、 雲母)②酸化焰 普通 ③淡黄色	口唇部は折り返し。外面 頸部に簾状文(10 + $\alpha$ 、右廻り、2連止)、口縁部には頸部から口唇 部にかけて波状文(10 + $\alpha$ 、右廻り)を5段と 胴部上位に波状文(10 + $\alpha$ 、右廻り)を2段施文、 胴部中位以下は研磨。	
第112図 -32 P L 122	弥生 甕	口縁部~ 胴部上位	①17.7 ② ④	①細砂粒(石英、長石、 雲母)②酸化焰 軟質 ③にぶい黄橙色	外面 口縁部から頸部にかけて波状文(7 + $\alpha$ 、 右廻り)を5段。胴部はヘラ削り部分的に研磨。 内面 口縁部は研磨、胴部は刷毛目。	
第112図 -33	弥生 甕	床面直上 胴部上位片	① ② ④	①細砂粒(雲母) ②酸化焰 普通 ③淡橙色	外面 胴部上位に波状文(単位不明)、その下は 縦方向ヘラ磨き。	
第112図 -34	弥生 壺	底部片	① ②13.2 ④	①粗砂粒(角礫 $\phi$ 2mm) ②酸化焰 やや軟質 ③にぶい褐色	外面 胴部・底部はヘラ削り。	
第113図 -35	弥生 甕	底部片	① ②4.2 ④	①粗砂粒(石英、雲母) ②酸化焰 ③にぶい橙色	外面 胴部・底部とも研磨。	
第113図 -36	弥生 甕	底部片	① ②6.2 ④	①粗砂粒(雲母、褐色粒) ②酸化焰 普通 ③浅黄橙色	外面 胴部・底部ともヘラ削り。	
第113図 -37	弥生 甕	底部片	① ②5.6 ④	①粗砂粒 ②酸化焰 普通 ③赤色	外面 胴部・底部とも研磨。 内面 胴部は刷毛目。	
第113図 -38	弥生 甕	底部片	① ②6.8 ④	①粗砂粒(雲母、褐色粒) ②酸化焰 硬質 ③橙色	底部は円板作り。胴部に輪積み痕がみられる。 外面 胴部・底部とも研磨。 内面 胴部は研磨。	
第113図 -39	弥生 壺	床面直上 底部	① ②7.4 ④	①粗砂粒(長石、雲母) ②酸化焰 普通 ③橙色	外面 胴部・底部ともヘラ削り。 内面 研磨。	
第113図 -40	弥生 甕	底部~ 胴部下位	① ②5.8 ④	①細砂粒(雲母) ②酸化焰 普通 ③橙色	外面 ヘラ削り。 内面 ヘラ撫で。	
第113図 -41 P L 122	弥生 甕	底部~ 胴部下位	① ②6.0 ④	①粗砂粒(石英、長石) ②酸化焰 普通 ③浅黄褐色	外面 胴部・底部ともヘラ削り。 内面 ヘラ撫で。	

下川田平井遺跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	法量 (cm)	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第113図 -42 P L 122	弥生 台付甕	口縁部～ 胴部中位	①9.8 ② ④	①細砂粒(石英、雲母) ②酸化焰 普通 ③淡黄色	外面 口縁部上半が横撫で、口縁部下半から胴部上位にかけて波状文(7+α)を4段施文、胴部はヘラ削り。 内面 口縁部が横撫で、胴部が研磨。	
第113図 -43 P L 122	弥生 台付甕	口縁部～ 胴部中位	①10.6 ② ④	①細砂粒(石英、長石) ②酸化焰 ③外面 におい赤褐色	外面 口縁部横撫で、頸部は簾状文(5+α、右廻り、2連止)、胴部最大径の所に刺突文が施された円形ボタン状文を貼り付け。 内面 粗い研磨。	
第113図 -44	弥生 台付甕	脚部片	① ③脚部径7.0 ④	①粗砂粒(雲母) ②酸化焰 普通 ③外面 におい橙色 内面 におい褐色	外面 研磨。 内面 ヘラ削り。	
第113図 -45	弥生 台付甕	脚部片	① ③脚部径8.8 ④	①細砂粒(長石、雲母) ②酸化焰 普通 ③におい黄橙色	外面 縦方向ヘラ削り。 内面 刷毛目。	
第113図 -46 P L 122	弥生 台付甕	床面直上 胴部下位～ 脚部 (裾部欠損)	① ②5.2 ④	①粗砂粒(雲母) ②酸化焰 普通 ③におい黄橙色	外面 胴部下位から脚部にかけて縦方向ヘラ削り。 内面 胴部はヘラ撫で。	
第113図 -47	弥生 壺	口縁部片	①11.8 ② ④	①粗砂粒(石英、雲母) ②酸化焰 普通 ③外面 赤色 胎土 橙色	外面 口唇部は横撫で、口縁部は縦方向研磨。 内面 横方向研磨。	
第113図 -48 P L 122	弥生 壺	床面直上 口縁部片	①11.8 ② ④	①粗砂粒(小石) ②酸化焰 普通 ③外面 赤色 胎土 橙色	口縁部に補修孔あり。外面 口唇部は横撫で、口唇部より下は縦方向研磨。 内面 器面は荒れているが横方向研磨。	
第113図 -49	弥生 甕	底部～ 胴部下位	① ②7.6 ④	①粗砂粒(雲母) ②酸化焰 普通 ③におい橙色	外面 胴部・底部ともヘラ削り。 内面 ヘラ撫で。	
第113図 -50 P L 123	弥生 壺	底部～ 胴部	① ②10.0 ④	①粗砂粒(垂角礫φ5mm、 石英、雲母) ②酸化焰 普通 ③浅黄橙色	外面 上位より簾状文(単位不明、右廻り、2連止)、柳描文(7+α)を2～3段、波状文(5+α、右廻り)を1～2段施文。それ以下は刷毛整形後ヘラ削りで波状文下と胴部下半は研磨。底部はヘラ削り。 内面 胴部以下は刷毛整形後ヘラ削り、中位以下はヘラ撫で。	
第114図 -51 P L 124	弥生 甕	2/3	①45.0 ②17.0 ④97.5	①細砂粒 ②酸化焰 普通 ③赤色	輪積み痕が残る。外面 口縁部は縦方向の刷毛整形後横方向の研磨。頸部下より胴部上位は柳描文(10+α)を5段と波状文(12+α、右廻り)を2～3段施文後、T字文(13+α)を8ヶ所とT字文下位に沈線を施した円形ボタン状文を貼付。胴部中位～下位は研磨。施文部分以外は赤色塗彩。内面 口縁部は研磨、赤色塗彩。胴部はヘラ撫で。	
第114図 -52 P L 123	弥生 台付片口	3/4	①12.0 ②4.6③8.5 ④16.5	①粗砂粒(長石、雲母) ②酸化焰 普通 ③におい黄橙色	外面 片口部・脚部ともヘラ削り。 内面 片口部ヘラ撫で後、粗い研磨で白色の付着物あり。	
第114図 -53 P L 123	弥生 土製品玉	床面直上 完形	径2.4～2.6 全長3.1	①粗砂粒(雲母) ②酸化焰 普通 ③淡黄色	楕円形を呈し、全面的に刺突文を施している。	
第115図 -54	弥生 甕	口縁部片	① ② ④	①粗砂粒(長石、雲母) ②酸化焰 普通 ③橙色	口縁部は折り返し。外面 口唇部の下半は指押さえ。 内面 刷毛目。	
第115図 -55	弥生 甕	口縁部片	① ② ④	①細砂粒(雲母) ②酸化焰 ③浅黄橙色	口唇部は波状文。外面 波状文(単位不明)	
第115図 -56	弥生 甕	口縁部片	① ② ④	①粗砂粒(雲母) ②酸化焰 ③におい橙色	口縁部は折り返し。外面 口唇部より波状文(8+α)。	

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	法量 (cm)	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第115図 -57	弥生 甕	弥生 口縁部	① ② ④	①粗砂粒(長石、雲母) ②酸化焰 普通 ③にぶい黄褐色	口縁部は折り返し。外面 口縁部に刷毛整形後、 口唇部から口縁部に波状文(5+a)を施文。 内面 ヘラ撫で。	
第115図 -58	弥生 甕	口縁部片	① ② ④	①粗砂粒(長石、雲母) ②酸化焰 普通 ③灰褐色	外面 波状文(単位不明)。 内面 横方向の研磨。	
第115図 -59	弥生 甕	口縁部片	① ② ④	①粗砂粒 ②酸化焰 普通 ③灰白色	口唇部折り返し。外面 口唇部が横撫で、口縁 部が刷毛目。 内面 刷毛目。	
第115図 -60	弥生 甕	頸部片	① ② ④	①粗砂粒(雲母) ②酸化焰 ③にぶい橙色	外面 頸部に簾状文(9+a、右廻り、2連止) を施文後、口縁部と胴部に波状文(単位不明)。 内面 ヘラ撫で。	
第115図 -61	弥生 甕	口縁部片	① ② ④	①粗砂粒(長石、雲母) ②酸化焰 普通 ③にぶい黄褐色	外面 頸部に簾状文(単位不明、右廻り、2連止)、 口縁部に波状文(単位不明)。 内面 研磨。	
第115図 -62	弥生 甕	口縁部片	① ② ④	①粗砂粒(褐色粒、雲母) ②酸化焰 普通 ③にぶい橙色	外面 刷毛整形後、波状文(5+a)を施文。 内面 ヘラ磨き。	
第115図 -63	弥生 甕	頸部片	① ② ④	①細砂粒(雲母) ②酸化焰 ③にぶい褐色	外面 胴部に波状文(単位不明)。 内面 ヘラ磨き。	
第115図 -64	弥生 甕	頸部片	① ② ④	①細砂粒(長石) ②酸化焰 普通 ③にぶい橙色	外面 頸部に簾状文(11+a、右廻り、2連止) を施文後、口縁部と胴部に波状文(5+a)を施 文。内面 ヘラ磨き。	
第115図 -65	弥生 甕	胴部上位	① ② ④	①粗砂粒(石英、長石、 雲母)②酸化焰 普通 ③にぶい橙色	外面 胴部上位に波状文(5+a)。 内面 ヘラ磨き。	
第115図 -66	弥生 甕	掘り方 口縁部～ 頸部	① ② ④	①細砂粒(長石、雲母) ②酸化焰 普通 ③浅黄褐色	外面 刷毛整形後、口縁部は波状文(7+a)、 頸部に簾状文(7+a、右廻り、2連止)。 内面 研磨。	
第115図 -67	弥生 甕	頸部片	① ② ④	①粗砂粒(石英、長石) ②酸化焰 普通 ③にぶい黄褐色	外面 頸部に簾状文(9+a、右廻り、2連止)、 口縁部に波状文(単位不明)。	
第115図 -68	弥生 壺	頸部	① ② ④	①粗砂粒(石英、雲母) ②酸化焰 ③にぶい橙色	外面 櫛描文(7+a)後、懸垂文(6+a)を施 文。 内面 研磨。	
第115図 -69	弥生 甕	頸部～ 胴部	① ② ④	①細砂粒(雲母) ②酸化焰 普通 ③にぶい橙色	外面 胴部の上位に波状文(単位不明)、波状文 より下位は横方向の刷毛目とヘラ削り。	
第115図 -70	弥生 台付甕	口縁部～ 胴部中位	① ② ④	①粗砂粒(長石、雲母) ②酸化焰 普通 ③にぶい橙色	外面 頸部に簾状文(5+a、右廻り、2連止) を施文後、口縁部と胴部に波状文(単位不明)を 施文。内面 ヘラ磨き。	
第115図 -71 P L 123	弥生 甕	柱穴2 頸部～ 胴部上位	① ② ④	①粗砂粒(雲母) ②酸化焰 普通 ③黒褐色	外面 口縁部から頸部にかけては簾状文(6+a )、胴部は刷毛整形後ヘラ削り。 内面 ヘラ撫で。	
挿図番号 図版番号	種別	出土位置	①最大長②最大幅 ③厚み ④重量	石 材	製作技法等の特徴	備考
116-72 P L 123	加工痕ある 剥片		①1.5 ②2.1 ③0.4 ④2.3	珪質頁岩	横長剥片素材。 端縁に僅かに加工痕が認められる。	
116-73 P L 123	使用痕ある 剥片		①3.2 ②2.2 ③0.7 ④2.7	珪質頁岩	横長剥片素材。 端縁に使用痕が認められる。	
116-74 P L 123	加工痕ある 剥片		①3.25 ②1.7 ③1.2 ④5.0	珪質頁岩	横長剥片素材。 一側縁に加工痕が認められる。	
116-75 P L 123	加工痕ある 剥片		①3.15 ②2.8 ③0.95 ④7.3	珪質頁岩	横長剥片素材。 端縁に加工痕が認められる。	
116-76 P L 124	加工痕ある 剥片		①2.55 ②3.7 ③0.8 ④7.0	黒色頁岩	横長剥片素材。礫面残存。 端縁に僅かに加工痕が認められる。	
116-77 P L 123	加工痕ある 剥片		①4.45 ②2.1 ③1.1 ④8.3	黒色頁岩	横長剥片素材。 一側縁に加工痕が認められる。	

下川田平井遺跡

挿図番号 図版番号	種別	出土位置	①最大長②最大幅 ③厚み ④重量	石材	製作技法等の特徴	備考
116-78 P L 123	加工痕ある 剥片		①(4.6) ②3.1 ③0.95 ④10.5	黒色頁岩	縦長剥片素材。 一側縁に僅かに加工痕が認められる。	
116-79 P L 124	加工痕ある 剥片		①6.5 ②3.3 ③0.9 ④15.0	黒色頁岩	縦長剥片素材。 両側縁に使用痕が認められる。	
116-80 P L 124	打製石斧		①7.25 ②4.05 ③1.35 ④36.7	黒色頁岩	撥形。礫面残存。 刃部は再生か。	
116-81 P L 124	使用痕ある 剥片		①5.5 ②3.95 ③1.2 ④19.8	黒色頁岩	縦長剥片素材。 一側縁に使用痕が認められる。	
116-82 P L 124	加工痕ある 剥片		①4.7 ②5.3 ③1.2 ④27.9	黒色頁岩	縦長剥片素材。礫面残存。礫面打面。 端縁及び一側縁に加工痕が認められる。	
116-83 P L 124	打製石斧		①(5.2) ②3.8 ③1.1 ④27.5	黒色頁岩	短冊形か。 刃部欠損。	
116-84 P L 124	削器		①3.9 ②6.6 ③1.15 ④34.0	黒色頁岩	横長剥片素材。礫面残存。 端縁に加工痕が認められる。	
116-85 P L 124	使用痕ある 剥片		①3.8 ②(8.7) ③1.4 ④38.4	黒色頁岩	横長剥片素材。 端縁に僅かに使用痕が認められる。	
117-86 P L 124	削器		①(5.1) ②5.3 ③1.6 ④47.5	黒色頁岩	縦長剥片素材。礫面残存。礫面打面。 両側縁に加工痕が認められる。	
117-87 P L 123	打製石斧		①19.85 ②9.3 ③3.1 ④577.8	細粒安山岩	礫面残存。	
117-88 P L 124	勾玉		①2.6 ②1.1 ③0.5 ④3.19	葉蠟石	両端部欠損。 3つの穴はともに、穿孔は両方向からである。	

26号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	法量 (cm)	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第119図 - 1 P L 125	弥生 鉢	4/5	①9.2 ②3.5 ④4.7	①細砂粒(石英、雲母) ②酸化焙 普通 ③にぶい橙色	外面 口縁部から体部上半にかけては研磨。下半はヘラ削り、底部もヘラ削り。 内面 研磨。	
第119図 - 2	弥生 鉢	口縁部～ 胴部上位	①14.2 ② ④	①細砂粒(雲母) ②酸化焙 普通 ③浅黄橙色	内外面とも研磨。	
第119図 - 3	弥生 鉢	底部片	① ②6.2 ④	①細砂粒(石英、長石、 雲母)②酸化焙 普通 ③にぶい橙色	外面 体部が研磨、底部がヘラ削り。 内面 研磨。	
第119図 - 4 P L 125	弥生 高杯	杯身部片	①16.6 ② ④	①細砂粒(石英、雲母) ②酸化焙 普通 ③外面 赤色 内面 淡黄橙色	内外面とも研磨、赤色塗彩。	
第119図 - 5	弥生 高杯	脚接合部	① ② ④	①粗砂粒(長石、雲母) ②酸化焙 ③赤褐色	杯身内外面は研磨。	
第119図 - 6 P L 125	弥生 蓋	鈕部片	① ②鈕径4.2 ④	①細砂粒(石英、雲母) ②酸化焙 普通 ③橙色	外面 ヘラ削り。 内面 ヘラ撫で。	
第119図 - 7 P L 125	弥生 蓋	鈕部	① ② ④	①粗砂粒(石英) ②酸化焙 ③橙色	外面 鈕部とその下位はヘラ撫で。端部は横撫で。	
第119図 - 8 P L 125	弥生 小型甕	口縁部～ 胴部中位	①4.8 ② ④	①粗砂粒(長石、雲母) ②酸化焙 普通 ③にぶい黄褐色	外面 口縁部ヘラ撫で、胴部はヘラ削り。 内面 ヘラ撫で。	
第119図 - 9 P L 125	弥生 甕	1/6	①10.0 ② ④	①粗砂粒(長石、雲母) ②酸化焙 普通 ③にぶい橙色	外面 口縁部に波状文(単位不明)、頸部に簾状文(6+α、右廻り、2連止)。 内面 研磨(単位不明)。	
第119図 - 10 P L 125	弥生 甕	底部片	① ②4.9 ④	①粗砂粒(石英、長石) ②酸化焙 普通 ③にぶい褐色	内外面は胴部・底部とも研磨。	
第119図 - 11	弥生 甕	床面直上。 底部片	① ②8.2 ④	①粗砂粒(長石、雲母) ②酸化焙 普通 ③明黄褐色	外面 胴部・底部がヘラ削り。 内面 ヘラ撫で。	

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	法量 (cm)	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第119図 -12 P L 125	弥生 甕	胴部上位	① ② ④	①粗砂粒(石英、長石) ②酸化焰 普通 ③にぶい橙色	外面 頸部に簾状文(10+ $\alpha$ 、右廻り、2連止)、 口縁部と胴部上位に波状文(4+ $\alpha$ 、右廻り)、 胴部波状文は胴部の1/4~1/6ずつ施文。波 状文より下は研磨。内面 ヘラ撫で。	
第119図 -13 P L 125	弥生 壺	口縁部~ 頸部片	①26.4 ② ④	①粗砂粒(石英、雲母) ②酸化焰 普通 ③明赤褐色	口唇部は折り返し。外面 口唇部に刻み目。頸 部は刷毛整形後簾状文(12+ $\alpha$ 、右廻り、2連止、 1ヶ所)と櫛描文(12+ $\alpha$ )T字文(10-11+ $\alpha$ 、 9ヶ所)を施文後、口縁部にヘラ削り、研磨。 内面 剝離が激しく不鮮明であるがヘラ撫で。	
第119図 -14	弥生 甕	口縁部片	① ② ④	①粗砂粒(石英、雲母) ②酸化焰 普通 ③明赤褐色	口唇部は折り返し。 外面 波状文(単位不明)。	
第119図 -15	弥生 甕	口縁部片	① ② ④	①粗砂粒(雲母) ②酸化焰 普通 ③褐灰色	口唇部は折り返し。 外面 波状文(6+ $\alpha$ )。	
第119図 -16	弥生 甕	口縁部片	① ② ④	①細砂粒(雲母) ②酸化焰 普通 ③外面 にぶい黄橙色 内面 黒褐色	外面 波状文(7+ $\alpha$ )。 内面 研磨。	
第119図 -17	弥生 甕	口縁部片	① ② ④	①細砂粒(石英、雲母) ②酸化焰 普通 ③にぶい橙色	外面 口唇部より波状文(8+ $\alpha$ )を施文。 内面 ヘラ撫で。	
第119図 -18	弥生 甕	口縁部片	① ② ④	①粗砂粒(雲母) ②酸化焰 普通 ③暗赤灰色	外面 口縁部全面に波状文(10+ $\alpha$ 、右廻り)。 内面 研磨。	
第119図 -19	弥生 甕	胴部片	① ② ④	①細砂粒(褐色粒) ②酸化焰 普通 ③明赤褐色	外面 櫛描文(単位不明)、波状文(6+ $\alpha$ )、T 字文(単位不明)を施文後、刺突文を施した円形 ボタン状文を貼り付け。内面 刷毛目。	
第119図 -20	弥生 甕	頸部~ 胴部片	① ② ④	①細砂粒(雲母) ②酸化焰 普通 ③外面 灰黄褐色 内面 にぶい黄橙色	外面 頸部に簾状文(6+ $\alpha$ )、口縁部と胴部上 位に波状文(5+ $\alpha$ 、右廻り)を施文。 内面 研磨。	
第119図 -21	弥生 甕	口縁部片	① ② ④	①細砂粒(長石、雲母) ②酸化焰 普通 ③橙色	口唇部は貼り付けか。外面 口縁部に頸部から 口唇部に向けて波状文(8+ $\alpha$ )を施文。 内面 研磨。	
第119図 -22	弥生 甕	頸部~ 胴部片	① ② ④	①細砂粒(雲母) ②酸化焰 普通 ③外面 褐灰色 内面 にぶい黄橙色	外面 研磨に簾状文(7+ $\alpha$ 、右廻り、3連止)、 胴部上位に波状文(7+ $\alpha$ )を2段施文。 内面 ヘラ撫で。	
挿図番号 図版番号	種別	出土位置	①最大長②最大幅 ③厚み ④重量	石 材	製作技法等の特徴	備考
120-23 P L 125	打製石鏃		①2.0 ②1.2 ③0.4 ④	黒曜石	凹基無形。	
120-24 P L 125	使用痕ある 剥片		①2.7 ②3.3 ③0.9 ④5.6	珪質頁岩	横長剥片素材。 両側縁に使用痕が認められる。	
120-25 P L 125	加工痕ある 剥片		①4.8 ②2.3 ③0.8 ④5.8	黒色頁岩	横長剥片素材。 一側縁に加工痕が認められる。	
120-26 P L 125	加工痕ある 剥片		①3.0 ②3.8 ③0.8 ④8.9	黒色頁岩	横長剥片素材。 端縁に僅かに加工痕が認められる。	
120-27 P L 125	加工痕ある 剥片		①(3.7) ②3.5 ③1.0 ④9.9	黒色頁岩	縦長剥片素材。折断。 一側縁に加工痕が認められる。	
120-28 P L 125	加工痕ある 剥片		①(3.2) ②4.2 ③0.75 ④9.4	黒色頁岩	縦長剥片素材。折断。 一側縁に僅かに加工痕が認められる。	
120-29 P L 125	加工痕ある 剥片		①4.6 ②4.7 ③1.35 ④28.1	黒色頁岩	不定形剥片素材。礫面残存。 端縁及び一側縁に加工痕が認められる。	
120-30 P L 125	削器		①5.0 ②3.8 ③0.95 ④17.4	黒色頁岩	横長剥片素材。礫面残存。 一側縁に加工痕が認められる。	
120-31 P L 125	使用痕ある 剥片		①(6.5) ②3.55 ③1.4 ④23.3	黒色頁岩	横長剥片素材。折断。 両側縁に使用痕が認められる。	
120-32 P L 125	打製石斧		①6.05 ②3.2 ③1.1 ④33.8	黒色頁岩	短冊形。	



下川田平井遺跡

挿図番号 図版番号	種 別	出土位置	①最大長②最大幅 ③厚み ④重量	石 材	製 作 技 法 等 の 特 徴	備 考
120-33 P L 125	加工痕ある 剥片		①5.6 ②3.8 ③1.15 ④16.2	黒色頁岩	縦長剥片素材。打面部欠損。 一縁に加工痕が認められる。	
120-34 P L 125	加工痕ある 剥片		①3.8 ②4.6 ③1.1 ④20.0	黒色頁岩	横長剥片素材。礫面残存。 端縁及び一側縁に加工痕が認められる。	
120-35 P L 125	加工痕ある 剥片		①5.6 ②4.7 ③3.4 ④64.8	珪質頁岩	不定形剥片素材。 一縁に加工痕が認められる。	
120-36 P L 125	加工痕ある 剥片		①6.5 ②4.6 ③1.4 ④40.4	黒色頁岩	縦長剥片素材。礫面残存。 一側縁に僅かに加工痕が認められる。	
120-37 P L 125	加工痕ある 剥片		①6.5 ②3.5 ③1.35 ④28.9	黒色頁岩	縦長剥片素材。 両側縁に加工痕が認められる。	
120-38 P L 125	加工痕ある 剥片		①5.7 ②4.2 ③1.5 ④28.3	黒色頁岩	縦長剥片素材。一側縁に加工痕、一側縁に使用 痕が認められる。	
121-39 P L 125	削器		①6.2 ②4.7 ③1.5 ④37.8	黒色頁岩	縦長剥片素材。礫面残存。	
121-40 P L 125	加工痕ある 剥片		①4.85 ②3.65 ③1.7 ④24.0	珪質頁岩	縦長剥片素材。一側縁に加工痕、一側縁に使用 痕が認められる。	
121-41 P L 125	削器		①6.3 ②4.3 ③1.1 ④28.0	黒色頁岩	横長剥片素材。 周縁に加工痕が認められる。	
121-42 P L 125	使用痕ある 剥片		①6.9 ②5.9 ③1.9 ④79.3	黒色頁岩	縦長剥片素材。 両側縁に使用痕が認められる。	
121-43 P L 125	打製石斧		①(7.45)②5.0 ③2.05 ④94.4	灰色安山岩	短冊形。礫面残存。 刃部欠損。	

27号住居跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	法 量 (cm)	①胎土②焼成③色調	製 作 技 法 等 の 特 徴	備 考
第123図 - 1	弥生 甕	口縁部片	① ② ④	①細砂粒(黄雲母) ②酸化焰 普通 ③外面 におい黄橙色 内面 におい黄橙色	口唇部は折り返し。口唇端部ヘラ撫で。 外面 口唇部は波状文(単位不明)、口唇部より 下位は縦方向刷毛整形後、波状文(単位不明)。 内面 横方向刷毛目。	
第123図 - 2	弥生 甕	口縁部片	① ② ④	①細砂粒 ②酸化焰 普通 ③淡黄色	外面 口唇部より下位は横方向刷毛目。 内面 横方向ヘラ磨き。	
第123図 - 3	弥生 甕	口縁部片	① ② ④	①粗砂粒 ②酸化焰 ③におい橙色	外面 波状文(単位不明)。	
第123図 - 4	弥生 甕	口縁部片	① ② ④	①粗砂粒 ②酸化焰 ③におい橙色	外面 口唇部斜めの刻み目。	
第123図 - 5	弥生 甕	胴部片	① ② ④	①細砂粒(黄雲母、長石) ②酸化焰 普通 ③におい橙色	外面 波状文(6+a)を2段以上。 内面 横方向ヘラ磨き。	
第123図 - 6	弥生 台付甕	胴部片	① ② ④	①粗砂粒(雲母) ②酸化焰 ③におい橙色	外面 波状文(6+a)を2段以上。	
第123図 - 7	弥生 甕	底部片	① ②6.6 ④	①粗砂粒(石英) ②酸化焰 ③におい橙色	外面 ヘラ削り。	
第123図 - 8	弥生 甕	底部片	① ②5.8 ④	①粗砂粒(石英、雲母) ②酸化焰 普通 ③淡赤褐色	外面 胴部横方向のヘラ削り、底部は雑な不定 方向ヘラ削り。 内面 ヘラ磨き。	
第123図 - 9	弥生 甕	底部片	① ②7.4 ④	①粗砂粒 ②酸化焰 ③橙色	外面 縦方向のヘラ磨き。 内面 やや雑なヘラ磨き。	
第123図 - 10 P L 126	土製品 勾玉	完形	全長3.4 幅1.3 重量7.5	①細砂粒(石英) ②酸化焰 普通 ③淡黄色	外面 撫で整形。	

## 28号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	法量 (cm)	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第126図 -1	弥生 高杯	口縁部片	①22.0 ② ④	①細砂粒(石英、長石) ②酸化焰 ③赤色	内外面とも口唇部より下位はヘラ磨き。内外面に赤色塗彩が施されている。	
第126図 -2	弥生 高杯	接合部	① ② ④	①細砂粒 ②酸化焰 普通 ③橙色	外面 ヘラ削り。	
第126図 -3 P L 126	弥生 器台	1/3	①7.0 孔径外面1.1 孔径内面 φ0.2~0.3mm	①細砂粒(石英、雲母) ②酸化焰 軟質 ③浅黄褐色	脚部上位に小孔を一對もつ。 外面 脚部は縦方向ヘラ磨き。	
第126図 -4 P L 126	弥生 甕	口縁部片	①14.4 ② ④	①細砂粒(石英) ②酸化焰 普通 ③灰褐色	外面 口唇部から頭部へ向けて波状文(6+a)を5段以上。 内面 ヘラ撫で。	
第126図 -5	弥生 壺	底部片	① ②4.4 ④	①粗砂粒 ②酸化焰 ③外面 にぶい橙色 内面 灰褐色	外面 縦方向ヘラ磨き。 内面 ヘラ磨き。	
第126図 -6	弥生 甕	口縁部片	① ② ④	①細砂粒(雲母) ②酸化焰 ③にぶい橙色	外面 波状文(単位不明)。	
第126図 -7	弥生 甕	口縁部片	① ② ④	①細砂粒(雲母) ②酸化焰 ③灰褐色	口縁部折り返し。 外面 波状文(7+a)。	
第126図 -8 P L 126	弥生 甕	口縁部片	① ② ④	①細砂粒(石英、雲母) ②酸化焰 普通 ③にぶい褐色	口唇部折り返し。 外面 波状文(6+a)を5段以上。 内面 ヘラ撫で。	
第126図 -9	弥生 甕	頸部片	① ② ④	①微砂粒 ②酸化焰 普通 ③にぶい橙色	外面 頸部は簾状文(6以上、2連止、右廻り)後、波状文(9+a)。 内面 横方向のヘラ磨き。	
第126図 -10	弥生 甕	頸部片	① ② ④	①細砂粒(雲母) ②酸化焰 普通 ③黒褐色	外面 縦方向の刷毛整形後、雑な波状文(単位不明)。	
第126図 -11	弥生 甕	口縁部片	① ② ④	①粗砂粒(雲母) ②酸化焰 普通 ③外面 黒褐色 内面 灰褐色	外面 波状文(8+a)を4段。 内面 横方向ヘラ磨き。	
第126図 -12	弥生 甕	口縁部片	① ② ④	①粗砂粒(雲母) ②酸化焰 普通 ③外面 黒褐色 内面 灰褐色	外面 頸部に簾状文(9+a、1連止、右廻り)を施した後、口縁部に波状文(5+a)を施している。胴部は横方向のヘラ削り後、最上位に波状文(9+a、右廻り)その下位に雑なヘラ磨き。	
第126図 -13	弥生 甕	胴部片	① ② ④	①細砂粒(雲母) ②酸化焰 普通 ③外面 灰黄褐色 内面 にぶい黄褐色	外面 頸部に簾状文(8+a、3連止、右廻り)その上位は波状文(単位不明)、胴部上位は波状文(7+a)を2段。 内面 横方向ヘラ磨き。	
挿図番号 図版番号	種別	出土位置	①最大長②最大幅 ③厚み ④重量	石 材	製作技法等の特徴	備考
126-14 P L 126	加工痕ある 剥片		①5.3 ②3.55 ③1.0 ④13.0	黒色頁岩	横長剥片素材。 一側縁に加工痕が認められる。	

## 29号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	法量 (cm)	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第128図 -1	弥生 高杯	脚部片	① ② ④	①細砂粒(黄雲母、褐色粒) ②酸化焰 ③外面 にぶい橙色 内面 にぶい黄褐色	外面 赤色塗彩。 内面 口唇部に横方向の刷毛目、それより下位はヘラ撫で。	

下川田平井遺跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	法量 (cm)	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第128図 - 2	弥生 甕	口縁部	① ② ④	①粗砂粒(石英、黄雲母) ②酸化焰 ③外面 極赤褐色 内面 にぶい赤褐色	外面 波状文(単位不明)。	
第128図 - 3	弥生 壺	頸部片	① ② ④	①細砂粒(長石、黄雲母) ②酸化焰 ③淡黄色	外面 頸部簾状文(単位不明)。	
第128図 - 4	弥生 甕	頸部片	① ② ④	①細砂粒(黄雲母) ②酸化焰 普通 ③灰白色	外面 口縁部から頸部にかけて刷毛整形後、頸部に簾状文(11+α、右廻り、1連止)、口縁部に上位より波状文(単位不明)を施文。 内面 横方向のヘラ磨き。	
挿図番号 図版番号	種別	出土位置	①最大長②最大幅 ③厚み ④重量	石 材	製作技法等の特徴	備考
128-5 P L 126	加工痕ある 剥片		①(3.7) ②2.8 ③1.0 ④11.5	黒色頁岩	縦長剥片素材。折断。礫面残存。 一側縁に加工痕が認められる。	

31号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	法量 (cm)	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第130図 - 1 P L 126	弥生 甕	床面直上 底部	① ②8.8 ④	①粗砂粒(長石、黄雲母、 φ2~3mm)②酸化焰 普通 ③にぶい赤褐色	外面 胴部に縦方向ヘラ削り。最下位に一段の横方向ヘラ削り。底部は磨耗が激しく不明。	
第130図 - 2	弥生 甕	頸部片	① ② ④	①細砂粒 ②酸化焰 普通 ③灰黄褐色	外面 簾状文、波状文が施されている。	
第130図 - 3	弥生 壺	頸部~ 胴部上位	① ② ④	①細砂粒 ②酸化焰 普通 ③にぶい黄褐色	外面 縄文→沈線→沈線の外スリ消し。	
挿図番号 図版番号	種別	出土位置	①最大長②最大幅 ③厚み ④重量	石 材	製作技法等の特徴	備考
130-4 P L 126	使用痕ある 剥片		①2.1 ②(3.2) ③0.3 ④1.8	黒色安山岩	横長剥片素材。 両側縁に僅かに使用痕が認められる。	
130-5 P L 126	加工痕ある 剥片		①3.7 ②3.8 ③0.4 ④3.4	黒色安山岩	縦長剥片素材。 両側縁に僅かに加工痕が認められる。	
130-6 P L 126	加工痕ある 剥片		①(4.2) ②3.7 ③0.75 ④9.8	黒色安山岩	縦長剥片素材。 一側縁に僅かに加工痕が認められる。	
130-7 P L 126	使用痕ある 剥片	掘り方	①(6.1) ②2.8 ③1.1 ④12.5	黒色安山岩	縦長剥片素材。先端部欠損。 両側縁に使用痕が認められる。	
130-8 P L 126	加工痕ある 剥片		①4.2 ②3.5 ③0.9 ④10.0	黒色安山岩	縦長剥片素材。礫面残存。 一側縁に僅かに加工痕が認められる。	

22号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	法量 (cm)	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第133図 - 1 P L 126	土師器 杯	カマド 1/3	①12.0 ② ④	①粗砂粒 ②酸化焰 軟質 ③橙色	外面 口縁部は横撫で、体部の整形はヘラ削りが施されているが、磨耗のため単位は不明。	
第133図 - 2	土師器 杯	カマド 1/6	①13.6 ② ④	①粗砂粒 ②酸化焰 軟質 ③橙色	外面 口縁部は横撫で、体部の整形はヘラ削りが施されているが、磨耗のため単位は不明。	
第133図 - 3 P L 126	土師器 杯	カマド 1/3	①14.3 ② ④5.5	①粗砂粒 ②酸化焰 普通 ③橙色	外面 口縁部は横撫で、体部の整形はヘラ削りが施されているが、磨耗のため単位は不明。	
第133図 - 4 P L 126	土師器 杯	カマド 1/3	①14.5 ②3.8 ④6.1	①細砂粒 ②酸化焰 普通 ③橙色	外面 口縁部は横撫で、体部上半は横方向ヘラ削り、底部から体部下半は底部から右回りの指撫でか。	
第133図 - 5 P L 126	土師器 椀	床面直上 口縁部~ 体部	①11.8 ② ④	①細砂粒 ②酸化焰 ③浅黄褐色	外面 口縁部は横撫で、体部は横方向のヘラ削り。	

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	法量 (cm)	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第133図 -6 P L 126	土師器 鉢	床面直上 体部	① ② ④	①粗砂粒 ②酸化焰 軟質 ③橙色	外面 口縁部は横撫で、体部から底部にかけては横方向のヘラ削り。	
第133図 -7 P L 127	土師器 甕	床面直上 カマド 完形	①17.2 ②7.2 ④20.7	①粗砂粒(石英、雲母) ②酸化焰 普通 ③灰白色	外面 口縁部から頸部にかけて横撫で、胴部はヘラ削り。 内面 口縁部が横撫で、胴部がヘラ撫で。	
第133図 -8 P L 126	土師器 甕	カマド 完形	①15.2 ②6.8 ④26.2	①粗砂粒(石英) ②酸化焰 普通 ③にぶい橙色	外面 口縁部が横撫で、胴部から底部にかけてはヘラ削り。 内面 ヘラ撫で。	
第133図 -9 P L 127	土師器 甕	4/5	①16.4 ②12 ④30.3	①粗砂粒(雲母) ②酸化焰 普通 ③にぶい黄橙色	外面 口縁部と胴部上半が刷毛目、胴部下半は刷毛整形後ヘラ削り。底部付近には部分的に研磨。内面 口縁部が上半横撫で、下半が刷毛目。胴部はヘラ撫で。	
第133図 -10 P L 126	土師器 小型甕	貯蔵穴 口縁部片	①9.6 ② ④	①細砂粒 ②酸化焰 軟質 ③橙色	外面 口縁部は横撫で、胴部は横方向のヘラ削り。 内面 口縁部は横撫で、胴部は横方向ヘラ撫で。	
第133図 -11 P L 126	土師器 小型甕	床面直上 貯蔵穴 4/5	①10.8 ② ④12.1	①粗砂粒(石英、長石) ②酸化焰 普通 ③赤橙色	外面 口縁部が横撫で、胴部から底部にかけてはヘラ削り。 内面 口縁部が横撫で、胴部がヘラ撫で。	
第134図 -12 P L 126	須恵器 短頸壺	胴部	① ② ④	①粗砂粒 ②還元焰 ③灰オリーブ色	轆轤成形、回転方向不明。胴部上半に一条の凹線がみられる。 内面 底部に自然釉付着。	
第134図 -13 P L 127	土製品 匙	柄	幅1.9 長さ5.0	①細砂粒 ②酸化焰 普通 ③灰白色	匙の柄部分。ヘラ撫で。	
第134図 -14	土製品 紡錘車	破片	径4.0 孔径0.7 厚み1.0	①細砂粒(雲母) ②酸化焰 普通 ③にぶい黄橙色	撫で整形。	

## 32号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	法量 (cm)	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第137図 -1 P L 127	土師器 甕	床面直上 ほぼ完形	①14.8 ②7.4 ④25.2	①粗砂粒(石英、長石、雲母)②酸化焰 普通 ③淡黄色	外面 口縁部が横撫で、胴部・底部はヘラ削り。 内面 口縁部が横撫で、胴部・底部がヘラ撫で。	
第137図 -2 P L 127	土師器 甕	床面直上 頸部～ 胴部上位	① ② ④	①細砂粒(雲母) ②酸化焰 普通 ③明赤褐色	外面 口縁部横撫で、胴部はヘラ削り(単位不明)。 内面 口縁部横撫で、胴部はヘラ撫で。	
第137図 -3 P L 128	土師器 甕	床面直上 胴部	① ② ④	①粗砂粒(石英、雲母) ②酸化焰 普通 ③浅黄橙色	外面 ヘラ削り。 内面 ヘラ撫で。	
第138図 -4 P L 128	土師器 甕	床面直上 口縁部～ 胴部下位	①24.3 ② ④	①粗砂粒(石英、長石、雲母)②酸化焰 普通 ③にぶい黄橙色	外面 口縁部が横撫で、胴部はヘラ削り。頸部の一部に刷毛目がみられる。 内面 口縁部が横撫で、胴部はヘラ撫で。	
第138図 -5 P L 129	土師器 甕	床面直上 口縁部～ 胴部下位	①18.2 ② ④	①粗砂粒(石英、長石、雲母)②酸化焰 普通 ③にぶい褐色	外面 口縁部横撫で、胴部はヘラ削り。頸部の一部に刷毛目が残る。 内面 口縁部横撫で、胴部ヘラ撫で。	
挿図番号 図版番号	種別	出土位置	①最大長②最大幅 ③厚み ④重量	石 材	製作技法等の特徴	備考
138-6 P L 129	磨石		①(13.7)②(14.7) ③(3.65)④900.0	粗粒安山岩	礫の半分を欠損している。 表面に磨り面が認められる。	

## 3号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	法量 (cm)	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第141図 -1 P L 129	須恵器 杯	カマド 1/3	①12.4 ②7.1 ④3.6	①粗砂粒 ②還元焰一部焼成 ③褐色	轆轤成形、回転方向不明。底部は回転糸切り。	
第141図 -2 P L 129	須恵器 杯	1/4	①11.6 ②6.6 ④3.4	①粗砂粒 ②還元焰 ③灰色	轆轤成形、回転方向不明。底部は回転糸切り。	
第141図 -3	須恵器 杯	1/6	①11.8 ②7.0 ④3.4	①粗砂粒(角礫φ10mm) ②酸化焰 普通 ③褐色	轆轤成形、回転方向不明。底部は回転糸切り。	
第141図 -4	須恵器 杯	1/8	①13.6 ② ④	①粗砂粒 ②還元焰焼成 ③灰色	轆轤成形、回転方向不明。	
第141図 -5	須恵器 杯	1/5	①13.2 ② ④	①粗砂粒 ②還元焰 ③灰白色	轆轤成形、回転方向不明。	
第141図 -6	須恵器 杯	1/6	①13.4 ② ④	①粗砂粒 ②還元焰 ③灰色	轆轤成形、回転方向不明。 内面 自然釉付着。	
第141図 -7 P L 129	須恵器 杯	底部	① ②9.4 ④	①粗砂粒 ②還元焰 ③黒褐色	轆轤成形、回転右方向。底部は回転糸切り後周 辺部へら削り、撫で。	
第141図 -8	須恵器 杯	底部片	① ②8.2 ④	①粗砂粒 ②還元焰 ③灰白色	轆轤成形、回転右方向。底部は回転糸切り。	
第141図 -9	須恵器 杯	底部	① ②6.8 ④	①粗砂粒 ②還元焰 ③灰白色	轆轤成形、回転右方向。底部は回転糸切り。 内面 底部周辺部へら撫で。身こみ部分に一 条の沈線が周わる。	
第142図 -10	須恵器 杯	底部片	① ②5.0 ④	①細砂粒 ②還元焰 ③明褐色	轆轤成形、回転右方向。底部は回転糸切り。	
第142図 -11	須恵器 杯	底部片	① ②8.0 ④	①粗砂粒(雲母、石英) ②還元焰 ③灰白色	轆轤成形、回転右方向。底部は回転糸切り。	
第142図 -12 P L 129	黒色土器 杯	底部-体部	① ②7.4 ④	①粗砂粒(雲母) ②酸化焰 ③橙色	轆轤成形、回転右方向。内面は黒色。底部は回 転へら削り調整。	
第142図 -13	須恵器 椀	高台部	① ②4.6 ③5.0 ④	①細砂粒(雲母) ②酸化焰 普通 ③明赤褐色	轆轤成形、回転方向不明。 内面 底部は回転撫で。	
第142図 -14 P L 129	須恵器 椀	底部-体部	① ②6.2 ③6.5 ④	①粗砂粒 ②還元焰 ③褐色	轆轤成形、回転右方向。底部は回転糸切り、高 台貼り付け。底部周辺部は高台貼り付けによる 撫で、畳付部へら削り。 外面 体部へら撫で。	
第142図 -15 P L 129	須恵器 椀	底部	① ②6.2 ③6.8 ④	①粗砂粒(石英) ②還元焰 ③灰色	轆轤成形、回転右方向。底部は切り離し技法は 高台貼り付けによる撫でのため不明。	
第142図 -16	須恵器 椀	底部	① ②7.7 ④	①細砂粒 ②還元焰 ③褐色	轆轤成形、回転右方向。底部は回転へら削り調 整後高台貼り付け。	
第142図 -17	須恵器 椀	底部	① ②7.2 ③8.2 ④	①粗砂粒 ②還元焰 ③灰色	轆轤成形、回転右方向。底部は回転糸切り。	
第142図 -18	須恵器 椀	底部片	① ②9.0 ④	①細砂粒 ②還元焰 ③灰黄色	轆轤成形、回転右方向。底部は回転糸切り。	
第142図 -19 P L 129	須恵器 鉢	口縁部- 体部上位	①31.2 ② ④	①粗砂粒(角礫φ4mm) ②還元焰一部酸化焰 ③灰白色	轆轤成形。	

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	法量 (cm)	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第142図 -20	須恵器 鉢	口縁部一 体部上位片	①18.4 ② ④	①粗砂粒 ②還元焰 ③灰黄褐色	轆轤成形。	
第142図 -21	須恵器 甕	底部～体部	① ②11.2 ④	①粗砂粒 ②還元焰 ③黄灰色	轆轤成形、胴部下位は、一段のヘラ削り、底部は横方向のヘラ削り調整。	
第142図 -22 P L 129	須恵器 長頸壺	底部～ 胴部下位	① ②5.8 ④	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	轆轤成形、回転右方向。底部は静止糸切り、胴部下位は1～2段の横方向のヘラ削り。	
第142図 -23 P L 129	土師器 台付甕	カマド・掘り方 2/3	①14.4 ② ④	①細砂粒(雲母) ②酸化焰 普通 ③にぶい赤褐色	底部から脚部にかけては欠損。外面 口縁部から頭部にかけては横撫で、胴部はヘラ削り。内面 口縁部から頭部にかけては横撫で、胴部はヘラ撫で。	
第142図 -24	土師器 甕	口縁部一 頭部	①14.2 ② ④	①微砂粒(雲母) ②酸化焰 硬質 ③にぶい橙色	外面 口縁部横撫で、胴部上位は横方向のヘラ削り。内面 口縁部横撫で、胴部上位はヘラ撫で。	
第142図 -25	土師器 甕	口縁部～ 胴部上位	①19.4 ② ④	①砂粒 ②酸化焰 硬質 ③にぶい橙色	外面 口縁部横撫で、口縁部中にヘラ削り痕が残る。内面 口縁部横撫で、胴部上位はヘラ撫で。	
第143図 -26 P L 129	土師器 甕	口縁部～ 胴部上位	①21.6 ② ④	①粗砂粒(雲母、褐色粒) ②酸化焰 ③橙色	外面 口縁部から頭部にかけて横撫で、頭部に指頭痕が残る。胴部は横方向のヘラ削り。内面 口縁部横撫で、胴部ヘラ撫で。	
第143図 -27	土師器 甕	口縁部～ 胴部上位	①20.4 ② ④	①細砂粒(雲母) ②酸化焰 ③にぶい赤褐色	外面 口縁部横撫で、胴部上位は横方向のヘラ削り。頭部に胴部ヘラ削りの際のヘラあて痕。内面 口縁部横撫で、胴部上位はヘラ撫で。	
第143図 -28 P L 129	土師器 甕	口縁部～ 胴部上位	①23.0 ② ④	①粗砂粒(石英、他) ②酸化焰 硬質 ③にぶい赤褐色	外面 口縁部横撫で、胴部上位は横方向ヘラ削り。内面 胴部ヘラ撫で。	
第143図 -29	土師器 甕	口縁部片	①22.0 ② ④	①細砂粒(雲母、褐色粒) ②酸化焰 普通 ③にぶい赤褐色	外面 口縁部横撫で、胴部上位は横方向のヘラ撫で。内面 口縁部横撫で、胴部上位はヘラ撫で。	
第143図 -30	土師器 甕	底部	① ②4.7 ④	①粗砂粒(雲母) ②酸化焰 ③暗褐色	外面 胴部下位に縦方向のヘラ削り、底部ヘラ削り。	
第143図 -31	土師器 甕	底部～ 胴部下位	① ②4.0 ④	①細砂粒(黄雲母、赤色粒子) ②酸化焰③橙色	外面 胴部下位に縦方向のヘラ削り、底部ヘラ削り。	
第143図 -32	須恵器 羽釜	鐶部片	① ②鐶径19.2 ④	①細砂粒(雲母) ②還元焰 ③灰白色	轆轤成形、鐶貼り付け。	
挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	①最大長 ③厚み	②最大幅 ④重量	特 徴	
143-33 P L 130	鉄器 刀子?		①4.3 ③0.3	②0.7 ④6.0	先端部の一部。	
143-34 P L 130	鉄器 釘		①12.4 ③5.5	②0.8 ④19.0	頭部から1/4、先端部から1/4の部分で折り曲がっている。	
143-35 P L 130	鉄器 釘		①9.0 ③0.5	②1.1 ④15.0	先端部若干欠損、折り曲げである。頭部は方形。	
143-36 P L 130	鉄器 釘		①5.4 ③0.7	②0.6 ④6.0	先端部欠損、頭部は折り曲げである。	
挿図番号 図版番号	種別	出土位置	①最大長②最大幅 ③厚み ④重量	石 材	製作技法等の特徴	備考
143-37 P L 130	砥石		①(11.3)②5.9 ③4.2 ④340.4	砥沢石	表裏両面に数本の線状痕が認められる。	
143-38 P L 130	こも編み石		①16.2 ②6.8 ③5.2 ④739.7	アイサイト	一端に線状痕が認められる。	
143-39 P L 130			①12.8 ②5.0 ③2.9 ④240.0	細粒安山岩	片面のほぼ全面を欠損。	

4号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	法量 (cm)	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第146図 -1 P L 130	須恵器 杯	1/2	①13.2 ②5.5 ④4.4	①粗砂粒(石英、雲母) ②還元焰 軟質 ③灰白色	轆轤成形、回転右方向。底部は回転糸切り。	
第146図 -2 P L 130	須恵器 杯	1/4	①12.8 ②5.2 ④4.0	①粗砂粒(石英、雲母) ②酸化焰 軟質 ③にぶい黄橙色	轆轤成形、回転方向不明。底部は回転糸切り。	
第146図 -3	須恵器 杯	口縁部片	①12.7 ② ④	①粗砂粒(石英、雲母) ②還元焰 軟質 ③にぶい黄橙色	轆轤成形、回転方向不明。	
第147図 -4 P L 130	須恵器 杯	底部片	① ②5.1 ④	①粗砂粒(石英) ②還元焰 ③灰色	轆轤成形、回転右方向。底部は回転糸切り。 外面 底部から体部にかけては絞り込みがみられる。	
第147図 -5	須恵器 杯	底部～ 体部下位	① ②6.0 ④	①粗砂粒(石英、長石) ②酸化焰 軟質 ③にぶい黄橙色	轆轤成形、回転右方向。底部は回転糸切り。	
第147図 -6 P L 130	須恵器 椀	床面直上 底部	① ②6.5 ③6.8 ④	①細砂粒(石英、雲母) ②還元焰燻焼成 ③灰白色	轆轤成形、回転右方向。底部は回転糸切り。	
第147図 -7	須恵器 椀	床面直上 底部	① ②6.2 ③6.2 ④	①粗砂粒 ②還元焰燻焼成 ③青黒色	轆轤成形、回転右方向。底部は回転糸切り。	
第147図 -8	須恵器 短頸壺	口縁部～ 肩部片	①10.2 ② ④	①細砂粒(白色鉍物粒) ②還元焰 ③灰色	轆轤成形、回転方向不明。	
第147図 -9 P L 130	土師器 甕	口縁部～ 胴部上位	①21.4 ② ④	①細砂粒(褐色鉍物粒) ②酸化焰 ③暗灰黄色	外面 口縁部横撫で、頸部も横撫でであるが、一部胴部ヘラ削り時のヘラのあたりがみられ、口縁部より雑である。胴部上位は横方向のヘラ削り、口唇部に弱い沈線がみられる。 内面 口縁部から頸部は横撫で、部分的に指頭痕がみられる。胴部上位はヘラ撫で。	
第147図 -10	須恵器 瓶類	底部～ 胴部下位片	① ②9.7 ③10.0 ④	①細砂粒(亜角礫、石英) ②酸化焰 ③灰白色	轆轤成形、回転方向不明。	
第147図 -11	土師器 甕	口縁部～ 胴部上位片	①17.5 ② ④	①微砂粒(雲母) ②酸化焰 普通 ③にぶい橙色	外面 口縁部から頸部は横撫で、頸部に胴部ヘラ削り時のヘラがあたった痕がみられる。胴部上位は横方向のヘラ削り。口唇部に一条の沈線あり。 内面 口縁部から頸部は横撫で、胴部上位はヘラ撫で。	
第147図 -12 P L 130	土師器 甕	口縁部～ 胴部上位	①18.4 ② ④	①細砂粒(褐色鉍物粒) ②酸化焰 ③にぶい赤褐色	外面 口縁部から頸部は横撫で、胴部上位は横方向のヘラ削り。頸部に部分的に指頭痕や胴部ヘラ削り時のヘラ痕がみられる。 内面 口縁部から頸部は横撫で、胴部上位はヘラ撫で。	
第147図 -13	土師器 甕	口縁部片	①20.0 ② ④	①細砂粒(褐色鉍物粒、雲母) ②酸化焰 ③橙色	外面 口縁部から頸部にかけては横撫で、頸部下半は強い撫でで胴部上半はヘラ削り、単位は磨耗のため不明。内面 口縁部から頸部にかけては横撫で。	
第147図 -14 P L 130	土師器 甕	口縁部	①19.8 ② ④	①粗砂粒(褐色鉍物粒、雲母) ②酸化焰③橙色	外面 口縁部から頸部にかけては横撫で、胴部上位は横方向のヘラ削り。 内面 口縁部から頸部にかけては横撫で。	
第148図 -15 P L 130	須恵器 羽釜	口縁部～ 胴部上位	①17.6 ②鏝径22.1 ④	①粗砂粒(石英φ4mmの亜角礫) ②還元焰 硬質 ③灰白色	轆轤による紐作り成形。外面 口縁部横撫で、鏝の上部は貼り付け時の強い撫で、鏝の下位は底部方向からのヘラ削りが施されているが、鏝に達している部分はみられない。	
第148図 -16 P L 130	須恵器 羽釜	口縁部～ 鏝部片	①20.9 ②鏝径26.2 ④	①粗砂粒(石英φ1～4mm) ②還元焰 軟質 ③灰白色	轆轤成形、回転方向不明。外面 鏝より下位は、底部方向からのヘラ削り。一部ヘラが鏝に当たっている。	



挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	法量 (cm)	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第148図 -17 P L 130	須恵器 羽釜	口縁部～ 鐏部片	①20.4 ②鐏径25.4 ④	①細砂粒(石英φ1～7mm) ②還元焰 普通 ③灰白色	轆轤成形、回転方向不明。外面 鐏端部へラ調整か、鐏上位は強い撫で、鐏の下位は底部からのへら削り、一部鐏にへらがあたっている。	
第148図 -18 P L 130	須恵器 羽釜	口縁部～ 鐏部片	①21.0 ②鐏径25.4 ④	①粗砂粒(石英、雲母) ②酸化焰 ③にぶい黄橙色	轆轤成形、回転方向不明。鐏は貼り付け、胴部は底部から鐏に向けてのへら削り。	
挿図番号 図版番号	種別	出土位置	①最大長②最大幅 ③厚み ④重量	石 材	製作技法等の特徴	備考
147-19 P L 130			①(51.5) ②(18.6) ③(8.5) ④2800.0			
148-20 P L 130			①(8.2) ②(8.0) ③(7.0) ④250.0			
148-21 P L 131		床面直上	①64.8 ②30.0 ③16.5 ④45.04kg	石英閃緑岩		

## 5号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	法量 (cm)	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第150図 -1	土師器 甕	口縁部片	①16.4 ② ④	①細砂粒(褐色鉍物粒) ②酸化焰 普通 ③橙色	内外面とも横撫で。	
第150図 -2 P L 131	土師器 甕	口縁部～ 胴部上位	①20.4 ② ④	①細砂粒(赤色鉍物粒) ②酸化焰 普通 ③にぶい橙色	外面 口縁部から頸部にかけては横撫で、頸部は指頭痕がみられる。胴部上位は横方向のへら削り。内面 胴部はへら撫で。	
第150図 -3	土師器 甕	胴部	① ② ④	①粗砂粒(褐色鉍物粒) ②酸化焰 普通 ③橙色	外面 胴部上位に横方向2段のへら削り。胴部下位は底部から頸部に向けてのへら削り。内面 へら撫で。	
第150図 -4	土師器 甕	底部片	① ②4.0 ④	①細砂粒 ②酸化焰 ③橙色	外面 胴部に底部から上に向けてのへら削り、底部不定方向のへら削り。内面 粘土しわ痕がみられる。	

## 6号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	法量 (cm)	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第153図 -1	須恵器 杯	口縁部片	①11.7 ② ④	①細砂粒(歪角礫φ5mm) ②還元焰 ③灰白色	轆轤成形、回転方向不明。	
第153図 -2	須恵器 杯	口縁部～ 体部	①12.5 ② ④	①細砂粒 ②還元焰 軟質 ③灰黄色	轆轤成形、回転方向不明。	
第153図 -3	須恵器 杯	口縁部～ 体部片	①16.7 ② ④	①粗砂粒 ②還元焰 軟質 ③灰白色	轆轤成形、回転方向不明。	
第153図 -4 P L 131	須恵器 杯	底部	① ②5.0 ④	①粗砂粒(石英) ②還元焰 軟質 ③灰色	轆轤成形、回転右方向。底部は回転糸切り。	
第153図 -5	須恵器 杯	底部	① ②6.4 ④	①粗砂粒(石英、褐色鉍物粒) ②酸化焰 ③にぶい褐色	轆轤成形、回転右方向。底部は回転糸切り。	
第153図 -6	須恵器 杯	底部	① ②6.7 ④	①粗砂粒 ②還元焰 ③灰色	轆轤成形。回転右方向か。底部は回転糸切り。	
第153図 -7 P L 131	灰釉陶器 長頸壺	口縁部～ 頸部片	①10.4 ② ④	①微砂流(石英、黒色鉍物) ②還元焰 ③灰白色	轆轤成形、回転方向不明。口唇部は上下に引きだされている。内外面施釉。	
第153図 -8 P L 131	土師器 甕	床面直上 口縁部～ 頸部	①20.4 ② ④	①細砂粒(雲母) ②酸化焰 軟質 ③にぶい褐色	外面 口縁部から頸部にかけては横撫で、頸部上半はやや雑である。胴部上位はへら削り。	

下川田平井遺跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	法量 (cm)	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第153図 -9	土師器 甕	掘り方 口縁部片	①17.6 ② ④	①細砂粒(雲母) ②酸化焰 普通 ③にぶい橙色	外面 口縁部から頸部にかけては横撫で、胴部 上位はヘラ削り。 内面 外面と同様。	
挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	①最大長 ②最大幅 ③厚み ④重量	石 材	製作技法等の特徴	備考
153-10 P L 131	鉄器 刀子		①19.6 ②1.7 ③0.5 ④26.0		茎端部を欠損、刃部端部がやや反る。	
153-11 P L 131	鉄器 刀子		①15.5 ②1.6 ③0.6 ④18.0		茎端部を欠損、刃部・茎部とも直線的。	
153-12	鉄器 刀子		①5.0 ②1.2 ③0.4 ④3.0		茎部・刃部とも欠損。	
153-13 P L 131	鉄器 釘		①6.4 ②0.9 ③0.6 ④10.0		中央部から先端部にかけて欠損、頭部は折り曲げてある。	
挿図番号 図版番号	種別	出土位置	①最大長②最大幅 ③厚み ④重量	石 材	製作技法等の特徴	備考
153-14 P L 131	砥石	周溝	①(7.8) ④4.3 ③3.6 ④157.6	砥沢石	四面を研ぎ面としている。	

8号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	法量 (cm)	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第156図 -1 P L 131	須恵器 杯	床面直上 ほぼ完形	①12.1 ②6.7 ④3.4	①粗砂粒(石英、褐色粒) ②酸化焰 硬質 ③にぶい橙色	轆轤成形、回転右方向。底部は回転糸切り。 外面 体部上半と内面口縁部は燻焼成。	
第156図 -2	須恵器 杯	床面直上 底部	① ②6.8 ④	①粗砂粒(小亜角礫、雲 母、褐色粒) ④酸化焰③青黒色	轆轤成形、回転右方向。底部は回転糸切り。	
第156図 -3	須恵器 杯	貯蔵穴 底部	① ②7.0(小6.5) ④	①細砂粒(雲母、小角礫) ③還元焰 軟質 ③灰色	轆轤成形、回転右方向。底部は回転糸切り。	
第156図 -4 P L 131	須恵器 碗	底部片	① ②7.6 ③7.9 ④	①細砂粒(亜角礫φ2mm) ②還元焰 軟質 ③灰白色	轆轤成形、回転右方向。底部は回転糸切り、周 辺部は高台貼り付けによる撫で。	
第156図 -5	須恵器 杯	底部片	① ②7.0 ④	①粗砂粒(雲母) ②還元焰燻焼成 軟質 ③黒褐色	轆轤成形、回転右方向。底部は回転糸切り。	
第156図 -6 P L 131	須恵器 杯	床面直上 底部片	① ②6.6 ④	①細砂粒 ②還元焰燻焼成 ③青黒色	轆轤成形、回転右方向。底部は回転糸切り。	
第156図 -7	須恵器 杯	床面直上 底部片	① ②5.8 ④	①細砂粒(雲母) ②還元焰 ③明緑灰色	轆轤成形、回転右方向。底部は回転糸切り。	
第156図 -8 P L 131	土師器 甕	口縁部一 頸部	①18.8 ② ④	①細砂粒 ②酸化焰 普通 ③橙色	外面 口縁部から頸部にかけては横撫で、胴部 は横方向のヘラ削り。 内面 口縁部から頸部にかけては横撫で。	
第156図 -9 P L 131	土師器 甕	カマド 口縁部一 胴部上位	①22.6 ② ④	①細砂粒(雲母) ②酸化焰 普通 ③淡赤橙色	外面 口縁部から頸部上半にかけては横撫で、 胴部上位は横方向のヘラ削り。 内面 口縁部から頸部にかけては横撫で。	
第156図 -10 P L 131	土師器 甕	貯蔵穴 口縁部	①21.2 ② ④	①細砂粒(雲母) ②酸化焰 普通 ③橙色	外面 口縁部から頸部にかけては横撫で、胴部 上位は横方向ヘラ削り。 内面 口縁部から頸部にかけては横撫で、胴部 上位は横方向ヘラ撫で。	
第156図 -11	土師器 甕	口縁部片	①19.7 ② ④	①細砂粒 ②酸化焰 硬質 ③にぶい橙色	外面 頸部に粘土粒付着。 内外面横撫で。	
第156図 -12 P L 131	土師器 甕	床面直上 周溝 口縁部一 胴部	①18.0 ② ④	①細砂粒(雲母、褐色粒) ②酸化焰 普通 ③橙色	外面 口縁部横撫で、一部指頭痕がみられる。 胴部は2段の横方向のヘラ削り、その下位は縦 方向のヘラ削り、縦方向は単位不鮮明。 内面 口縁部横撫で、胴部は整形不明。	

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	法量 (cm)	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第156図 -13	須恵器 杯	底部片	① ②6.0 ④	①微砂粒 ②還元焰燻焼成 ③黒色	外面 底部にヘラ削りを施しているが、焼成前に大部分が剝離している。体部もヘラ削り。 内面 体部・底部にヘラ削りが施されている。	
第156図 -14 P L 131	土製品 土錘	床面直上 完形	全長4.1 径1.9 孔径0.4	①細砂粒(褐色鉱物粒) ②酸化焰 ③浅黄橙色	外面 ヘラ削りと思われるが、磨耗のため単位等は不明。	
挿図番号 図版番号	種別	出土位置	①最大長②最大幅 ③厚み ④重量	石 材	製作技法等の特徴	備考
156-15 P L 131	砥石	カマド	①(6.6) ②6.2 ③1.7 ④98.0		表裏、側面とも使用痕あり。	
156-16 P L 131	紡錘車		①4.0 ②3.9 ③1.7 ④34.3	滑石質蛇紋岩	側面に線状痕をめぐらしている。 上面に線状痕が認められる。	
156-17 P L 131	敲石		①9.6 ②9.8 ③4.0 ④493.6	粗粒安山岩	表面のほぼ中央遠位、周縁の一部に敲打痕が認められる。	
157-18 P L 132	磨石		①13.9 ②9.8 ③3.5 ④578.5	灰色安山岩		
157-19 P L 132	敲石?		①21.0 ②9.6 ③3.7 ④1170.0	粗粒安山岩	一部を欠損している。	
157-20 P L 132	支柱		①17.5 ②15.8 ③13.1 ④2800.0	未固結凝灰岩	カマドの構築材として、明らかに面を削り出している。	
挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	①最大長 ②最大幅 ③厚み ④重量	特 徴		
157-21 P L 132	鉄器 刀子		①7.3 ②1.2 ③0.4 ④5.0	茎部・刃部端部を欠損、刃部は刃・背とも細まる。		
157-22 P L 131	鉄器 紡錘車		径5.5 棒の長さ3.0 ③0.4~0.6 ④16.0	軸部の大部分は欠損。		

## 9号住居跡

挿図番号 図版番号	種別	出土位置	①最大長②最大幅 ③厚み ④重量	石 材	製作技法等の特徴	備考
159-1 P L 132	カマド袖石		①(38.3)②12.6 ③13.0 ④8050.0	閃緑岩	一端及び一側縁を欠損。	

## 13号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	法量 (cm)	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第162図 -1 P L 132	須恵器 蓋?	床面直上 3/4	①12.8 ②鈕径7.3 ④3.4	①粗砂粒 ②還元焰 ③灰色	轆轤成形、回転右方向。天井部の鈕周辺は無で。	
第162図 -2	須恵器 蓋	口縁部~ 体部小片	①16.0 ② ④	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	轆轤成形、回転方向不明。	
第162図 -3	須恵器 蓋	口縁部~ 体部片	①14.6 ② ④	①粗砂粒 ②還元焰 ③灰白色	轆轤成形、回転方向不明。	
第162図 -4	須恵器 蓋	カマド 口縁部~ 体部小片	①14.2 ② ④	①粗砂粒 ②還元焰 ③灰白色	轆轤成形、回転方向不明。	
第162図 -5	須恵器 蓋	体部小片	① ② ④	①粗砂粒 ②還元焰 ③灰白色	轆轤成形、回転右方向。鈕周辺部は欠損しているが輪状を呈すると推定される。	
第162図 -6 P L 132	須恵器 杯	口縁部1/2 欠損	①12.0 ②6.8 ④3.8	①粗砂粒(角礫φ0.5~ 0.7mm) ②還元焰 ③灰色	轆轤成形、回転右方向。体部の最下位に絞り込みがみられる。底部は回転糸切り。	
第162図 -7 P L 132	須恵器 杯	カマド ほぼ完形	①11.0~11.6 ②6.4 ④3.3~3.8	①粗砂粒 ②還元焰 軟質 ③灰白色	轆轤成形、回転右方向。体部の最下部に絞り込みがみられる。底部は回転糸切り。	

下川田平井遺跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	法量 (cm)	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第162図 - 8 P L 132	須恵器 椀	1/4	①11.0 ②5.7 ④4.8	①粗砂粒 (角礫φ0.9~1.2mm)②還元焰 ③内面灰白色 外面灰色	轆轤成形、回転右方向。底部は回転糸切り。	
第162図 - 9 P L 132	須恵器 杯	1/2	①11.8 ②6.4 ④3.8	①粗砂粒 (角礫φ0.3~0.5mm) ②還元焰 ③灰白色	轆轤成形、回転右方向。底部は回転糸切り。	
第162図 -10 P L 132	須恵器 杯	1/4	①12.0 ②6.6 ④3.2	①粗砂粒 ②還元焰 ③灰白色	轆轤成形、回転右方向。体部の最下位に弱い絞り込みがみられる。底部は回転糸切り。	
第162図 -11 P L 132	須恵器 杯	1/4	①12.8 ②7.0 ④3.7	①粗砂粒 ②還元焰 ③灰色	轆轤成形、回転右方向。底部は回転糸切り。	
第163図 -12 P L 132	須恵器 杯	口縁部~ 底部片	①12.8 ②6.8 ④3.0	①粗砂粒 ②還元焰焼成 ③灰白色	轆轤成形、回転は右方向か。体部の最下位に絞り込みがみられる。底部は回転糸切り。	
第163図 -13 P L 132	須恵器 杯	1/3	①11.6 ②6.6 ④3.6	①粗砂粒 (角礫φ5mm) ②還元焰 ③灰色	轆轤成形、回転右方向。底部は回転糸切り。	
第163図 -14 P L 133	須恵器 杯	1/5	①14.2 ②7.8 ④5.0	①粗砂粒 (角礫φ3mm) ②還元焰 やや軟質 ③灰白色	轆轤成形、回転右方向。底部は回転糸切り。	
第163図 -15 P L 133	須恵器 椀	1/8	①12.8 ②7.4 ④5.5	①粗砂粒 ②還元焰 ③灰白色	轆轤成形、回転方向不明。体部の下位に強い撫でがみられる。底部は回転糸切り。	
第163図 -16 P L 133	須恵器 杯	掘り方 1/3	①13.2 ②7.0 ④3.1~3.6	①粗砂粒 (小石φ4.5mm) ②還元焰 軟質 ③にぶい黄橙色	轆轤成形、回転右方向。底部は回転糸切り。	
第163図 -17 P L 133	須恵器 杯	1/2	①12.6 ②7.8 ④4.1	①粗砂粒 ②還元焰 軟質 ③にぶい橙色	轆轤成形、回転右方向。焼成時の歪みがみられる。底部は回転糸切り。	
第163図 -18 P L 133	須恵器 杯	1/4	①11.2 ②6.8 ④4.5	①粗砂粒 (石英粒) ②還元焰 普通 ③にぶい黄橙色	轆轤成形、回転方向不明。底部は回転糸切り。	
第163図 -19 P L 133	須恵器 杯	1/4	①10.8 ②4.6 ④3.6	①粗砂粒 ②還元焰 ③黒色	轆轤成形、回転右方向。体部最下位に絞り込みがみられる。底部は回転糸切り。	
第163図 -20	須恵器 杯	1/5	①13.3 ②7.7 ④5.8	①粗砂粒 ②還元焰 ③灰黄色	轆轤成形、回転方向不明。底部は回転糸切り。	
第163図 -21 P L 133	須恵器 杯	掘り方 口縁部~ 体部	①13.4 ② ④	①粗砂粒 ②還元焰焼成 ③黄灰色	轆轤成形、回転方向不明。	
第163図 -22	須恵器 杯	口縁部~ 体部片	①11.2 ② ④	①粗砂粒 ②還元焰 ③灰色	轆轤成形、回転方向不明。	
第163図 -23	須恵器 杯	底部	① ②6.6 ④	①粗砂粒 (雲母) ②還元焰焼成 (一部酸化焰)③淡い橙色	轆轤成形、回転右方向。底部は回転糸切り。	
第163図 -24	須恵器 杯	底部	① ②7.0 ④	①粗砂粒 (雲母) ②還元焰 外面焼成 ③青灰色	轆轤成形、回転右方向。底部は回転糸切り。内面 身こみ部に凹線がみられる。	
第163図 -25	須恵器 杯	底部	① ②6.8 ④	①細砂粒 ②還元焰 ④灰色	轆轤成形、回転方向不明。底部は切り離し後へラ削りが施されているが、単位方向は焼成時の降灰付着により不明。	
第163図 -26	須恵器 杯	底部~ 体部下位	① ②6.8 ④	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	轆轤回転右方向。底部は回転糸切り。外面 体部下位に絞り込みがみられる。	
第163図 -27	須恵器 杯	底部	① ②5.2 ④	①粗砂粒 ②還元焰 外面焼成 ③灰白色	轆轤成形、回転右方向。底部は回転糸切り。内面 身こみ部に凹線がみられる。	

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	法量 (cm)	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第163図 -28	須恵器 杯	底部	① ②6.1 ④	①粗砂粒(褐色粒、雲母) ②酸化焰 ③淡い橙色	轆轤成形、回転右方向。底部は回転糸切り。	
第163図 -29 P L 133	須恵器 椀	1/5	① ②6.1 ③7.4 ④	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	轆轤成形、回転右方向。底部は回転糸切り、周辺部は高台貼り付け時の撫で。	
第163図 -30	須恵器 椀	底部	① ②6.6 ③6.8 ④	①小石φ5mm ②還元焰 ③灰オリーブ色	轆轤成形、回転右方向。底部は回転糸切り、周辺部は高台貼り付け時の撫で。 内面の身こみ部に凹線がみられる。	
第164図 -31 P L 133	須恵器 長頸壺	底部～ 胴部下位	① ②11.2③11.4 ④	①粗砂粒 ②還元焰 ③灰色	轆轤成形、回転方向不明。外面 胴部下位に横方向のヘラ撫で、底部切り離し技法は高台貼り付け時の撫でのため不明。	
第164図 -32 P L 133	須恵器 甕	底部～ 胴部下位	① ②12.6 ④	①粗砂粒 ②還元焰 ③灰白色	轆轤成形、回転方向不明。外面 胴部下位に縦方向の刷毛目状工具による撫で、底部付近は横方向のヘラ削り、底部は不定方向ヘラ削り。 内面 降灰の付着がみられる。	
第164図 -33	須恵器 高杯	脚部片	① ② ④	①粗砂粒 ②還元焰 ③灰白色	轆轤成形、回転方向不明。	
第164図 -34 P L 133	土師器 甕	掘り方 口縁部～ 胴部上位	①16.0 ② ④	①細砂粒 ②酸化焰 普通 ③にぶい橙色	外面 口縁部から頸部にかけては横撫で、胴部上位横方向のヘラ削り。 内面 口縁部から頸部にかけては横撫で、胴部上位は横方向ヘラ撫で。	
第164図 -35 P L 133	土師器 甕	口縁部～ 胴部上位	①17.0 ② ④	①微砂粒 ②酸化焰 硬質 ③にぶい橙色	外面 口唇部に一条の沈線がみられる。口縁部から頸部にかけては横撫で、胴部上位は横方向のヘラ削り。内面 口縁部から頸部にかけては横撫で、胴部上位は横方向のヘラ撫で。	
第164図 -36 P L 133	土師器 杯	口縁部～ 頸部	①16.8 ② ④	①細砂粒 ②酸化焰 普通 ③橙色	外面 口縁部から頸部にかけては横撫で、頸部の一部にヘラ撫での痕跡がみられる。	
第164図 -37 P L 133	土師器 甕	口縁部～ 頸部片	①15.9 ② ④	①粗砂粒 ②酸化焰 硬質 ③赤茶色	外面 口縁部から頸部にかけては横撫で、口縁部の一部にヘラ削りを施したときのヘラ痕がみられる。 内面 口縁部から頸部にかけては横撫で。	
第164図 -38 P L 133	土師器 甕	口縁部片	①21.0 ② ④	①細砂粒(雲母) ②酸化焰 ③橙色	外面 口縁部から頸部にかけては横撫で、胴部上位は横方向のヘラ削り。 内面 口縁部から頸部にかけては横撫で。	
第164図 -39 P L 133	土師器 甕	掘り方 口縁部片	①18.4 ② ④	①細砂粒 ②酸化焰 普通 ③明赤褐色	外面 口縁部から頸部にかけては横撫で、頸部の一部に横方向のヘラ削りがみられる。胴部上位は横方向のヘラ削り。 内面 口縁部から頸部にかけては横撫で、胴部上位は横方向のヘラ撫で。	
第164図 -40 P L 133	土師器 甕	口縁部～ 胴部上位	①20.0 ② ④	①粗砂粒 ②酸化焰 普通 ③にぶい橙色	外面 口縁部から頸部の上位にかけては横撫で。頸部の上位から胴部上位にかけては、横方向のヘラ削り。 内面 口縁部から頸部にかけては横撫で。	
第164図 -41 P L 133	土師器 甕	口縁部～ 胴部上位	①20.4 ② ④	①細砂粒(雲母) ②酸化焰 硬質 ③橙色	外面 口縁部から頸部にかけては横撫で、頸部の一部に指頭痕がみられる。胴部上位は横方向のヘラ削り。 内面 口縁部から頸部にかけては横撫で、胴部は横方向のヘラ撫で。	
第164図 -42 P L 133	土師器 甕	口縁部～ 胴部上位	①19.1 ② ④	①粗砂粒 ②酸化焰 硬質 ③橙色	外面 口縁部から頸部にかけては横撫で、頸部には指頭痕・ヘラ撫でがみられる。胴部上位は横方向のヘラ削り。	
第164図 -43 P L 133	土師器 甕	口縁部片	①21.0 ② ④	①粗砂粒 ②酸化焰 普通 ③淡赤橙色	外面 口縁部から頸部にかけては横撫で、頸部には指頭痕がみられる。胴部上位は横方向のヘラ削り。 内面 口縁部から頸部にかけては横撫で。	
第164図 -44 P L 133	土師器 甕	底部～ 胴部下位	① ②3.8 ④	①細砂粒(雲母) ②酸化焰 普通 ③にぶい橙色	外面 胴部に縦方向のヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削り。	

下川田平井遺跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	法量 (cm)	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第164図 -45	土師器 甕	頸部～ 胴部上位	① ② ④	①粗砂粒 ②酸化焰 ③にぶい橙色	轆轤成形。	
挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	①最大長 ②最大幅 ③厚み ④重量		特 徴	
164-46 P L 133	鉄器 釘		①5.2 ③0.5	②1.6 ④4.0	先端部を欠損、頭部は折り曲げて、楕円形に打ち広げている。	

14号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	法量 (cm)	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第167図 -1 P L 134	須恵器 杯	1/3	①13.0 ②7.0 ④4.0	①粗砂粒 ②還元焰 口縁部燻焼成 ③にぶい黄橙色	轆轤成形、回転右方向。体部は轆轤成形、体部最下部は回転ヘラ調整。底部は回転糸切り。	
第167図 -2	須恵器 杯	底部～ 体部下位	① ②6.4 ④	①細砂粒(角礫φ5mm、φ2mm) ②還元焰③灰白色	轆轤成形、回転方向不明。体部は轆轤成形、底部は回転糸切り。	
第167図 -3	須恵器 杯	掘り方 底部片	① ②6.0 ④	①粗砂粒(亜角礫φ5mm) ②還元焰 ③灰黄色	轆轤成形、回転方向不明。体部は轆轤成形、底部は回転糸切り。	
第167図 -4 P L 134	土師器 甕	カマド 口縁部～ 胴部上位	①20.3 ② ④	①細砂粒 ②酸化焰 ③橙色	外面 口縁部から頸部にかけては横撫で、頸部には指頭痕がみられる。胴部上位は横方向のヘラ削り。内面 口縁部から頸部にかけては横撫でであるが、部分的にヘラ撫でもみられる。	
第167図 -5	土師器 甕	カマド 口縁部片	①20.0 ② ④	①粗砂粒 ②酸化焰 ③橙色	外面 口縁部から頸部にかけては横撫で。内面 口縁部から頸部にかけては横撫でであるが部分的に刷毛目痕がみられる。	
第167図 -6	土師器 甕	口縁部片	①17.4 ② ④	①粗砂粒 ②酸化焰 ③にぶい橙色	外面 口縁部から頸部にかけては横撫で。内面 口縁部から頸部にかけては横撫で。	
第167図 -7 P L 134	土製品 紡錘車	1/2	径6.0 孔径0.9	①粗砂粒 ②還元焰 ③にぶい黄橙色	甌の転用か、甌の体部を打ち抜き、底部を紡錘車として利用している。	
挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	①最大長 ②最大幅 ③厚み ④重量		特 徴	
167-8 P L 134	鉄器 刀子		①10.2 ③0.6	②1.3 ④8.0	両端部を僅かに欠く。茎部・刃部とも直線的。	
167-9 P L 134	鉄器 釘		①10.0 ③0.4	②0.5 ④4.95	頭部を欠く。	
167-10 P L 134	鉄器 釘		①1.0		両端部欠損。	
167-11 P L 134	鉄器 釘		①2.0		両端部欠損。	
167-12 P L 134	鉄器 釘		①2.6		両端部欠損。	
挿図番号 図版番号	種別	出土位置	①最大長②最大幅 ③厚み ④重量	石 材	製作技法等の特徴	備考
167-13 P L 134	敲石	床面直上	①11.0 ③3.0	②7.0 ④373.3	輝緑岩	両側縁のはば中央に敲打痕?が認められる。

15号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	法量 (cm)	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第170図 -1	須恵器 蓋	1/6	①11.6 ② ④	①粗砂粒 ②酸化焰 ③淡赤橙色	鈕欠損、轆轤成形、回転右方向。外面 鈕部周辺は回転ヘラ削りを一回転施している。	
第170図 -2	須恵器 蓋	床面直上 口縁部片	①14.0 ② ④	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	轆轤成形、回転方向不明。口縁部折り曲げ。	

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	法量 (cm)	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第170図 -3 P L 134	須恵器 杯	4/5	①12.0 ②6.2 ④3.8~4.2	①細砂粒(亜角礫φ1~3mm) ②還元焰 軟質 ③灰白色	轆轤成形、回転右方向。底部は回転糸切り。	
第170図 -4 P L 134	須恵器 杯	4/5	①11.4 ②6.8 ④3.65	①粗砂粒(亜角礫φ2~4mm) ②還元焰燻焼成 ③黒褐色	轆轤成形、回転右方向。底部は回転糸切り。	
第170図 -5 P L 134	須恵器 杯	ほぼ完形	①11.3 ②6.4 ④3.6	①細砂粒(亜角礫φ7mm) ②還元焰 軟質 ③灰白色	轆轤成形、回転右方向。底部は回転糸切り。	
第170図 -6 P L 134	須恵器 杯	2/3	①12.0 ②7.0 ④3.4	①粗砂粒(亜角礫φ2~5mm) ②還元焰燻焼成 ③黒色	轆轤成形、回転右方向か。底部は回転糸切り。	
第170図 -7 P L 134	須恵器 杯	1/2	①13.0 ②7.0 ④3.3~3.8	①細砂粒 ②還元焰燻焼成 軟質 ③外 黒色、内 におい褐色	轆轤成形、回転右方向。底部は回転糸切り。体部に歪みがみられる。	
第170図 -8 P L 134	須恵器 杯	口縁部~ 底部片	①12.0 ②6.0 ④3.5	①細砂粒(白色粒) ②酸化焰 軟質 ③におい橙色	轆轤成形、回転右方向。底部は回転糸切り。	
第170図 -9 P L 134	須恵器 杯	掘り方 3/4	①12.0 ②6.8 ④3.35	①粗砂粒 ②還元焰燻焼成 ③黒色	轆轤成形、回転右方向。底部は回転糸切り。	
第170図 -10 P L 134	須恵器 杯	1/4	①12.7 ②8.0 ④3.7	①粗砂粒 ②還元焰燻焼成 ③灰色	轆轤成形、回転右方向。底部は回転糸切り未調整。	
第170図 -11 P L 134	須恵器 杯	掘り方 1/4	①12.2 ②6.3 ④4.2	①粗砂粒 ②還元焰燻焼成 ③黒色	轆轤成形、回転右方向。底部は回転糸切り。	
第170図 -12 P L 134	須恵器 杯	1/2	①11.0 ②6.4 ④3.4	①細砂粒(亜角礫φ2~3mm) ②還元焰燻焼成 ③灰色	轆轤成形、回転右方向か。底部は回転糸切り。	
第170図 -13 P L 134	須恵器 杯	3/4	①12.6 ②6.7 ④3.7	①粗砂粒 ②還元焰 ③灰黄色	轆轤成形、回転右方向か。底部は回転糸切り。	
第170図 -14 P L 134	須恵器 杯	1/4	①13.0 ②6.4 ④3.4	①細砂粒 ②還元焰 軟質 ③黒色	轆轤成形、回転右方向。底部は回転糸切り。	
第170図 -15 P L 134	須恵器 杯	口縁部~ 底部	①12.0 ②6.2 ④3.9	①粗砂粒 ②還元焰燻焼成 ③紫黒色	轆轤成形、回転右方向。底部は回転糸切り。	
第170図 -16	須恵器 杯	底部片	① ②6.8 ④	①細砂粒(亜角礫φ3~5mm) ②酸化焰 ③におい橙色	轆轤成形、回転右方向。底部は回転糸切り未調整。	
第171図 -17 P L 134	須恵器 椀	1/2	①11.4 ②6.6③5.8 ④5.0(4.2)	①粗砂粒(角礫φ5mm) ②酸化焰 ③におい黄橙色	轆轤成形、回転右方向。底部は糸切り後高台貼り付け、高台周辺は撫で付け。	
第171図 -18 P L 134	須恵器 椀	体部上位~ 高台部	① ②8.6③9.1 ④	①粗砂粒(亜角礫φ3~7mm) ②還元焰 軟質 ③灰白色	轆轤成形、回転方向不明。底部は回転糸切り後高台貼り付け、周辺部撫で。体部内面の下部に重ね焼き痕が残る。	
第171図 -19	須恵器 椀	底部片	① ②11.0③10.0 ④	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	轆轤成形、回転右方向。底部は回転糸切り後高台貼り付け、内面は周辺を撫でている。	
第171図 -20	須恵器 短頸壺	頸部片	① ② ④	①粗砂粒 ②還元焰 ③灰色	轆轤成形。	
第171図 -21 P L 134	土師器 小型甕	口縁部片	①10.6 ② ④	①細砂粒(雲母) ②酸化焰 ③赤橙色	外面 口縁部横撫で、胴部は横方向のヘラ削り。 内面 口縁部横撫で、胴部は横方向のヘラ削り。	
第171図 -22 P L 134	土師器 甕	口縁部~ 胴部上位	①15.6 ② ④	①細砂粒(褐色鉾物粒) ②酸化焰 普通 ③橙色	外面 口縁部~頸部は横撫で、胴部上位は横方向のヘラ削り。 内面 口縁部~頸部は横撫で。	



下川田平井遺跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	法量 (cm)	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第171図 -23 P L 134	土師器 甕	口縁部～ 胴部上位	①13.8 ② ④	①細砂粒(雲母) ②酸化焰 普通 ③明褐色	外面 口縁部横撫で、胴部上位は横方向のヘラ 削り。内面 口縁部横撫で、胴部上位はヘラ撫 で。口縁部中位に接合痕がみられる。胴部に煤 の付着がみられる。	
第171図 -24 P L 135	土師器 甕	口縁部～ 胴部上位	①17.6 ② ④	①細砂粒(雲母) ②酸化焰 普通 ③赤橙色	外面 口縁部から頸部は横撫で、頸部の1部に指 頭痕がみられる。胴部上位は横方向ヘラの削り。 内面 口縁部から頸部は横撫で。	
第171図 -25 P L 135	土師器 甕	口縁部片	①20.0 ② ④	①細砂粒(雲母、褐色鉱物 粒) ②酸化焰 ③橙色	外面 口縁部から頸部は横撫で、胴部上位は横 方向ヘラ削り。 内面 口縁部から頸部は横撫で、胴部上位はヘ ラ撫で。	
第171図 -26 P L 135	土師器 甕	口縁部～ 胴部上位	①18.8 ② ④	①細砂粒(雲母) ②酸化焰 硬質 ③にぶい橙色	外面 口縁部から頸部は横撫で、胴部は横方向 のヘラ削り。 内面 口縁部から頸部は横撫で。	
第171図 -27 P L 135	土師器 甕	床面直上 口縁部～ 胴部上位	①18.8 ② ④	①粗砂粒 ②酸化焰 普通 ③にぶい橙色	外面 口縁部から頸部は横撫で、胴部上位は右 への横方向のヘラ削りが3段とその下位は縦方 向のヘラ削り。内面 口縁部から頸部にかけて 横撫で、胴部はヘラ撫で。	
第171図 -28 P L 135	土師器 甕	胴部	① ② ④	①細砂粒(雲母、褐色鉱物 粒)②酸化焰 普通 ③橙色	外面 頸部横撫で、胴部上位は右への横方向の ヘラ削りが2～3段。その下位は底部からの縦 方向のヘラ削りが施されている。 内面 胴部ヘラ撫で。	
第171図 -29	須恵器 甕	頸部片	① ② ④	①粗砂粒(角礫φ3～5mm) ②還元焰 ③灰色	外面 平行の叩き目がみられる。	
第172図 -30 P L 135	土師器 甕	底部～ 体部上位	① ②4.0 ④	①細砂粒(雲母、褐色鉱物 粒)②酸化焰 普通 ③にぶい褐色	外面 胴部に底部から口縁方向へのヘラ削り、 底部は不定方向のヘラ削り。 内面 ヘラ撫で。	
第172図 -31 P L 135	土師器 甕	底部片	① ②3.8 ④	①細砂粒(雲母) ②酸化焰 普通 ④赤色	外面 胴部は底部にむけての斜め方向へのヘラ 削り、底部は不定方向のヘラ削り。 内面 ヘラ撫で。	
第172図 -32 P L 135	須恵器 甕	口縁部～ 頸部片	①53.0 ② ④	①粗砂粒(角礫φ3～5mm) ②還元焰 ③灰色	轆轤成形、回転方向不明。口唇部は上下にひき だされている。	
第172図 -33	土製品 紡錘車	1/6	① ② ④	①細砂粒 ②酸化焰 普通 ③にぶい褐色	内外面とも撫で。	
挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	① 最大長 ② 最大幅 ③ 厚み ④ 重量	特 徴		
172-34 P L 135	鉄器 棒状製品		①6.2 ②1.5 ③0.4 ④7.2	両端を欠損し、上端がやや膨らむ。		

16号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	法量 (cm)	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第175図 -1 P L 135	須恵器 杯	貯蔵穴 完形	①11.4 ②7.2 ③3.6～3.9	①粗砂粒 ②還元焰 ③灰白色	轆轤成形、回転左方向。底部回転糸切り、焼成 時の歪みがみられる。	
第175図 -2 P L 135	須恵器 杯	完形	①12.4 ②5.3 ④4.1	①粗砂粒(亜角礫φ3～5mm) ②還元焰 ③灰色	轆轤成形、回転右方向。体部最下位はヘラ撫で がみられる。底部は回転糸切り。	
第175図 -3	須恵器 杯	底部	① ②6.2 ④	①粗砂粒(亜角礫φ3～4mm) ②還元焰 ③灰白色	轆轤成形、回転右方向。底部回転糸切り。	
第175図 -4	須恵器 杯	底部	① ②6.0 ④	①細砂粒(角礫φ3～5mm) ②還元焰 ③灰色	轆轤成形、回転右方向。底部は切り離した後ヘラ 調整。	
第175図 -5	須恵器 椀	カマド 高台～ 体下部	① ②4.9 ④5.5	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	轆轤成形、回転方向不明。底部切り離した後ヘラ 調整。	

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	法量 (cm)	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第175図 -6	須恵器 杯	底部片	① ②8.0 ④	①粗砂粒 ②酸化焰 黒色 ③橙色	轆轤成形、回転方向不明。底部は切り離し後へら調整。	

## 18号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	法量 (cm)	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第177図 -1 P L 135	須恵器 杯	3/4	①13.8 ②7.6 ④3.6	①粗砂粒 ②還元焰 ③灰白色	轆轤成形、回転右方向。底部回転糸切り。	
第177図 -2 P L 135	須恵器 杯	底部	① ②6.3 ④	①粗砂粒 ②還元焰 ③暗オリーブ色	轆轤成形、回転右方向。底部回転糸切り。体部の一部に降灰付着。	
第177図 -3	須恵器 杯	底部	① ②6.6 ④	①粗砂粒 ②還元焰 ③灰白色	轆轤成形、回転左方向。底部は回転糸切り。	
第177図 -4 P L 135	須恵器 椀	1/2	①13.8 ②6.6③6.0 ④5.2	①粗砂粒 ②還元焰 軟質 ③橙色	轆轤成形、回転左方向。底部は回転糸切り。内面 底部面にへら撫でが施されている。	
第177図 -5 P L 135	土師器 台付甕	底部～ 脚部	① ②4.4 ④	①細砂粒(雲母) ②酸化焰 ③明赤褐色	外面 胴部下位は、縦方向へら削り、脚部は横撫で。	
第177図 -6	土師器 甕	底部片	① ②3.2 ④	①細砂粒 ②酸化焰 普通 ③にぶい橙色	外面 へら削り。	
第177図 -7	須恵器 甕	口縁部片	①52.8 ② ④	①粗砂粒(角礫φ5mm) ②還元焰(内部酸化焰) ③灰オリーブ色	轆轤成形、口縁部折り返し。	
第177図 -8	須恵器 甕	口縁部片	① ② ④	①粗砂粒 ②還元焰(内部酸化焰) ③灰白色	轆轤成形、回転方向不明。口縁部折り返し。	
第177図 -9 P L 135	須恵器 羽釜	口縁部～ 鐔部片	①20.6 ②鐔径23.0 ④	①粗砂粒 ②酸化焰 ③にぶい橙色	轆轤成形、内面 鐔貼り付け位置に指頭痕がみられる。	
第177図 -10	須恵器 羽釜	口縁部～ 鐔部片	①22.6 ②鐔径27.6 ④	①粗砂粒 ②還元焰 軟質 ③灰白色	轆轤成形、口縁部と鐔は横撫で、胴部は鐔まで縦方向のへら削り。一部鐔まで達している。	

## 19号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	法量 (cm)	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第179図 -1	須恵器 蓋	口縁部～ 天井部片	①15.8 ② ④	①細砂粒 ②還元焰 軟質 ③灰白色	轆轤成形、回転方向不明。	
第179図 -2	灰釉陶器 皿	口縁部～ 体部片	①12.8 ②5.0 ④	①微砂粒 ②還元焰 ③灰白色	轆轤成形、回転方向不明。高台部欠損。施釉は内面のみで刷毛目か。	
第179図 -3 P L 136	須恵器 杯	1/2	①12.3 ②6.5 ④3.15	①粗砂粒 ②還元焰 燻焼成 ③外面 黒褐色 内面 灰黄褐色	轆轤成形、回転右方向。底部は回転糸切り。	
第179図 -4 P L 136	須恵器 杯	掘り方 1/6	①15.2 ②7.3 ④4.0	①細砂粒(雲母) ②還元焰 軟質 ③にぶい橙色	轆轤成形、回転方向不明。底部は回転糸切り。	
第179図 -5 P L 136	須恵器 椀	カマド 1/4	①15.6 ②8.0 ④5.1	①粗砂粒(石英) ②還元焰 軟質 ③橙色	轆轤成形、回転方向不明。高台部欠損。底部は回転糸切り。	

下川田平井遺跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	法量 (cm)	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第179図 -6	須恵器 杯	口縁部片	①13.3 ② ④	①細砂粒(亜角礫φ3mm) ②還元焰 ③灰色	轆轤成形、回転方向不明。	
第179図 -7	須恵器 高杯	脚部	① ② ③脚部径9.6	①粗砂粒 ②還元焰 ③灰白色	轆轤成形、回転方向不明。	
第179図 -8 P L 136	土師器 甕	口縁部～ 胴部	①20.0 ② ④	①微砂粒 ②酸化焰 普通 ③明赤褐色	外面 口縁部から頸部にかけては横撫で、胴部は、横方向から斜め方向のヘラ削り。 内面 口縁部から頸部にかけては横撫で、胴部はヘラ撫で。	
第179図 -9	須恵器 羽釜	カマド 口縁部～ 鏝部	①18.4 ②鏝径21.8 ④	①粗砂粒(石英) ②還元焰 ③灰白色	轆轤成形、回転方向不明。 外面 胴部は縦方向のヘラ削り。	
第179図 -10 P L 136	須恵器 羽釜	口縁部～ 胴部片	①19.6 ②鏝径23.0 ③	①粗砂粒(雲母、亜角礫φ 5-8mm) ②還元焰③灰色	轆轤成形、回転方向不明。外面 鏝の端部は横方向のヘラ削り。胴部は縦方向のヘラ削り。	
第180図 -11 P L 136	須恵器 羽釜	掘り方 カマド 口縁部～ 胴部	①19.0 ②鏝径23.5 ④	①粗砂粒 ②酸化焰 普通 ③灰白色	轆轤成形、回転方向不明。外面 鏝は横撫で、胴部は縦方向ヘラ削り。 内面 鏝も貼り付け部分に指頭痕がみられる。	
第180図 -12 P L 136	須恵器 羽釜	掘り方 口縁部～ 胴部	①18.6 ②鏝径23.6 ④	①粗砂粒(雲母) ②還元焰 ③浅黄橙色	轆轤成形、回転方向不明。外面 胴部は縦方向ヘラ削り。内面 鏝の貼り付け部分に指頭痕がみられる。	
第180図 -13 P L 136	須恵器 羽釜	口縁部片	①20.2 ②鏝径23.8 ④	①粗砂粒(雲母) ②酸化焰 ③にぶい黄橙色	轆轤成形、回転方向不明。外面 鏝の端部はヘラ撫で。胴部は縦方向のヘラ削り。 内面 鏝の貼り付け部に指頭痕がみられる。	
第180図 -14 P L 136	須恵器 羽釜	掘り方 口縁部～ 胴部	①17.8 ②鏝径23.0 ④	①粗砂粒(石英) ②還元焰 ③灰白色	轆轤成形、回転方向不明。外面 胴部は縦方向のヘラ削り。 内面 鏝の貼り付け部分に指頭痕がみられる。	
挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	①最大長 ②最大幅 ③厚み ④重量	特 徴		
180-15 P L 136	鉄器 鎌		①(9.0) ②4.3 ③0.45 ④24.7	刃端部のみ残存、刃部の反りは大きい。		
180-16 P L 136	鉄器 鎌		①5.0 ②6.0 ③0.4 ④25.9	基部端部・上部を折り曲げ、装着しやすくしている。		
挿図番号 図版番号	種別	出土位置	①最大長②最大幅 ③厚み ④重量	石 材	製作技法等の特徴	備考
180-17 P L 136	砥石	掘り方	①7.2 ②6.4 ③2.1 ④90.0	砥沢石	天井部を除いて他の面を使用している。	

33号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	法量 (cm)	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第182図 -1 P L 136	須恵器 椀	カマド 底部片	① ②6.6③7.0 ④	①細砂粒 ②還元焰 ③明褐灰色	轆轤成形、回転方向不明。底部切り離し技法不明。高台は貼り付け。	
第182図 -2 P L 136	須恵器 椀	カマド 底部片	① ②6.2③7.0 ④	①細砂粒 ②還元焰煨焼成 ③灰褐色	轆轤成形、回転方向不明。底部回転方向不明。高台は貼り付け。	
第182図 -3 P L 136	黒色土器 杯	口縁部片	① ② ④	①粗砂粒(長石、雲母) ②酸化焰 ③灰黄褐色	轆轤成形、回転方向不明。 内面は研磨で黒色処理。	
第182図 -4 P L 136	須恵器 壺	口縁部片	①8.8 ② ④	①細砂粒 ②還元焰 硬質 ③暗緑灰色	轆轤成形。	
第182図 -5 P L 136	土師器 甕	カマド 口縁部～ 胴部上位	①22.4 ② ④	①細砂粒(長石、雲母) ②酸化焰 ③淡赤橙色	頸部に輪積み痕が残る。外面 口縁部から頸部にかけては横撫で、胴部はヘラ削り。 内面 口縁部は横撫で、胴部はヘラ撫で。	

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	法量 (cm)	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第182図 - 6 P L 136	土師器 甕	口縁部	①18.0 ② ④	①細砂粒 ②酸化焰 ③にぶい橙色	外面 口縁部は横撫で、頸部はヘラ撫で。 内面 口縁部は横撫で、胴部はヘラ撫で。	
第182図 - 7 P L 136	須恵器 長頸壺	頸部～ 胴部上位	① ② ④	①粗砂粒(長石、雲母他) ②還元焰 ③灰黄色	轆轤成形、外面に薄く降灰が付着。	
第182図 - 8 P L 136	土師器 甕	カマド 口縁部片	①16.0 ② ④	①細砂粒 ②酸化焰 ③にぶい赤褐色	外面 口縁部は横撫で、頸部はヘラ撫で、胴部 上位は横方向ヘラ削り。 内面 口縁部は横撫で、胴部はヘラ撫で。	

## 4号土坑

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	法量 (cm)	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第183図 - 1	弥生 甕	胴部片	① ② ④	①粗砂粒(石英、雲母) ②酸化焰 ③淡黄色	外面 ヘラ削りが施されているが、磨耗している ため単位不明。 内面 横方向の刷毛目。	

## 5号土坑

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	法量 (cm)	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第184図 - 1	須恵器 杯	1/5	①12.0 ②8.1 ④3.4	①粗砂粒 ②還元焰 軟質 ③灰白色	轆轤成形、回転方向不明。底部回転糸切り。	
第184図 - 2	弥生 甕	底部片	① ②6.0 ④	①粗砂粒(雲母) ②酸化焰 軟質 ③外面 にぶい褐色 内面 にぶい橙色	外面 底部はヘラ削り。 内面 ヘラ磨き。	
第184図 - 3	弥生 甕	底部片	① ②8.0 ④	①細砂粒(雲母) ②酸化焰 普通 ③明赤褐色	外面 縦方向のヘラ削り。 内面 ヘラ磨き。	
第184図 - 4	弥生 甕	底部片	① ②8.0 ④	①粗砂粒(円礫φ3mm) ②酸化焰 普通 ③にぶい黄褐色	外面 胴部下位は縦方向のヘラ削り、底部は不 定方向のヘラ削り。	
第184図 - 5	弥生 甕	口縁部片	① ② ④	①粗砂粒(雲母) ②酸化焰 普通 ③にぶい橙色	口唇部折り返しで刻み目がみられる。	
第184図 - 6	弥生 甕	頸部片	① ② ④	①細砂粒 ②酸化焰 ③にぶい褐色	外面 波状文(6+α)、その下位には簾状文が みられる。	
第184図 - 7	弥生 甕	胴部片	① ② ④	①粗砂粒 ②酸化焰 ③外面 にぶい赤褐色 内面 橙色	外面 上位は波状文(8+α)を2段、波状文の 下位は横方向ヘラ磨き。	
第184図 - 8	弥生 甕	頸部～ 胴部上位	① ② ④	①細砂粒(黄雲母) ②酸化焰 普通 ③にぶい黄褐色	外面 縦方向の刷毛目を施した後、頸部に簾状 文(6+α、2連止? 右廻り)胴部に波状文(5 +α)を2段。	
第184図 - 9	弥生 甕	頸部片	① ② ④	①粗砂粒 ②酸化焰 普通 ③にぶい橙色	外面 頸部に簾状文(単位・方向不明)、その上 位に波状文(4+α)を2段。	
第184図 - 10	弥生 甕	口縁部片	① ② ④	①粗砂粒 ②酸化焰 普通 ③外面 にぶい褐色 内面 橙色	外面 縦方向ヘラ削り後、波状文(8+α)2段。	

6号土坑

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	法量 (cm)	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第184図 -1	弥生 甕	頸部片	① ② ④	①細砂粒 ②酸化焰 ③橙色	外面 口縁部は縦方向の刷毛目、頸部簾状文(単位不明)。 内面 横方向ヘラ磨き。	

10号土坑

挿図番号 図版番号	器種	出土位置 残存部分	胎土	色調	器形・文様・縄文等の観察	備考
185-1	深鉢	胴部	繊維を含む	赤褐色	繊維量は少なく、器外へあまり露出しない。縄文は直前段合燃 L $\left\{ \begin{array}{l} R \\ L \end{array} \right\} \begin{array}{l} L \\ R \end{array}$ 横位が施される。	

9号土坑

挿図番号 図版番号	器種	出土位置 残存部分	胎土	色調	器形・文様・縄文等の観察	備考
187-1 P L 137	深鉢	口縁部	繊維を含む	橙色	口縁成形やや不規則。内外面整形良好で繊維はあまり器外へ露出しない。R L r <sup>3</sup> 横位。	
187-2 P L 137	深鉢	胴部	繊維を含む	黒褐色	丸底状深鉢の胴下半部。器表面は剝落が著しく縄文も不明瞭であるがR L、L R横位による羽状(菱形)が構成される。	
187-3	深鉢	口縁部付近	繊維を含む	にぶい褐色	繊維量は多くない。器内面は平滑だが表面は風化しており文様も不明瞭。Loop、コンパス文が認められる。	
187-4	深鉢	胴部	繊維を含む	にぶい橙色	繊維量は多くない。器内面は大部分剝落する。前々段反燃R L L横位が施される。	
挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	法量 (cm)	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第187図 -5	弥生 甕	口縁部片	① ② ④	①粗砂粒 ②酸化焰 普通 ③明赤褐色	口唇部は折り返し、口唇部無文。	
第187図 -6	弥生 甕	頸部片	① ② ④	①微砂粒 ②酸化焰 ③にぶい赤褐色	外面 口唇部は波状文(3 + a)、頸部は簾状文(7 + a、1連止、右廻り)を1段。胴部は横方向ヘラ磨き。内面 ヘラ磨き。	
挿図番号 図版番号	種別	出土位置	①最大長②最大幅 ③厚み ④重量	石材	製作技法等の特徴	備考
187-7 P L 137	槍先形 尖頭器		①14.4 ②4.4 ③1.9 ④113.0	ホルンフェルス	柳葉形。礫面残存。 未製品か。	
187-8 P L 137	削器		①7.85 ②5.15 ③1.65 ④66.3	黒色頁岩	縦長剥片素材。 両側縁に加工痕が認められる。	
187-9 P L 137	削器		①8.35 ②5.75 ③1.8 ④102.9	黒色頁岩	横長剥片素材。 表裏両面の周縁に加工痕が認められる。	

五反田地区1号集石

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	法量 (cm)	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第188図 -1 P L 137	弥生 蓋	鈕部	①鈕径2.2 ② ④	①粗砂粒(石英、長石) ②酸化焰 普通 ③橙色	外面 ヘラ削り(単位不鮮明)。	
第188図 -2 P L 137	弥生 台付甕	胴部片	① ② ④	①粗砂粒(石英、長石) ②酸化焰 普通 ④明赤褐色	外面 頸部に簾状文(単位不明、右廻り、2連止)胴部上位に波状文。 内面 ヘラ撫で。	

1号列石

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	法量 (cm)	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第189図 -1	弥生 甕	口縁部片	①11.4 ② ④	①粗砂粒(黄雲母) ②酸化焰 ③橙色	口唇部は貼り付け。 外面 口唇部に波状文(6 + a)、口唇部より下は縦方向の刷毛整形後、波状文(6 + a)。	

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	法量 (cm)	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第189図 -2	弥生 鉢	底部	① ②4.2 ④	①粗砂粒 ②酸化焰 ③にぶい橙色	外面 体部ヘラ磨き、底部一方向へのヘラ削り。 内面 ヘラ磨き。	
挿図番号 図版番号	種別	出土位置	①最大長②最大幅 ③厚み ④重量	石 材	製作技法等の特徴	備考
189-3 P L 137	敲石		①23.8 ②10.5 ③4.5 ④2050.0	黒色頁岩	両側縁に敲打による剥離痕が認められる。	
189-4 P L 137			①20.1 ②(8.8) ③6.5 ④1400.0			
189-5 P L 137	石皿		①18.5 ②15.1 ③3.5 ④1530.0	閃緑岩	あるいは台石か?	

## 1号陥没跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	法量 (cm)	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第191図 -1	須恵器 甕	底部～ 胴部下位	① ②13.1 ④	①粗砂粒(角礫φ2-3mm) ②還元焰 ③灰色	外面 胴部・底部付近は雑なヘラ撫で、その上は刷毛による撫で。 内面 横方向の刷毛撫で。	
第191図 -2	弥生 甕	破片	① ② ④	①細砂粒 ②酸化焰 普通 ③にぶい黄橙色	外面 櫛描文と波状文。	
第191図 -3	弥生 甕	胴部片	① ② ④	①微砂粒 ②酸化焰 普通 ③にぶい黄橙色	胴部片、外面 波状文(5+a)を2段。	
挿図番号 図版番号	種別	出土位置	①最大長②最大幅 ③厚み ④重量	石 材	製作技法等の特徴	備考
191-4 P L 137	使用痕ある 剥片		①6.3 ②4.4 ③6.0 ④	黒色頁岩	縦長剥片素材。 両側縁に使用痕が認められる。	

## 1号地割れ跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	法量 (cm)	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第193図 -1 P L 137	弥生 甕	口縁部～ 頸部	①17.4 ② ④	①細砂粒(黄雲母) ②酸化焰 ③にぶい黄橙	口縁部折り返し。 外面 口唇部から頸部にかけては波状文(14+a右廻り)を上より5段以上施している。	
第193図 -2	弥生 甕	口縁部片	① ② ④	①細砂粒(黄雲母) ②酸化焰 ③灰褐色	口縁部は折り返し。口縁部は波状文(4+a)。	
第193図 -3	弥生 甕	胴部片	① ② ④	①粗砂粒 ②酸化焰 普通 ③橙色	胴部片、波状文(7+a)が数段と4孔のボタン状文貼り付け。	
第193図 -4	弥生 甕	頸部～ 胴部上位	① ② ④	①細砂粒 ②酸化焰 普通 ③にぶい黄橙色	外面 頸部に簾状文(7+a、右廻り、3連止)を2段、胴部に波状文(単位不明) 内面 横方向ヘラ磨き。	
第193図 -5	弥生 壺	頸部片	① ② ④	①粗砂粒(石英) ②酸化焰 普通 ③にぶい黄橙色	頸部片、破片上位より波状文(単位不明)、簾状文(4+a)を2段。	
第193図 -6	弥生 甕	頸部片	① ② ④	①細砂粒 ②酸化焰 普通 ③灰色	外面 簾状文(9+a、右廻り、1連止)。 内面 横方向ヘラ磨き。	
第193図 -7	弥生 甕	頸部片	① ② ④	①細砂粒(石英) ②酸化焰 軟質 ③にぶい橙色	外面 頸部に簾状文(6+a、左廻り、2連止)後、口縁部と胴部に波状文(単位不明) 内面 横方向ヘラ磨き。	
第193図 -8	弥生 甕	頸部片	① ② ④	①細砂粒(石英、雲母) ②酸化焰 普通 ③にぶい橙色	頸部片、破片上位より波状文(単位不明)、簾状文(8+a、右廻り、1連止)	
第193図 -9	弥生 甕	頸部～ 胴部上位片	① ② ④	①粗砂粒 ②酸化焰 普通 ③明褐色	外面 頸部に簾状文(6+a、右廻り、3連止)後、胴部に波状文(7+a)。 内面 ヘラ磨き。	

下川田平井遺跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	法量 (cm)	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第193図 -10	弥生 甕	頸部～ 胴部上位片	① ② ④	①細砂粒(雲母) ②酸化焰 普通 ③にぶい黄橙色	外面 頸部に簾状文(6+a、右廻り、2連止)後、口縁部に波状文(6+a)、胴部に波状文(6+a)を1段と横方向へラ磨き。 内面 横方向へラ磨き。	
第193図 -11	弥生 甕	頸部片	① ② ④	①粗砂粒(長石、雲母) ②酸化焰 ③明赤褐色	外面 頸部に簾状文(5+a)後、胴部に頸部より波状文(6+a)。	
第193図 -12	弥生 甕	頸部片	① ② ④	①細砂粒 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	外面 頸部に簾状文(8+a、右廻り、1連止)、口縁部は波状文(単位不明) 内面 横方向へラ磨き。	
第193図 -13	弥生 甕	頸部片	① ② ④	①粗砂粒 ②酸化焰 普通 ④赤灰色	外面 縦方向の刷毛目(単位不明)を施した後に頸部は簾状文(4+a)を2段、胴部上位は波状文(6+a)を2段以上。内面 横方向へラ磨き。	
挿図番号 図版番号	種別	出土位置	①最大長②最大幅 ③厚み ④重量	石 材	製作技法等の特徴	備考
193-14 P L 137	加工痕ある 剝片		①8.0 ②3.9 ③2.1 ④73.4	黒色頁岩	縦長剝片素材。礫面残存。 一側縁に僅かに加工痕が認められる。	
193-15 P L 137	使用痕ある 剝片		①9.2 ②4.5 ③1.4 ④64.1	黒色頁岩	縦長剝片素材。 一側縁に加工痕が認められる。	
193-16 P L 138	打製石斧		①15.4 ②5.7 ③3.9 ④352.4	黒色頁岩	あるいは槍先形尖頭器の未製品か?	
193-17 P L 137	石核		①13.7 ②8.5 ③5.3 ④841.2	黒色頁岩	分割礫素材。礫面残存。	

2号地割れ跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	法量 (cm)	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第195図 -1 P L 138	弥生 甕	口縁部片	①12.5 ② ④	①細砂粒 ②酸化焰 普通 ③にぶい橙色	外面 頸部に簾状文(単位不明、右廻り、2連止1ヶ所)、口縁部は下位より波状文(4+a)が施されている。 内面 口縁部下半が横方向へラ磨き。	
第195図 -2	弥生 台付甕	口縁部～ 胴部片	①9.8 ② ④	①粗砂粒 ②酸化焰 ③灰黄褐色	外面 頸部に簾状文(9、右廻り、1連止)後、口縁部と頸部下位に波状文(4+a)。 内面 横方向のへラ磨き。	
第195図 -3	弥生 甕	口縁部～ 頸部片	①14.8 ② ④	①微砂粒 ②酸化焰 普通 ③にぶい黄橙色	外面 口唇部は波状文(6+a)に中央に1孔のボタン状文、その下に簾状文(単位不明)	
第195図 -4 P L 138	弥生 甕	頸部片	① ② ④	①細砂粒 ②酸化焰 普通 ③橙色	外面 頸部に簾状文(10+a、右廻り、3連止)、口縁部に下位から波状文(7+a)が3段以上。 内面 へラ磨きが施されているが単位不鮮明。	
第195図 -5	弥生 甕	底部片	① ②5.2 ④	①粗砂粒(石英、雲母) ②酸化焰 ③外面 橙色 内面 にぶい橙色	外面 胴部にへラ削り、底部はへラ磨き。 内面 横方向へラ磨き。	
第195図 -6	弥生 高杯?	脚上半部	① ② ④	①細砂粒 ②酸化焰 ④橙色	外面 縦方向のへラ削り。	
第195図 -7	弥生 甕	口縁部片	① ② ④	①細砂粒 ②酸化焰 普通 ③にぶい橙色	口縁部は折り返し。 外面 波状文(5+a)を施文。 内面 口縁部下半に横方向へラ磨き。	
第195図 -8	弥生 甕	口縁部片	①13.8 ② ④	①細砂粒(雲母) ②酸化焰 普通 ③にぶい赤褐色	口唇部折り返し。口唇部から波状文(4+a)。	
第195図 -9	弥生 甕	口縁部片	① ② ④	①細砂粒(石英) ②酸化焰 ③明赤褐色	口唇部貼り付け。口唇部・口縁部は波状文(4+a)。	
第195図 -10	弥生 甕	口縁部片	① ② ④	①細砂粒(雲母) ②酸化焰 普通 ③浅黄色	口縁部片、口唇部より波状文(6+a)。	



挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	法量 (cm)	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第195図 -11	弥生 甕	胴部片	① ② ④	①細砂粒(雲母) ②酸化焰 普通 ③にぶい黄橙色	外面 波状文(単位不明)とヘラ磨き。 内面 ヘラ磨き。	
第195図 -12	弥生 甕	頸部下位～ 胴部上位片	① ② ④	①細砂粒(角礫φ3mm) ②酸化焰 普通 ③にぶい黄橙色	外面 頸部に簾状文(単位不明)後、胴部に波状 文(6+α)が1段。 内面 ヘラ撫で。	
第195図 -13	弥生 甕	頸部～ 胴部上位片	① ② ④	①細砂粒 ②酸化焰 普通 ③淡黄色	外面 波状文(5+α)が4段以上。 内面 横方向ヘラ磨き。	
第195図 -14	弥生 甕	頸部片	① ② ④	①細砂粒 ②酸化焰 普通 ③にぶい褐色	外面 頸部に簾状文(単位不明)後、口縁部は上 より波状文(6+α)。 内面 横方向のヘラ磨き。	
第195図 -15	弥生 甕	頸部片	① ② ④	①粗砂粒(長石) ②酸化焰 ③外面 にぶい黄褐色 内面 にぶい褐色	外面 頸部に簾状文(単位不明、右廻り)、3連止) 口縁部は下位より波状文(8+α)が4段以上。 内面 横方向ヘラ磨きが施されている。	
挿図番号 図版番号	種別	出土位置	①最大長②最大幅 ③厚み ④重量	石 材	製作技法等の特徴	備考
195-16 P L 138	加工痕ある 剥片		①2.45 ②2.7 ③0.9 ④3.6	黒色頁岩	不定形剥片素材。礫面残存。 端縁に加工痕、両側縁に使用痕が認められる。	
195-17 P L 138	加工痕ある 剥片		①3.9 ②1.8 ③0.45 ④4.6	黒色頁岩	縦長剥片素材。 両側縁に加工痕が認められる。	
195-18 P L 138	使用痕ある 剥片		①5.1 ②2.7 ③1.4 ④12.2	黒色頁岩	縦長剥片素材。礫面残存。 一側縁に使用痕が認められる。	
195-19 P L 138	加工痕ある 剥片		①7.65 ②3.8 ③1.3 ④29.8	黒色頁岩	縦長剥片素材。 両側縁に僅かに加工痕が認められる。	
195-20 P L 138	槍先形 尖頭器		①(4.7) ②2.6 ③0.9 ④10.0	黒色頁岩	柳葉形。 先端部のみ残存。	
195-21 P L 138	使用痕ある 剥片		①9.3 ②3.2 ③1.6 ④38.5	黒色頁岩	縦長剥片素材。 一側縁に使用痕が認められる。	
195-22 P L 138	加工痕ある 剥片		①6.5 ②3.5 ③1.0 ④16.4	黒色頁岩	縦長剥片素材。 一側縁に加工痕が認められる。	
195-23 P L 138	加工痕ある 剥片		①6.1 ②4.7 ③1.05 ④27.6	黒色頁岩	縦長剥片素材。 両側縁に僅かに加工痕が認められる。	
195-24 P L 138	削器		①(6.6) ②4.1 ③1.6 ④41.0	黒色頁岩	縦長剥片素材。礫面残存。 両側縁に加工痕が認められる。	
195-25 P L 138	加工痕ある 剥片		①6.0 ②3.5 ③1.0 ④16.5	黒色頁岩	縦長剥片素材。 両側縁に加工痕が認められる。	
195-26 P L 138	槍先形 尖頭器		①11.9 ②3.4 ③1.4 ④53.8	黒色頁岩	柳葉形。 両端を欠損。	
196-27 P L 138	石核		①9.8 ②5.9 ③3.1 ④217.7	黒色頁岩	大型剥片素材。 周縁からの求心的な剥離が施されている。	
196-28 P L 138	使用痕ある 剥片		①9.8 ②5.5 ③1.9 ④110.7	黒色安山岩	縦長剥片素材。 一側縁に使用痕が認められる。	
196-29 P L 138	打製石斧		①12.8 ②4.5 ③1.6 ④103.0	黒色頁岩	短冊形。	
196-30 P L 138	削器		①10.9 ②7.4 ③3.1 ④276.1	黒色安山岩	横長剥片素材。礫面残存。	
196-31 P L 138	槍先形 尖頭器		①(11.3) ②9.0 ③2.4 ④265.9	黒色安山岩	木葉形。半分欠損。未製品か？	
196-32 P L 139	打製石斧		①9.2 ②5.0 ③2.7 ④121.8	黒色頁岩	短冊形。礫面残存。刃部の一部欠損。	
196-33 P L 139	槍先形 尖頭器		①(7.4) ②5.2 ③1.4 ④67.9	黒色頁岩	木葉形。 中央から先端部にかけて欠損。	
196-34 P L 138	槍先形 尖頭器		①13.0 ②5.8 ③3.1 ④217.7	黒色頁岩	木葉形。先端部を欠損。 再生のための調整を加えている。	
196-35 P L 138	石核		①21.5 ②11.0 ③9.3 ④2500.0	黒色頁岩	分割礫素材。礫面残存。 周縁部から中心にむけて剥離を加えている。	

下川田平井遺跡

8号溝

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	①最大長 ③厚み	②最大幅 ④重量	特徴
198-1 P L 139	鉄器 釘		①7.1 ③0.6	②0.5 ④3.0	両端部欠損、大きく折れ曲がっている。
198-2 P L 139	鉄器 釘		①4.7 ③0.45	②0.45 ④3.0	両端部欠損、錆化がすすんでいる。
198-3 P L 139	鉄器 釘		①4.1 ③0.4	②0.5 ④1.0	先端部欠損、頭部は折り曲げ。
198-4 P L 139	鉄器 釘		①2.4 ③0.8	②0.8 ④2.0	中央部片、錆化が進んでいる。
198-5 P L 139	鉄器 釘		①1.8 ③0.4	②0.5 ④1.0	小破片。

五反田地区A s - B層下水田跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	法量 (cm)	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考				
第208図 - 1	須恵器 杯	口縁部～ 体部	①15.2 ② ④	①粗砂粒(角礫φ3-6mm) ②還元焰 ③灰色	轆轤成形、回転方向不明。					
第208図 - 2	須恵器 瓶	底部～ 胴部下位	① ②6.0 ④	①粗砂粒 ②還元焰 軟質 ③灰白色	轆轤成形、回転右方向。底部切り離し後、ヘラ調整。					
第208図 - 3	須恵器 杯	底部	① ②6.2 ④	①粗砂粒(角礫φ5mm) ②酸化焰 ③にぶい橙色	轆轤成形、回転右方向。底部は回転糸切り。					
第208図 - 4	須恵器 甕	底部	① ②6.0 ④	①粗砂粒(円礫φ3mm、 褐色粒)②酸化焰 ③浅黄橙色	轆轤成形、回転右回転。底部回転糸切り。					
第208図 - 5	土師器 椀	口縁部～ 胴部中位	①11.6 ② ④	①粗砂粒(雲母) ②酸化焰 ③橙色	外面 磨耗のため整形は不明確であるが、体部はヘラ削りが施されている。					
第208図 - 8	須恵器 羽釜	破片	① ② ④	①細砂粒 ②還元焰 軟質 ③にぶい橙色	轆轤成形、回転方向不明。胴部は縦方向のヘラ削り。					
第208図 - 9	須恵器 甕	口縁部片	①25.0 ② ④	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	轆轤成形。回転方向不明。					
挿図番号	図版番号	銭名	時代	初鋳年代	出土位置	径	重量	穿形	書体	背文
第208図-10	P L 139	開元通寶	唐	621年	水田面	2.4	3.0	方形	真書	
第208図-11	P L 139	祥符元寶	北宋	1008年	水田面	2.5	4.0	方形	真書	
第208図-12	P L 139	永樂通寶	明	1408年	水田面	2.5	3.0	方形	真書	

平井地区1区A s - B層下水田跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	法量 (cm)	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考				
第210図 - 1	土師器 椀	B B - 37 口縁部～ 体部片	①14.0 ② ④	①粗砂粒 ②酸化焰 ④にぶい黄橙色	外面 口縁部は横撫で、体部はヘラ削りが施されているが単位は磨耗のため不明瞭。 内面 口縁部から体部の上位にかけては横撫で。					
第210図 - 2 P L 139	土師器 椀	1区 1/2	①17.2 ②7.2③9.2 ④5.5	①粗砂粒(角礫φ2-3mm) ②酸化焰 普通 ③橙色	轆轤成形、回転方向不明。底部切り離し技法は高台貼り付けの撫でのため不明。					
挿図番号	図版番号	銭名	時代	初鋳年代	出土位置	径	重量	穿形	書体	背文
第210図-3	P L 139	元豐通寶	北宋	1078年	水田面	2.5	2.0	方形	篆書	
第210図-4	P L 139	洪武通寶	明	1425年	水田面	2.3	3.0	方形	真書	
第210図-5	P L 139	宣和通寶	北宋	1119年	水田面	2.4	3.0	方形	隸書	

## 平井地区3区・4区As-B層下水田跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	法量 (cm)	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第212図 -6	須恵器 耳皿	3区 破片	① ② ④	①細砂粒 ②還元焰 軟質 ③灰色	轆轤成形、回転方向不明。 内面に指頭痕がみられる。	
第212図 -7 P L 139	須恵器 耳皿	3区 口縁部～ 底部	① ②5.4③6.0 ④	①砂粒 ②還元焰 軟質 ③灰白色	轆轤成形、回転右方向。底部は回転糸切り。高 台部に1条の沈線あり。	
第214図 -8	須恵器 蓋	4区 天井部片	① ② ④	①粗砂粒(黒色粒) ②還元焰 ③灰色	鈕部口縁部欠損。轆轤成形、回転方向不明。天 井部の中心部は回転ヘラ削り。	
第214図 -9 P L 139	須恵器 椀	C F -2 1/4	① ②6.6③6.8 ④	①粗砂粒(石英) ②還元焰 軟質 ③にぶい橙色	轆轤成形、回転右方向。底部回転糸切り。	
第214図 -10 P L 139	須恵器 椀	4区 底部片	① ②6.5 ④	①粗砂粒(亜角礫φ3mm) ②還元焰 ③外面 にぶい褐色	轆轤成形、回転右方向。体部轆轤成形。底部は 切り離し後、回転ヘラ調整。 内面 黒色処理。	
第214図 -11	中世陶器 鉢	4区 口縁部片	① ② ④	①粗砂粒(雲母) ②還元焰 軟質 ③黒色	外面 横撫で。 内面 剝離のため不明。	

## 五反田地区F P層下水田跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	法量 (cm)	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第222図 -1	土師器 椀	口縁部～ 体部	①11.6 ② ④	①粗砂粒 ②酸化焰 軟質 ③淡橙色	外面 磨耗が激しいが口縁部は横撫で。 内面 口縁部から体部の上位にかけてヘラ磨き が施されている。	

## 平井地区1区F P層下水田跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	法量 (cm)	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第228図 -1	黒色土器 椀	体部下位	① ②8.0 ④	①粗砂粒(長石、雲母、 小石) ②酸化焰 ③にぶい橙色	轆轤成形、回転方向不明。高台欠損、底部切り 離し技法は高台貼り付け時の撫でのため不明。 内面 体部・底部ともヘラ磨きが施され、黒色 処理がされている。	

## 平井地区2区～4区F P層下水田跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	法量 (cm)	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第232図 -1 P L 139	弥生 杯	1号集石 1/2	① ② ④	①粗砂粒 ②酸化焰 ③明黄褐色	外面 口縁部は横撫で、体部から底部にかけて はヘラ削りが施されているが体部上半は磨耗の ため単位は不鮮明。	
第232図 -2	土師器 短頸壺	1号集石 口縁部片	①10.3 ② ④	①細砂粒 ②酸化焰 ③橙色	外面 口縁部から胴部上位にかけては横撫で、 胴部は斜め方向のヘラ削り。 内面 口縁部は横撫で、胴部は横方向ヘラ撫で。	
第232図 -3 P L 139	弥生 甕	1号集石 胴部下位～ 底部	① ②7.0 ④	①粗砂粒(石英) ②酸化焰 普通 ③明黄褐色	外面 胴部は縦方向のヘラ削り、底部は粗いヘ ラ削り。 内面 やや雑なヘラ磨き。	
第233図 -4	弥生 甕	2号集石 口縁部片	① ② ④	①細砂粒 ②酸化焰 ③にぶい黄褐色	口縁部折り返し、折り返し部分には刻み目。	
第233図 -5	弥生 甕	2号集石 頸部片	① ② ④	①粗砂粒 ②酸化焰 ③にぶい褐色	外面 頸部は波状文と簾状文。	
第234図 -7	弥生 杯	2区 口縁～ 体部片	①13.8? ② ④	①細砂粒 ②酸化焰 軟質 ③にぶい黄褐色	口縁部は横撫で、体部・底部は磨耗のため整形 技法不明。	

下川田平井遺跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	法量 (cm)	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第234図 - 8	弥生 高杯	4区 杯部下位	① ② ④	①粗砂粒 ②酸化焰 普通 ③赤橙色	高杯の杯身と脚部の接合部分。 外面 縦方向へのヘラ磨き。 内面 ヘラ撫で。	
第234図 - 9 P L 139	須恵器 杯	C F ~ C K -80 1/4	①11.4 ②6.8 ④3.5	①粗砂粒(角礫φ8mm) ②還元焰 ③灰黄色	轆轤成形、回転方向不明。体部の最下位に絞り込みがみられる。	
第234図 - 10	須恵器 杯	4区 底部片	① ②7.0 ④	①粗砂粒(亜角礫φ5mm) ②還元焰 ③外面 黒色 内面 灰黄褐色	轆轤成形、回転右方向。底部は回転糸切り。	
第234図 - 11 P L 139	土師器 甕	3区 4/5	①11.4 ②4.2 ④11.0	①粗砂粒(石英) ②酸化焰 普通 ③灰白色	外面 口縁部が横撫で、胴部・底部はヘラ削り、 底部の一部に木葉痕が残る。 内面 口縁部が横撫で。	
第234図 - 12	土師器 甕	4区 頸部~ 胴部上位	① ② ④	①粗砂粒(亜角礫φ4mm) ②酸化焰 普通 ③にぶい黄褐色	内面 ヘラ撫で。	
第234図 - 13 P L 139	弥生 甕	4区 口縁部~ 頸部	①18.5 ② ④	①細砂粒 ②酸化焰 普通 ③にぶい黄褐色	口縁部折り返し。 外面 口縁部は粗いヘラ磨き、頸部は刷毛目の 後簾状文(7+a) 内面 刷毛目の後粗いヘラ撫で。	
第234図 - 14	弥生 甕	4区 口縁部片	① ② ④	①細砂粒 ②酸化焰 軟質 ③にぶい橙色	口縁部折り返し。折り返し部分下は横方向の刷 毛目が施されている。	
第234図 - 15	弥生 甕	3区 口縁部片	① ② ④	①粗砂粒 ②酸化焰 軟質 ③外面 黒色 内面 灰黄褐色	口縁部は折り返し。	
第234図 - 16	弥生 甕	4区 口縁部片	① ② ④	①粗砂粒 ②酸化焰 普通 ③外面 褐色 内面 にぶい褐色	口縁部折り返しで波状文(4+a)	
第234図 - 17	弥生 甕	C K - 77~79 頸部片	① ② ④	①粗砂粒 ②酸化焰 ③明赤褐色	外面 口縁部は波状文(5+a)が三段、頸部は 簾状文(9+a)が施されている。	
第234図 - 18 P L 139	弥生 甕	4区 底部~ 胴部	① ②7.8 ④	①細砂粒 ②酸化焰 普通 ③にぶい黄褐色	外面 胴部はヘラ削り、底部は磨耗のため整形 不明。 内面 胴部はヘラ磨き。	
第234図 - 19	弥生 甕	4区 底部	① ②6.4 ④	①粗砂粒 ②酸化焰 普通 ③にぶい橙色	外面 底部の整形は磨耗のため不明。	
挿図番号 図版番号	種別	出土位置	①最大長②最大幅 ③厚み ④重量	石 材	製作技法等の特徴	備考
233-6 P L 139	石皿	2号集石	①13.0 ②10.5 ③3.6 ④765.0	石英閃緑岩		

平井地区6区遺構外出土弥生土器他

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	法量 (cm)	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第249図 - 1	弥生 甕	C F ~ C K -80 底部	① ②8.6 ④	①粗砂粒(長石、雲母) ②酸化焰 普通 ③明赤褐色	外面 胴部・底部とも研磨。 内面 ヘラ撫で。	
第249図 - 2	弥生 甕	C K - 17~19 底部	① ②7.6 ④	①細砂粒(石英、雲母) ②酸化焰 普通 ③外面 にぶい橙色 内面 にぶい赤褐色	外面 胴部・底部ともヘラ削り(単位不鮮明) 内面 ヘラ撫で。	
第249図 - 3	弥生 甕	C F ~ C K -80 底部~ 胴部下位	① ②7.4 ④	①粗砂粒(石英、長石) ②酸化焰 普通 ③にぶい橙色	外面 研磨。 内面 身こみに研磨。	

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	法量 (cm)	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第249図 - 4	弥生 高杯	C K - 75~80 脚接合部	① ② ④	①粗砂粒(長石、雲母) ②酸化焙 普通 ③橙色	外面 研磨。 内面 杯身部分がヘラ撫で、脚部が刷毛目。	
第249図 - 5	弥生 甕	C K - 77~79 口縁部片	① ② ④	①粗砂粒(石英) ②酸化焙 普通 ③橙色	口唇部は折り返し。外面 刷毛整形後波状文。	
第249図 - 6	弥生 甕	C F ~ C K -80 頸部~胴部	① ② ④	①粗砂粒(石英、雲母) ②酸化焙 普通 ③にぶい黄橙色	外面 簾状文(単位不明、右廻り、2連止)、波状文(単位不明)。 内面 研磨。	
第249図 - 7	弥生 甕	C F ~ C K -80 頸部~胴部	① ② ④	①細砂粒(雲母) ②酸化焙 普通 ③にぶい黄橙色	外面 頸部に簾状文(8 + $\alpha$ 、右廻り、3連止)、口縁部と胴部に波状文(8 + $\alpha$ )。	
第249図 - 8	弥生 甕	C K ~ C P -80 頸部片	① ② ④	①粗砂粒(雲母) ②酸化焙 普通 ③橙色	外面 簾状文(単位不明)、波状文(6 + $\alpha$ )。 内面 ヘラ撫で。	

## 平井地区7区谷地遺構外出土弥生土器他

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	法量 (cm)	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第249図 - 1 P L 141	弥生 甕	口縁部~ 頸部	①12.6 ② ④	①粗砂粒 ②酸化焙 ③橙色	口縁部は折り返し。外面 口唇部から頸部にかけては、波状文(9 + $\alpha$ )、簾状文(9 + $\alpha$ )、波状文が施されている。内面 頸部より下位は横方向のヘラ磨きが施されている。	
第249図 - 2	弥生 鉢	底部片	① ②3.6 ④	①粗砂粒(亜角礫 $\phi$ 2~4mm 褐色粒)②酸化焙 硬質 ③橙色	外面 体部は縦方向のヘラ磨き。 内面 体部は縦方向のヘラ磨き、底部は左右へのヘラ磨き。	
第249図 - 3	弥生 甕	頸部片	① ② ④	①粗砂粒(雲母) ②酸化焙 ③にぶい橙色	外面 刷毛目を施した後、横方向の櫛描文、部分的に縦方向の櫛描文。 内面 ヘラ磨き。	
第249図 - 4	弥生 匙	破片	① ② ④	①細砂粒(石英、雲母) ②酸化焙 普通 ③にぶい橙色	手捏ね成形。 内面 ヘラ撫で。	
第249図 - 5 P L 141	須恵器 杯	完形	①12.6 ②6.4 ④4.4	①粗砂粒 ②還元焙 ③外面 灰白色	轆轤成形、回転左方向。底部回転糸切り。	

## 平井地区遺構外(谷地以外)出土弥生土器他

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	法量 (cm)	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第249図 - 1	弥生 蓋	鈕部片	①鈕径5.8 ② ④	①粗砂粒(雲母) ②酸化焙 普通 ③橙色	外面 ヘラ磨き。	
第249図 - 2	弥生 甕	口縁部片	①16.9 ② ④	①粗砂粒(角礫 $\phi$ 2mm、 雲母)②酸化焙 ③浅黄橙色 内面 淡黄色	外面 口縁部が横撫で、胴部が刷毛目。	
第249図 - 3	土師器 甕	口縁部~ 頸部	①15.3 ② ④	①細砂粒 ②酸化焙 普通 ③赤橙色	外面 口縁部は横撫で、頸部から胴部にかけては縦方向の刷毛目、部分的に縦方向の後、横方向の刷毛目が施されている。	
第249図 - 4 P L 141	弥生 甕	C V -96 口縁部~ 胴部	①15.2 ② ④	①粗砂粒 ②酸化焙 普通 ③赤橙色	外面 口縁部横撫で、頸部から胴部にかけては研磨。 内面 口縁部上半が横撫で、口縁部下半から胴部上位は研磨、胴部中位以下はヘラ撫で。	
第249図 - 5	弥生 甕	C N -90 底部~ 胴部下位	① ②7.6 ④	①粗砂粒(雲母) ②酸化焙 ③橙色	外面 胴部・底部ともヘラ削り。 内面 ヘラ磨き。	
第249図 - 6	弥生 甕	C N -90 底部	① ②6.7 ④	①粗砂粒 ②酸化焙 ③浅黄色	外面 胴部・底部ともヘラ削り。	

下川田平井遺跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	法量 (cm)	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第249図 -7	弥生 甕	C N-90 底部～ 胴部下位	① ②6.0 ④	①粗砂粒 ②酸化焰 軟質 ③橙色	外面 胴部・底部ともヘラ削り。 内面 ヘラ磨き。	
第249図 -8	弥生 台付甕	口縁部～ 胴部	①10.8 ② ④	①細砂粒(雲母) ②酸化焰 普通 ③にぶい橙色	外面 口縁部に波状文(4+a)、頸部に簾状文(5+a)、胴部に波状文と刺突文を施した円形ボタン状文を貼り付け。	
第250図 -9 P L 141	土師器 小型壺	C P～C U -90 口縁部	①12.8 ② ④	①粗砂粒 ②酸化焰 普通 ③にぶい黄橙色	外面 口唇部は横撫で、口縁部から頸部にかけてはヘラ磨き。	
第250図 -10	弥生 壺	C N-90 底部	① ②8.2 ④	①細砂粒(長石、雲母) ②酸化焰 硬質 ③にぶい褐色	外面 胴部・底部ともヘラ削り。 内面 胴部はヘラ磨き。	
第250図 -11	弥生 壺	C P～C U -87～93 底部～ 胴部下位	① ②6.6 ④	①粗砂粒(長石、雲母) ②酸化焰 軟質 ③にぶい黄橙色	外面 胴部は、刷毛整形後ヘラ削り。 内面 ヘラ撫で。	
第250図 -12	弥生 壺	C N-90 底部片	① ②7.6 ④	①粗砂粒(雲母) ②酸化焰 ③外面 灰褐色 内面 にぶい橙色	外面 胴部・底部ともヘラ削り。	
第250図 -13	弥生 壺	C N-90 底部	① ②5.8 ④	①粗砂粒(石英、雲母) ②酸化焰 普通 ③にぶい橙色	外面 胴部・底部はヘラ削り。 内面 刷毛目。	
第250図 -14	弥生 甕	口縁部片	① ② ④	①粗砂粒 ②酸化焰 ③橙色	外面 口縁部に波状文(単位不明)と頸部に簾状文(単位不明)。ススの付着。	
第250図 -15	弥生 甕	C P～C U -87～93 口縁部片	①16.0 ② ④	①砂粒(雲母) ②酸化焰 普通 ③にぶい黄橙色	口縁部折り返し。 外面 波状文(5+a)を3段。	
第250図 -16	弥生 甕	口縁部片	① ② ④	①細砂粒(雲母) ②酸化焰 普通 ③外面 にぶい黄褐色 内面 にぶい黄橙色	口唇部は折り返し。 外面 刷毛整形後、波状文(5+a)を施文。 内面 ヘラ磨き。	
第250図 -17	弥生 甕	口縁部片	① ② ④	①粗砂粒(石英、長石、雲母)②酸化焰 ③褐色	口縁部は折り返し。 外面 刷毛整形後、波状文(4+a)。	
第250図 -18	弥生 甕	口縁部片	① ② ④	①細砂粒 ②酸化焰 やや軟質 ③にぶい黄橙色	口縁部折り返し。 外面 口唇部より下に向けて波状文(8+a)を施文。	
第250図 -19	弥生 甕	口縁部片	① ② ④	①細砂粒 ②酸化焰 ③褐色	口縁部は波状文(5+a)。	
第250図 -20	土師器 甕 穿孔土器	C M-89 破片	孔径3mm	①細砂粒 ②酸化焰 ③明褐色	補修孔が2孔みられる。	
第250図 -21 P L 141	須恵器 杯	C K- 75～80 1/4	①11.8 ②7.2 ④3.8	①粗砂粒 ②還元焰 ③淡黄色	轆轤成形、回転方向不明。底部回転系切り。	
第250図 -22	須恵器 杯	口縁部～ 体部	①16.7 ② ④	①粗砂粒(円礫φ2～5mm) ②還元焰 燻焼成 ③灰白色	轆轤成形、回転方向不明。体部轆轤成形。	
第250図 -23	須恵器 杯	C U～C V -90～92 口縁部	①13.0 ② ④	①粗砂粒(亜角礫φ2～3mm) ②還元焰 ③灰白色	轆轤成形、回転方向不明。	
第250図 -24	須恵器 杯	C U～C V -90～92 口縁部片	①13.1 ② ④	①細砂粒 ②還元焰 軟質 ③にぶい黄橙色	轆轤成形、回転方向不明。	
第250図 -25 P L 141	須恵器 杯	C U-90 口縁部～ 体部	①12.8 ② ④	①細砂粒 ②酸化焰(内面 燻焼成) ③にぶい橙色	轆轤成形、回転方向不明。体部轆轤成形。	

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	法量 (cm)	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第250図 -26 P L 141	須恵器 椀	P R ~ D P -95~99 底部~体部	① ②5.7③6.3 ④	①粗砂粒 ②還元焰 軟質 ③にぶい黄橙色	轆轤成形、回転左方向。底部は回転糸切り。周辺部は高台貼り付け。	
第250図 -27	須恵器 甕	C K ~ C P -86~90 胴部片	① ② ④	①粗砂粒 ②還元焰 ③外面 灰黄色 内面 黄灰色	轆轤成形、外面は平行叩痕がみられる。	

## 平井地区7区遺構外出土鉄器

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	①最大長 ③厚み	②最大幅 ④重量	特徴
251-28 P L 141	鉄器 馬蹄	B W ~ C B -66	①11.8 ③0.5	②11.3 ④146.0	先部は折り曲げ、左右に5ヶ所の釘穴がある。
251-29 P L 141	鉄器 馬蹄	表採	①11.5 ③0.5	②11.0 ④149.7	先部は折り曲げ、左右に5ヶ所の釘穴がある。
251-30 P L 141	鉄器 鉄	A Y - 26	①12.1 ③0.3刃厚みφ0.2~0.25	②2.5 刃幅0.9 ④12.0	
251-31 P L 141	鉄器 刀子	B U - 72~74	①9.0 ③0.5	②1.5 ④11.0	刃部・茎部とも端部を欠損、刃部は直線的。
251-32 P L 141	銅製品 キセル	C K - 80~85	①6.0 ③0.1	孔径 0.6~1.4 ④6.4	吸い口の部分はほぼ直線的で、差し込み部は曲線的である。
251-33 P L 141	鉄器 鎌	C F ~ C K -80	①4.4 ③0.3	②2.2 ④5.4	刃部中央付近の破片か?

## 五反田地区遺構外出土石器

挿図番号 図版番号	種別	出土位置	①最大長②最大幅 ③厚み ④重量	石材	製作技法等の特徴	備考
252-1 P L 142	打製石鏃	Ⅵ層	①(2.3) ②1.6 ③0.3 ④1.00	チャート	凹基無茎。両脚欠損。	
252-2 P L 142	打製石鏃	Ⅵ層	①1.6 ②1.4 ③0.5 ④0.70	チャート	凹基無茎。片脚欠損。	
252-3 P L 142	打製石鏃	Ⅵ層	①3.0 ②1.5 ③0.3 ④1.28	珪質頁岩	凹基有茎。茎部欠損。	
252-4 P L 142	槍先形 尖頭器	Ⅵ層	①(3.7) ②1.5 ③0.5 ④3.08	チャート	先端部欠損。	
252-5 P L 142	打製石斧	Ⅴ層	①(7.8) ②4.7 ③1.3 ④46.7	黒色頁岩	撥形。刃部欠損。	
252-6 P L 142	打製石斧		①(6.8) ②4.65 ③1.4 ④53.2	黒色頁岩	短冊形。礫面残存。刃部欠損。	
253-7 P L 142	打製石斧	1号埋没沢	①10.2 ②7.3 ③2.8 ④256.9	黒色頁岩	分銅形。	
253-8 P L 142	打製石斧	1号埋没沢	①10.2 ②7.2 ③3.4 ④251.3	黒色頁岩	分銅形。礫面残存。	
253-9 P L 142	打製石斧		①11.1 ②6.1 ③3.6 ④251.5	黒色頁岩	撥形。	
253-10 P L 142	打製石斧		①12.2 ②6.6 ③2.4 ④159.9	黒色頁岩	短冊形。頭部の一部欠損。	
253-11 P L 142	打製石斧	1号埋没沢	①24.4 ②12.9 ③3.8 ④921.3	黒色頁岩	分割礫素材。表面礫面残存。 表裏両面の周縁に加工痕が認められる。石鏃?	
254-12 P L 142	石匙		①3.8 ②3.0 ③0.55 ④5.6	珪質頁岩	縦長剥片素材。縦形。先端部欠損。	
253-13 P L 143	打製石斧		①8.7 ②6.5 ③2.0 ④97.8	黒色頁岩	撥形。礫面残存。	
254-14 P L 143	打製石斧	Ⅵ層	①9.4 ②5.1 ③2.3 ④116.8	黒色頁岩	短冊形。礫面残存。	
254-15 P L 143	打製石斧	Ⅵ層	①9.2 ②6.6 ③1.7 ④104.6	黒色頁岩	短冊形。 頭部部分は刃部の再生と考えられる。	



下川田平井遺跡

挿図番号 図版番号	種別	出土位置	①最大長②最大幅 ③厚み ④重量	石 材	製 作 技 法 等 の 特 徴	備 考
254-16 P L 143	削器	1号埋没沢	①15.2 ②5.5 ③2.45 ④100.3	黒色頁岩	縦長剥片素材。礫面残存。 両側縁に加工痕が認められる。	
254-17 P L 143	削器		①7.5 ②5.3 ③1.4 ④67.5	黒色頁岩	縦長剥片素材。礫面残存。 打製石斧の欠損品からの再生か。	
254-18 P L 143	削器	1号埋没沢	①(8.0) ②5.05 ③1.65 ④78.4	黒色頁岩	縦長剥片素材。 一側縁に加工痕が認められる。	
254-19 P L 143	加工痕ある 剥片	VI層	①7.4 ②5.7 ③1.6 ④55.5	黒色頁岩	縦長剥片素材。 一側縁に加工痕が認められる。	
254-20 P L 143	打製石斧	1号埋没沢	①9.2 ②10.2 ③2.3 ④223.1	黒色頁岩	撥形。頭部欠損。	
254-21 P L 143	削器	1号埋没沢	①9.45 ②7.3 ③2.4 ④200.7	黒色頁岩	横長剥片素材。礫面残存。	
254-22 P L 143	削器		①5.6 ②5.5 ③1.2 ④30.1	黒色頁岩	折断。 一側縁の表裏両面に加工痕が認められる。	
254-23 P L 143	削器	1号埋没沢	①8.1 ②10.0 ③1.4 ④140.8	黒色安山岩	縦長剥片素材。 両側縁に加工痕が認められる。	
255-24 P L 143	削器		①6.8 ②8.65 ③2.6 ④179.8	黒色頁岩	横長剥片素材。礫面残存。 表裏両面の周縁に加工痕が認められる。	
255-25 P L 143	削器		①6.7 ②7.7 ③2.75 ④96.8	黒色頁岩	縦長剥片素材。 周縁に加工痕が認められる。	
255-26 P L 143	砥石	B F - 45~50	①(5.9) ②3.7 ③3.0 ④116.4	流紋岩	四面を研ぎ面としている。	
255-27 P L 143	打製石斧		①21.7 ②6.2 ③3.0 ④607.9	粗粒安山岩	短冊形。礫面残存。	
255-28 P L 143	石核	1号埋没沢	①12.5 ②10.7 ③2.8 ④508.4	黒色頁岩	礫面残存。 周縁からの求心的の剥離が施されている。	

平井地区2区遺構外出土石器

挿図番号 図版番号	種別	出土位置	①最大長②最大幅 ③厚み ④重量	石 材	製 作 技 法 等 の 特 徴	備 考
256-1 P L 144	打製石斧	VI層	①10.7 ②4.9 ③1.8 ④100.6	黒色頁岩	短冊形。	
256-2 P L 144	打製石斧	VI層	①11.75 ②5.6 ③2.55 ④185.5	黒色頁岩	撥形。礫面残存。	
257-3 P L 144	加工痕ある 剥片	VI層	①4.1 ②2.5 ③1.55 ④8.9	珪質頁岩	周縁に加工痕が認められる。	
257-4 P L 144	加工痕ある 剥片	VI層	①3.7 ②5.8 ③1.25 ④23.3	黒色頁岩	横長剥片素材。 一縁に加工痕が認められる。	
257-5 P L 144	加工痕ある 剥片	VI層	①3.35 ②2.9 ③0.9 ④9.5	珪質頁岩	不定形剥片素材。 端縁に加工痕が認められる。	
257-6 P L 144	加工痕ある 剥片	VI層	①6.0 ②7.0 ③1.4 ④81.5	黒色頁岩	横長剥片素材。 一側縁に加工痕が認められる。	
257-7 P L 144	加工痕ある 剥片	VI層	①3.2 ②4.8 ③0.8 ④13.1	粗粒安山岩	横長剥片素材。 端縁に加工痕が認められる。	
257-8 P L 144	加工痕ある 剥片	VI層	①3.7 ②4.0 ③1.3 ④17.8	珪質頁岩	不定形剥片素材。 周縁に加工痕が認められる。	
257-9 P L 144	加工痕ある 剥片	VI層	①2.5 ②2.9 ③0.7 ④5.0	黒色安山岩	横長剥片素材。 一端に加工痕が認められる。	
257-10 P L 144	使用痕ある 剥片	VI層	①6.6 ②2.35 ③0.8 ④13.0	黒色安山岩	縦長剥片素材。礫面残存。 一側縁に使用痕が認められる。	
257-11 P L 144	加工痕ある 剥片	VI層	①8.1 ②15.1 ③3.05 ④253.4	黒色頁岩	横長剥片素材。礫面残存。 端縁に加工痕が認められる。	
257-12 P L 144	加工痕ある 剥片	VI層	①4.0 ②2.3 ③1.0 ④3.7	珪質頁岩	縦長剥片素材。 両側縁に僅かに加工痕が認められる。	

## 平井地区4区遺構外出土石器

挿図番号 図版番号	種別	出土位置	①最大長②最大幅 ③厚み ④重量	石 材	製作技法等の特徴	備考
258-13 P L 144	削器	VI層	①(6.5) ②5.05 ③0.9 ④33.0	黒色頁岩	縦長剥片素材。 表裏両面の周縁に加工痕が認められる。	
258-14 P L 144	加工痕ある 剥片	I～II層	①7.1 ②3.9 ③0.9 ④23.0	黒色頁岩	横長剥片素材。 二側縁に加工痕が認められる。	
258-15 P L 144	打製石斧	VI層	①(5.45)②6.1 ③1.55 ④39.1	黒色頁岩	短冊形。頭部欠損。	
258-16 P L 144	加工痕ある 剥片	VI層	①8.65 ②3.5 ③1.85 ④43.5	黒色頁岩	縦長剥片素材。礫面残存。 一側縁に僅かに加工痕が認められる。	
258-17 P L 144	加工痕ある 剥片	II層	①3.9 ②3.5 ③1.3 ④18.0	黒色安山岩	不定形剥片素材。 端縁に僅かに加工痕が認められる。	
258-18 P L 144	加工痕ある 剥片	VI層	①3.4 ②5.4 ③1.2 ④16.4	珪質頁岩	横長剥片素材。 一側縁に加工痕が認められる。	

## 平井地区7区遺構外出土石器

挿図番号 図版番号	種別	出土位置	①最大長②最大幅 ③厚み ④重量	石 材	製作技法等の特徴	備考
259-19 P L 144	加工痕ある 剥片	P F～P K -95-100	①1.9 ②1.5 ③0.55 ④1.01	黒色安山岩	平基。	
259-20 P L 144	打製石鏃	C V-92	①2.1 ②1.7 ③0.5 ④1.31	チャート	凹基無茎。先端部欠損。	
259-21 P L 144	石鏃	VI層	①2.5 ②1.0 ③0.4 ④0.93	黒色頁岩	平基有茎。茎部欠損。	
259-22 P L 144	槍先形 尖頭器	I層	①(5.8) ②3.2 ③0.8 ④19.4	黒色頁岩	先端部及び中央部から基部にかけて欠損。	
259-23 P L 144	打製石斧	C K～C P -85-90	①6.8 ②4.3 ③2.2 ④73.5	黒色頁岩	短冊形。	
259-24 P L 144	打製石斧	C K～C P -65-90	①(11.0)②5.9 ③2.3 ④200.1	黒色頁岩	短冊形。礫面残存。刃部欠損。	
259-25 P L 144	打製石斧		①(6.5) ②4.8 ③1.3 ④50.4	黒色頁岩	短冊形。頭部欠損。	
259-26 P L 144	打製石斧	I層	①10.5 ②5.1 ③2.1 ④104.9	珪質頁岩	短冊形。刃部欠損。	
259-27 P L 144	打製石斧	C R～C S -89-91	①7.1 ②3.8 ③0.9 ④28.4	黒色頁岩	撥形。	
259-28 P L 145		C O～C P -90-91	①9.4 ②4.5 ③1.8 ④70.2	黒色頁岩	横長剥片素材。 一端と端縁に加工痕が認められる。	
259-29 P L 145	打製石斧	VI層	①14.0 ②8.4 ③3.3 ④460.7	黒色頁岩	撥形。礫面残存。	
259-30 P L 145	削器	谷地	①12.4 ②8.3 ③3.05 ④340.4	黒色安山岩	縦長剥片素材。 礫面残存。礫面打面。	
260-31 P L 145	石匙		①5.5 ②7.5 ③1.1 ④37.73	黒色頁岩	横長剥片素材。横形。	
260-32 P L 145	石匙	谷地	①5.95 ②7.7 ③1.1 ④38.3	黒色頁岩	横長剥片素材。横形。	
260-33 P L 145	加工痕ある 剥片	C R～C S -89-91	①(5.2) ②4.2 ③1.0 ④20.7	黒色頁岩	縦長剥片素材。礫面残存。 一側縁に加工痕が認められる。	
260-34 P L 145	加工痕ある 剥片	C O～C P -90-91	①6.9 ②3.5 ③1.0 ④31.3	黒色頁岩	縦長剥片素材。 一側縁に加工痕が認められる。	
260-35 P L 145	加工痕ある 剥片	C R～C S -89-91	①4.6 ②2.6 ③0.95 ④9.7	黒色頁岩	横長剥片素材。礫面残存。 一側縁に僅かに加工痕が認められる。	
260-36 P L 145	加工痕ある 剥片	C R～C S -90-91	①7.6 ②3.9 ③0.65 ④20.3	粗粒安山岩	縦長剥片素材。 両側縁に僅かに加工痕が認められる。	
260-37 P L 145	使用痕ある 剥片	C T-88	①6.6 ②3.5 ③1.0 ④25.71	黒色頁岩	縦長剥片素材。 両側縁に使用痕が認められる。	
260-38 P L 145	加工痕ある 剥片	谷地	①7.0 ②4.95 ③1.1 ④33.9	粗粒安山岩	縦長剥片素材。 1縁に加工痕が認められる。	

下川田平井遺跡

挿図番号 図版番号	種別	出土位置	①最大長②最大幅 ③厚み ④重量	石 材	製 作 技 法 等 の 特 徴	備 考
260-39 P L 145	使用痕ある 剥片	谷地	①6.15 ②4.3 ③1.5 ④38.4	黒色頁岩	縦長剥片素材。 両側縁に使用痕が認められる。	
260-40 P L 145	加工痕ある 剥片	I層	①6.2 ②3.1 ③0.5 ④11.25	黒色頁岩	縦長剥片素材。 両側縁に加工痕が認められる。	
260-41 P L 145	加工痕ある 剥片		①7.7 ②3.9 ③0.9 ④22.38	黒色頁岩	一側縁に加工痕、一側縁に使用痕が認められる。	
260-42 P L 145	使用痕ある 剥片	CT~CU -91-93	①4.0 ②3.1 ③0.8 ④10.6	黒色頁岩	横長剥片素材。 礫面残存。一側縁に使用痕側認められる。	
260-43 P L 145	使用痕ある 剥片	CR~CS -89-91	①4.3 ②2.6 ③0.5 ④6.7	黒色頁岩	端縁に使用痕が認められる。	
260-44 P L 145	加工痕ある 剥片	CR~CS -89-91	①2.3 ②2.7 ③0.9 ④3.9	珪質頁岩	横長剥片素材。 一縁に加工痕が認められる。	
260-45 P L 145	加工痕ある 剥片	CR~CS -89-91	①3.7 ②1.9 ③0.7 ④3.9	黒色頁岩	横長剥片素材。 一縁に僅かに加工痕が認められる。	
260-46 P L 145	使用痕ある 剥片	CO~CP -90-91	①2.1 ②2.3 ③0.65 ④3.2	黒色頁岩	不定形剥片素材。 礫面残存。周縁に使用痕が認められる。	
260-47 P L 145	加工痕ある 剥片	CO~CP -90-91	①2.6 ②2.7 ③0.8 ④4.6	黒色頁岩	不定形剥片素材。礫面残存。 端縁に僅かに加工痕が認められる。	
261-48 P L 145	加工痕ある 剥片	CR~CS -89-91	①3.0 ②2.1 ③0.5 ④3.1	珪質頁岩	横長剥片素材。 周縁に加工痕が認められる。	
261-49 P L 145	加工痕ある 剥片	CR~CS -89-91	①2.5 ②3.3 ③0.7 ④4.3	黒色頁岩	横長剥片素材。 周縁に加工痕が認められる。	
261-50 P L 145	使用痕ある 剥片	CT~CU -91-93	①5.1 ②3.9 ③1.2 ④15.1	黒色頁岩	横長剥片素材。 一側縁に使用痕が認められる。	
261-51 P L 145	使用痕ある 剥片	谷地	①3.3 ②4.1 ③0.8 ④8.3	黒色頁岩	横長剥片素材。 端縁に使用痕が認められる。	
261-52 P L 145	加工痕ある 剥片	CO~CP -90-91	①4.1 ②4.5 ③0.9 ④17.9	黒色頁岩	横長剥片素材。 端縁に加工痕が認められる。	
261-53 P L 145	加工痕ある 剥片	CT~CU -91-93	①4.8 ②5.6 ③1.3 ④44.5	黒色頁岩	縦長剥片素材。礫面残存。 一側縁に加工痕が認められる。	
261-54 P L 145	加工痕ある 剥片	CT~CU -91-93	①4.8 ②4.5 ③1.2 ④27.8	黒色頁岩	横長剥片素材。 表面の周縁に加工痕が認められる。	
261-55 P L 145	使用痕ある 剥片	CR~CS -89-91	①2.5 ②3.3 ③0.4 ④4.8	黒色頁岩	縦長剥片素材。 一側縁に使用痕が認められる。	
261-56 P L 145	使用痕ある 剥片	CR~CS -89-91	①5.6 ②5.1 ③1.1 ④36.2	黒色頁岩	縦長剥片素材。 一縁に使用痕が認められる。	
261-57 P L 145	使用痕ある 剥片	CT~CS -89-91	①3.6 ②2.4 ③0.5 ④3.8	黒色頁岩	縦長剥片素材。礫面残存。 両側縁に使用痕が認められる。	
261-58 P L 145	加工痕ある 剥片	CO~CP -90-91	①4.9 ②5.3 ③1.7 ④34.3	黒色頁岩	不定形剥片素材。礫面残存。 一側縁に僅かに加工痕が認められる。	
261-59 P L 145	加工痕ある 剥片	I層	①7.2 ②7.2 ③1.3 ④70.29	黒色頁岩	不定形剥片素材。礫面残存。 一側縁に加工痕が僅かに認められる。	
261-60 P L 145	使用痕ある 剥片	CT~CU -91-93	①3.4 ②1.5 ③0.5 ④2.3	珪質頁岩	横長剥片素材。 一縁に使用痕が認められる。	
261-61 P L 145	使用痕ある 剥片	CT~CU -91-93	①7.2 ②7.6 ③1.7 ④67.8	黒色頁岩	縦長剥片素材。 良側縁に使用痕が認められる。	
261-62 P L 145	使用痕ある 剥片	CT~CU -91-93	①5.5 ②3.5 ③1.1 ④19.5	珪質頁岩	横長剥片素材。 一縁に使用痕が認められる。	
261-63 P L 145	使用痕ある 剥片	谷地	①7.0 ②4.9 ③1.55 ④30.5	黒色頁岩	縦長剥片素材。 両側縁に使用痕が認められる。	
261-64 P L 145	使用痕ある 剥片	CO~CP -90-91	①5.6 ②3.9 ③0.8 ④16.9	黒色頁岩	縦長剥片素材。 一側縁に使用痕が認められる。	
261-65 P L 146	使用痕ある 剥片	CO~CP -90-91	①3.8 ②2.2 ③0.45 ④4.9	黒色頁岩	縦長剥片素材。 一側縁に僅かに使用痕が認められる。	
261-66 P L 146	加工痕ある 剥片	CT~CU -91-93	①2.4 ②4.9 ③1.0 ④8.9	黒色頁岩	横長剥片素材。 端縁に僅かに加工痕が認められる。	
262-67 P L 146	使用痕ある 剥片	CR~CS -89-91	①2.7 ②2.8 ③0.4 ④3.3	黒色頁岩	縦長剥片素材。 両側縁に使用痕が認められる。	
262-68 P L 146	加工痕ある 剥片	CO~CP -90-91	①4.4 ②3.3 ③1.1 ④8.3	黒色頁岩	縦長剥片素材。 両側縁に加工痕が認められる。	

挿図番号 図版番号	種別	出土位置	①最大長②最大幅 ③厚み ④重量	石 材	製 作 技 法 等 の 特 徴	備 考
262-69 P L 146	加工痕ある 剥片	C O ~ C P -90~91	①2.1 ②3.3 ③0.7 ④3.5	黒色頁岩	横長剥片素材。 一側縁に加工痕が認められる。	
262-70 P L 146	加工痕ある 剥片	C T ~ C U -91~93	①4.8 ②3.1 ③0.8 ④12.7	珪質頁岩	縦長剥片素材。 一側縁に僅かに加工痕が認められる。	
262-71 P L 146	使用痕ある 剥片	C O ~ C P -90~91	①4.9 ②5.05 ③1.2 ④25.7	黒色頁岩	不定形剥片素材。 端縁に使用痕が認められる。	
262-72 P L 146	使用痕ある 剥片	C O ~ C P -90~91	①(3.2) ②2.7 ③0.6 ④6.3	黒色頁岩	縦長剥片素材。 一側縁に使用痕が認められる。	
262-73 P L 146	加工痕ある 剥片	C T ~ C U -91~93	①3.4 ②2.8 ③0.45 ④3.9	黒色頁岩	縦長剥片素材。 両側縁に僅かに加工痕が認められる。	
262-74 P L 146	使用痕ある 剥片	C O ~ C P -90~91	①2.8 ②3.5 ③0.6 ④6.5	黒色頁岩	横長剥片素材。 端縁に使用痕が認められる。	
262-75 P L 146	使用痕ある 剥片	C R ~ C P -90~91	①3.5 ②3.0 ③0.6 ④6.5	黒色頁岩	縦長剥片素材。 両側縁に使用痕が認められる。	
262-76 P L 146	石核	C R ~ C S -90~91	①4.5 ②4.8 ③2.1 ④49.4	黒色安山岩	周縁からの求心的剥離がおこなわれている。	
262-77 P L 146	使用痕ある 剥片	C T ~ C U -91~93	①5.3 ②4.1 ③0.9 ④21.1	黒色安山岩	一側縁に使用痕が認められる。	
262-78 P L 146	使用痕ある 剥片	C T ~ C U -91~93	①4.5 ②2.0 ③1.4 ④11.6	珪質頁岩	横長剥片素材。 一縁に僅かに使用痕が認められる。	
262-79 P L 146	加工痕ある 剥片	I 層	①6.6 ②5.6 ③1.1 ④35.99	黒色頁岩	不定形剥片素材。 一側縁に僅かに加工痕が認められる。	
262-80 P L 146	加工痕ある 剥片	I 層	①5.8 ②5.9 ③0.8 ④49.0	黒色頁岩	不定形剥片素材。礫面残存。 一側縁に加工痕が認められる。	
262-81 P L 146	加工痕ある 剥片	C R ~ C S -90~91	①5.3 ②8.7 ③1.5 ④60.2	黒色安山岩	横長剥片素材。 端縁に僅かに加工痕が認められる。	
262-82 P L 146	削器	C O ~ C P -90~91	①5.0 ②7.1 ③1.6 ④58.6	黒色頁岩	横長剥片素材。礫面残存。 表裏両面の周縁に加工痕が認められる。	
262-83 P L 146	加工痕ある 剥片	B H ~ B I -63~64	①7.8 ②9.35 ③2.3 ④179.0	黒色頁岩	横長剥片素材。礫面残存。 端縁に加工痕が認められる。	
263-84 P L 146	石核	C L ~ C N -86~87	①13.5 ②13.6 ③6.5 ④1580.0	黒色頁岩	分割礫素材。礫面残存。表裏両面の周縁から中心に向けて剥離が施されている。	
263-85 P L 146	加工痕ある 剥片	C O ~ C P -90~91	①6.4 ②8.2 ③2.6 ④156.0	黒色頁岩	横長剥片素材。礫面残存。 端縁に僅かに加工痕が認められる。	
263-86 P L 146	石核	VI 層	①10.9 ②11.1 ③10.4 ④1536.7	黒色頁岩	礫面残存。表裏両面の周縁から中心にむけて剥離が施されている。	
263-87 P L 146	基石?	P G -96	①1.8 ②1.7 ③0.6 ④2.91	頁岩		
263-88 P L 146	くぼみ石	I 層	①10.6 ②8.3 ③5.6 ④692.0	粗粒安山岩	表面のほぼ中央にくぼみ痕が認められる。	
263-89 P L 146	石製品	I 層	①4.3 ②1.8 ③0.8 ④11.6	蛇紋岩	狛犬。	



(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団報告書第147集

**下川田下原遺跡  
下川田平井遺跡**

一般国道17号(沼田バイパス)改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

1993年3月16日 印刷

1993年3月26日 発行

編集／財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

群馬県勢多郡北橋村大字下箱田784番地の2

電話 (0279) 52-2511(代表)

発行／群馬県考古資料普及会

群馬県勢多郡北橋村大字下箱田784番地の2

電話 (0279) 52-2511(代表)

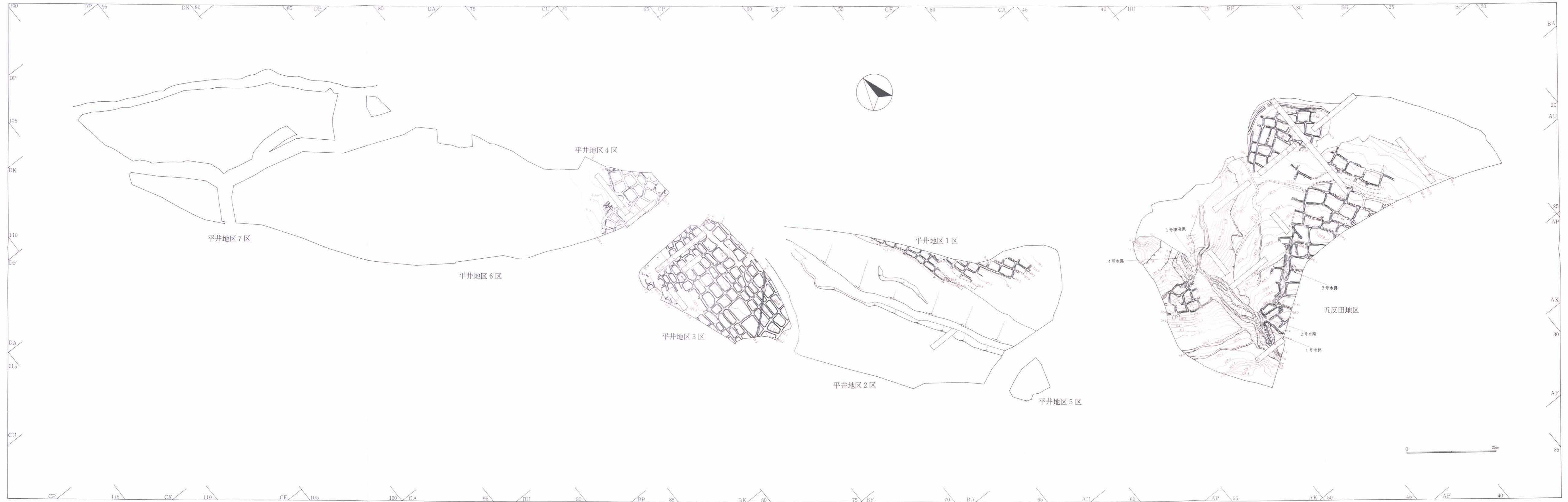
印刷／株式会社 前橋印刷所





付図1 下川田下原遺跡全体図





付図2 下川田平井遺跡As—B層下水田跡全体図





付図3 下川田平井遺跡全体図





付図4 下川田下原遺跡城郭跡及び周辺現況図